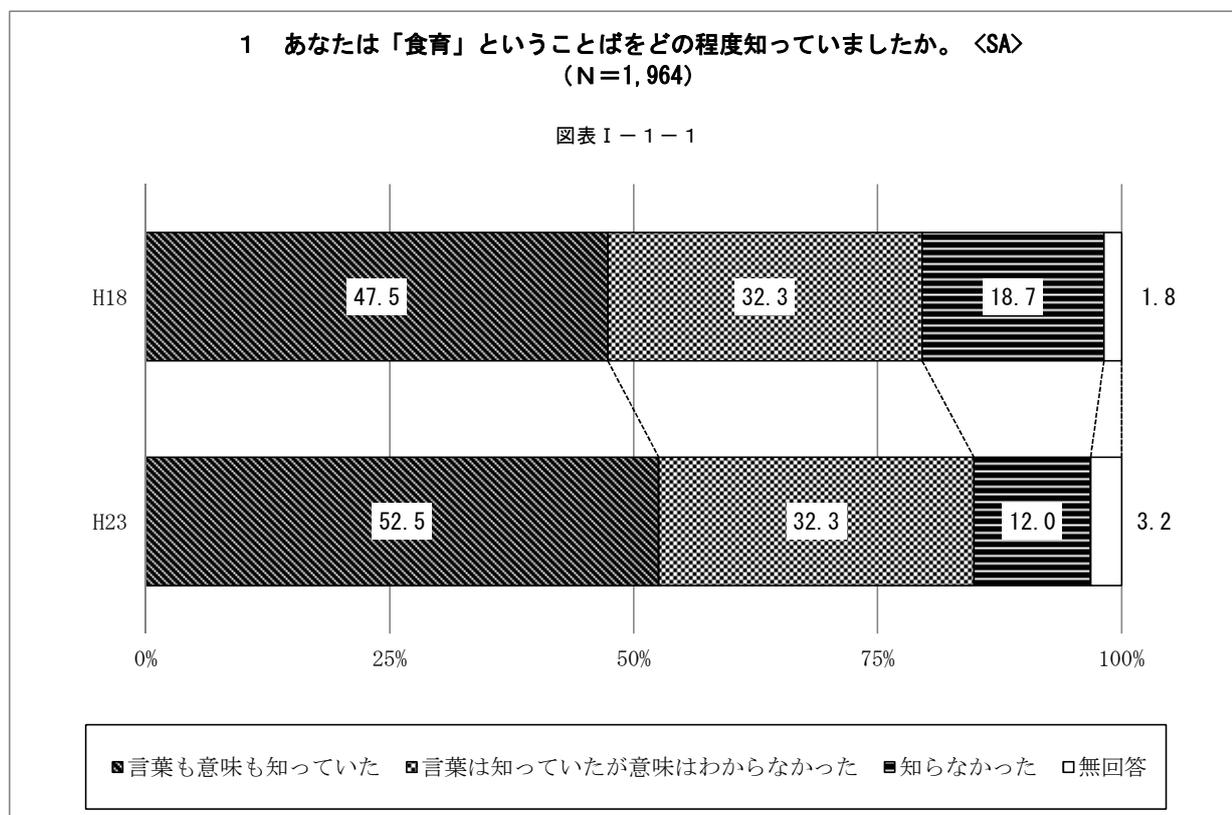


# I 「食育」について

## (1) 食育の認知度

1 あなたは「食育」という言葉をどの程度知っていましたか。

◆「知っていた」人が8割強

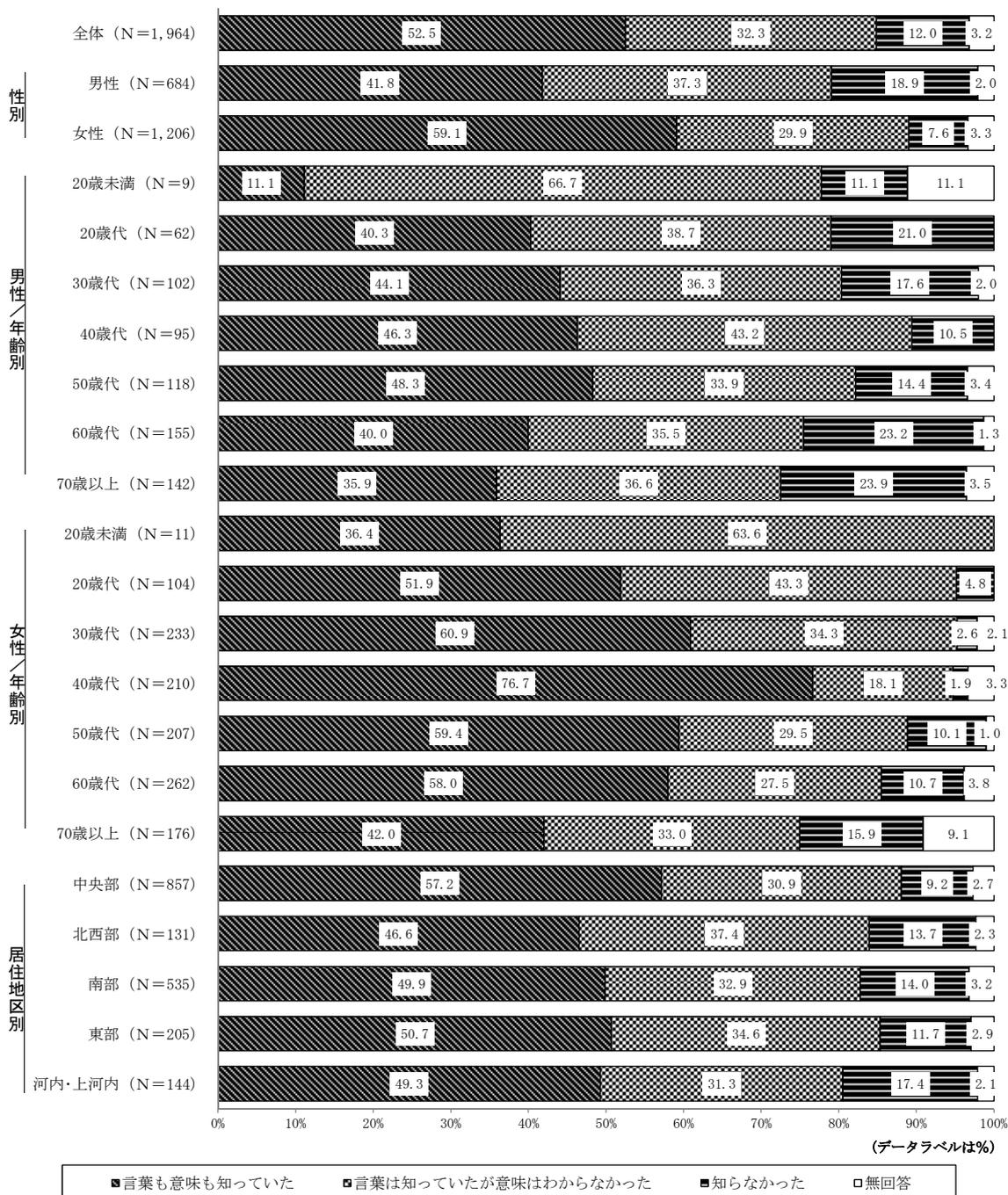


「食育」という言葉をどの程度知っているか聞いたところ、半数以上が「言葉も意味も知っていた」(52.5%)と回答している。「言葉は知っていたが意味はわからなかった」(32.3%)と合わせると「知っていた」(85.8%)は8割強に上り、平成18年度調査に比べ10%ほど増加し、「食育」という言葉の認知度が増加していることがわかる。(図表 I-1-1)

【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、「知っていた」は女性 59.1%、男性 41.8%で、女性の方が若干多くなっている。  
 性・年齢別では、「知っていた」は女性の 40 歳代が 76.7%と突出しており、男性では 50 歳代が最も高くなっている。逆に、男性の「20 歳未満」は 11.1%と、最も低くなっている。  
 居住地区別は、「知っていた」がもっと高いのは「中央部」で 57.2%、「知らなかった」が高いのは「河内・上河内」で 17.2%となっている。(図表 I-1-2)

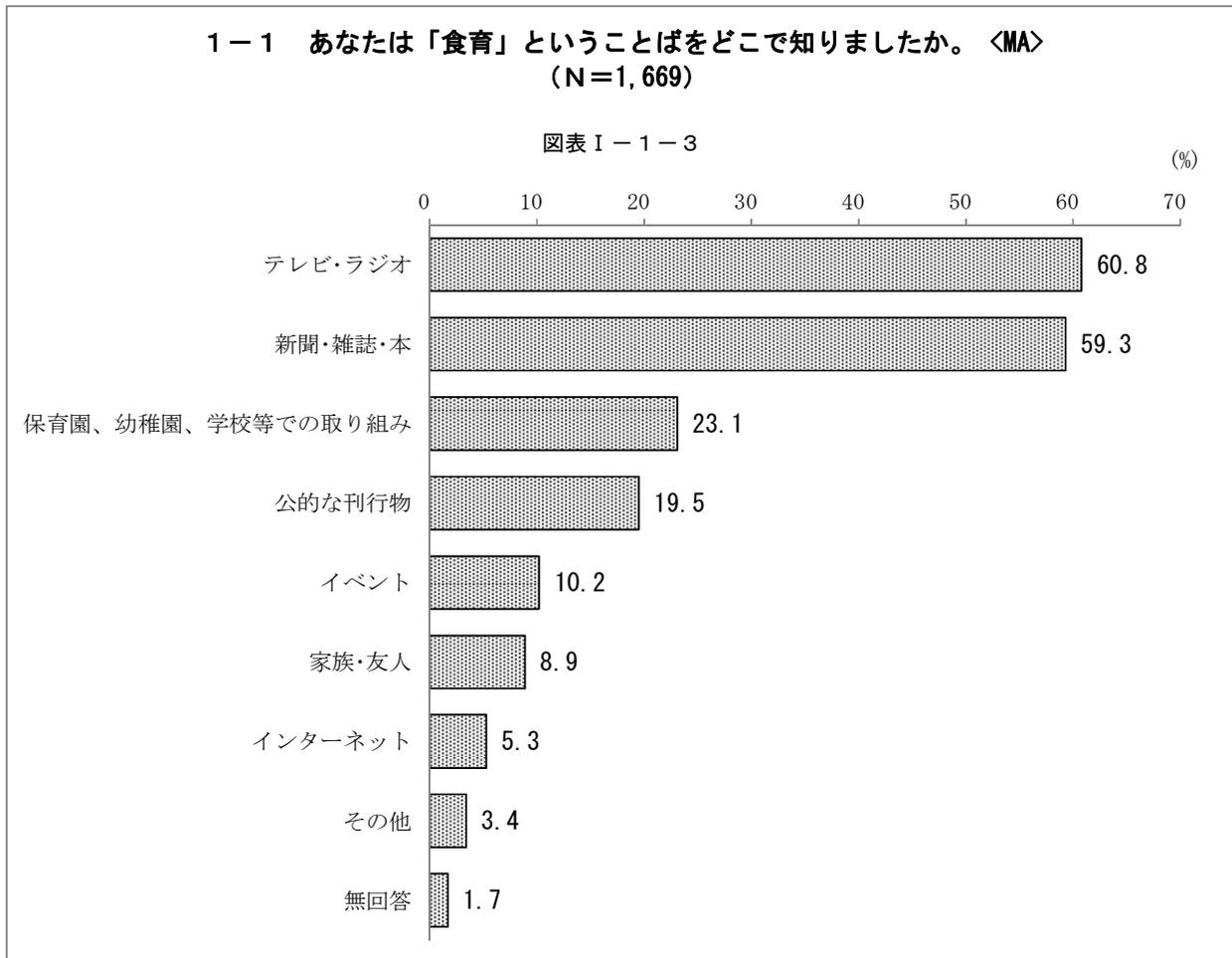
図表 I-1-2



## (1-1) 言葉を知った場所・媒体

1-1 あなたは「食育」という言葉をどこで知りましたか。

◆「テレビ・ラジオ」、「新聞・雑誌・本」が約6割



「食育」という言葉を、どこで知っているかを聞いたところ、「テレビ・ラジオ」(60.8%)、「新聞・雑誌・本」(59.3%)が約6割に上っている。以下、「保育園、幼稚園、学校等での取組」(23.1%)、「公的な刊行物」(19.5%)と続いている。(図表 I-1-3)

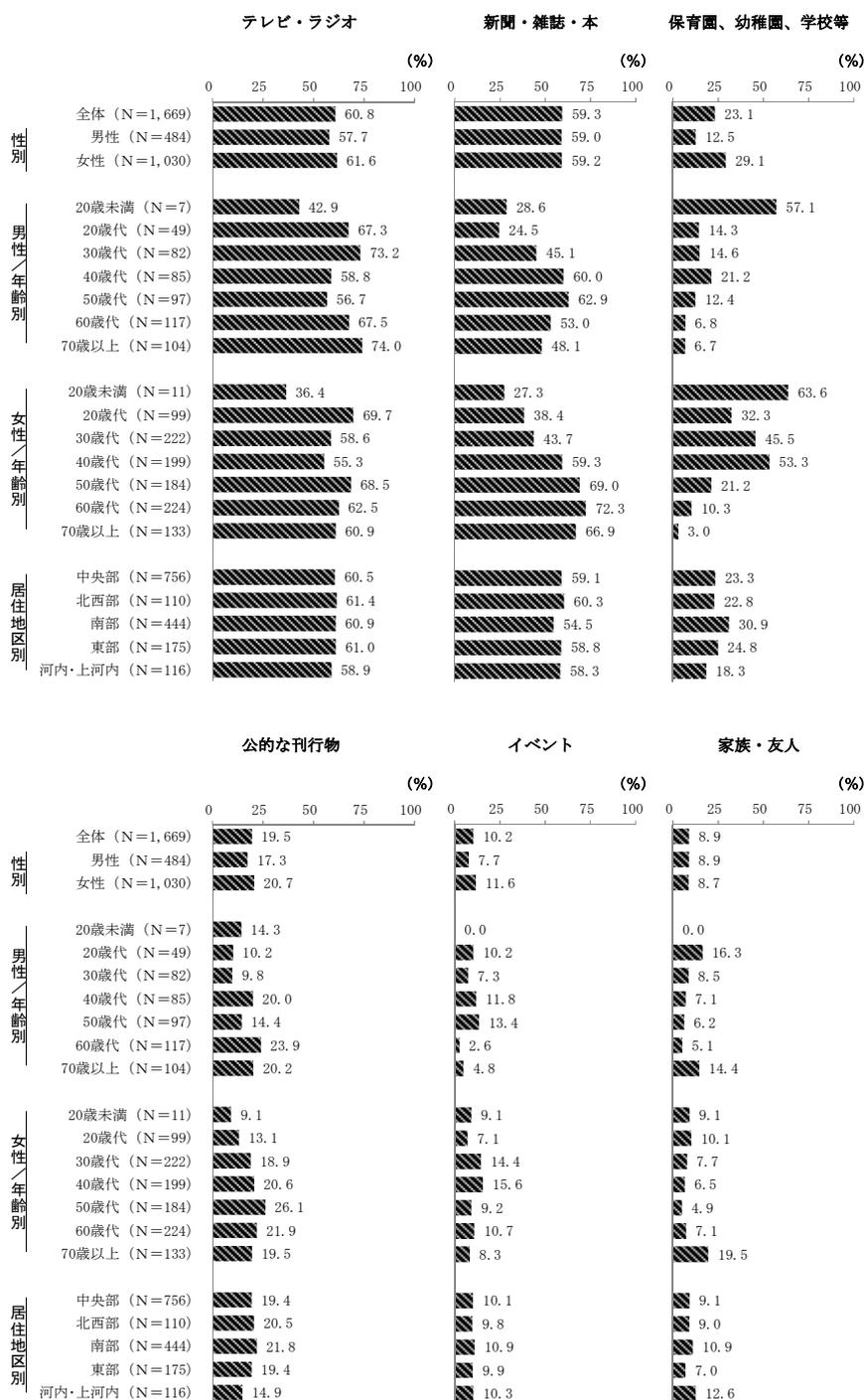
【性別／性・年齢別／地区別】

上位6項目を性別で見ると、「保育園、幼稚園、学校等」で女性29.1%、男性12.5%と、最も開きが大きくなっているが、他の項目においては拮抗している。

性・年齢別では、男性は全体的に「テレビ・ラジオ」の割合が高く、女性は「新聞・雑誌・本」の割合が高くなっている。特に、「60歳代」の女性は、72.3%と高くなっている。また、20歳未満では、「保育園、幼稚園、学校等」が、男女ともに突出している。

居住地区別では、特に大きな開きが見られないが、「南部」で、「保育園、幼稚園、学校等」の割合が他地区に比べ高くなっている。(図表I-1-4)

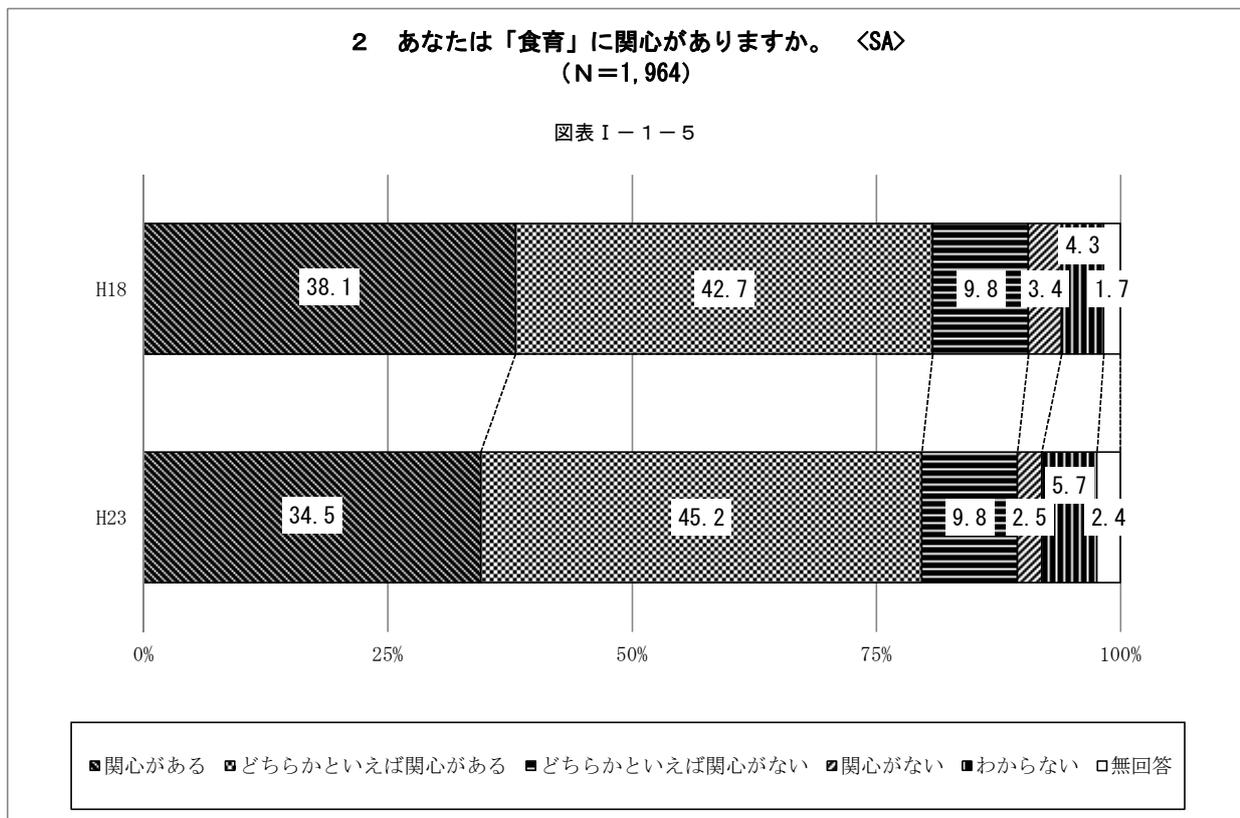
図表I-1-4 (上位6項目)



## (2) 食育関心度

2 あなたは「食育」に関心がありますか。

◆「関心がある」が約8割



「食育」への関心度は、「関心がある」(34.5%)、「どちらかといえば関心がある」(45.2%)と、合わせると79.7%となるが、平成18年度調査では80%を超えており、微減となっている。「関心がない」(2.5%)、「どちらかといえば関心がない」(9.8%)を合わせた『関心がない』は12.3%となっており、平成18年度調査(13.2%)と比べ、こちらも微減となっている。(図表 I - 1 - 5)

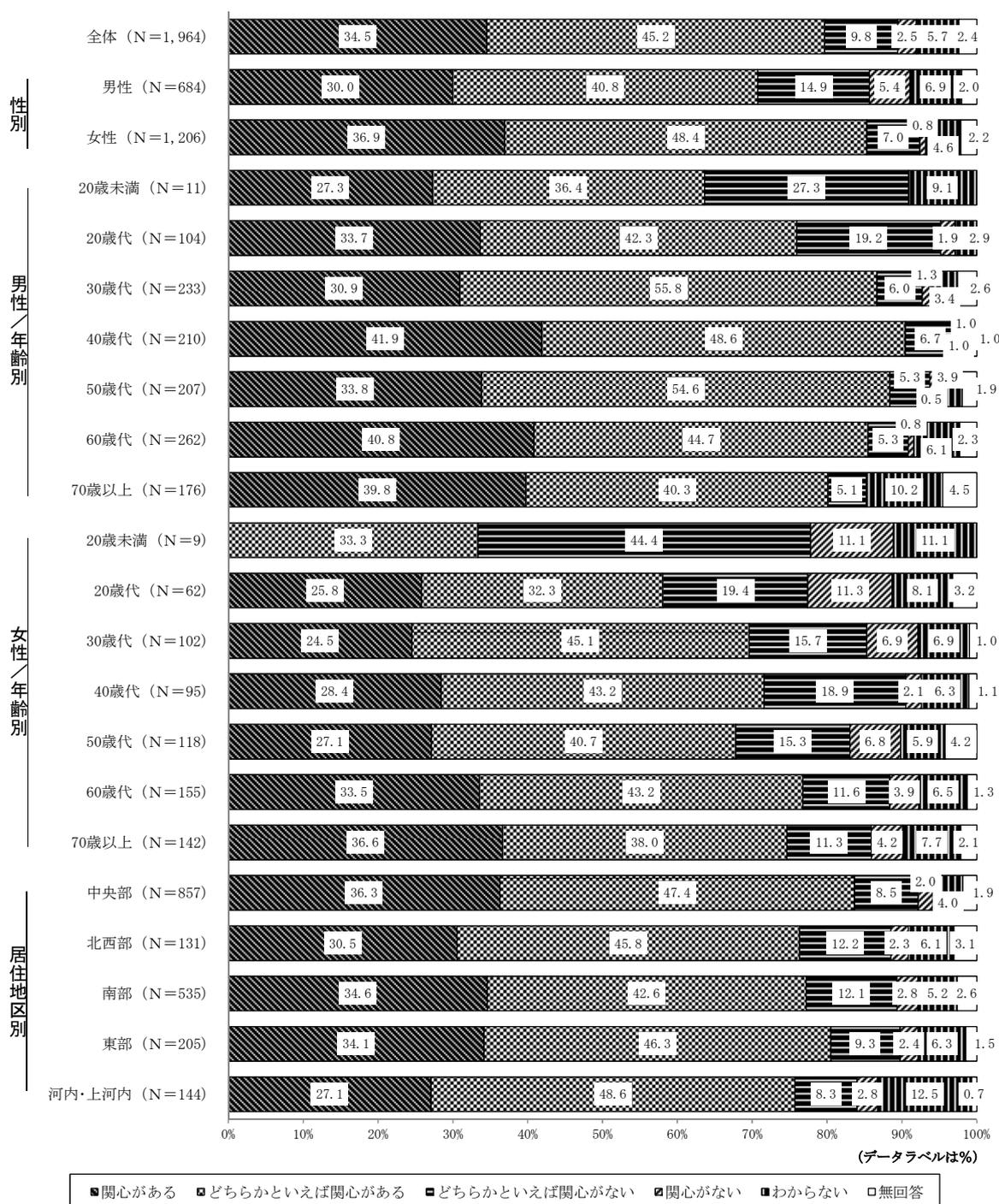
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、女性の「関心がある」（「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」の合計）が85.3%、男性では70.8%と、女性の方が15%以上高くなっている。

性・年齢別では、「40歳代」の男性が90.5%と特に高く、女性では「60歳代」、「70歳代」が高くなっている。

居住地区別は、「中央部」（83.7%）、「東部」（80.4%）で「関心がある」の割合が高く、80%を超えている。（図表 I - 1 - 6）

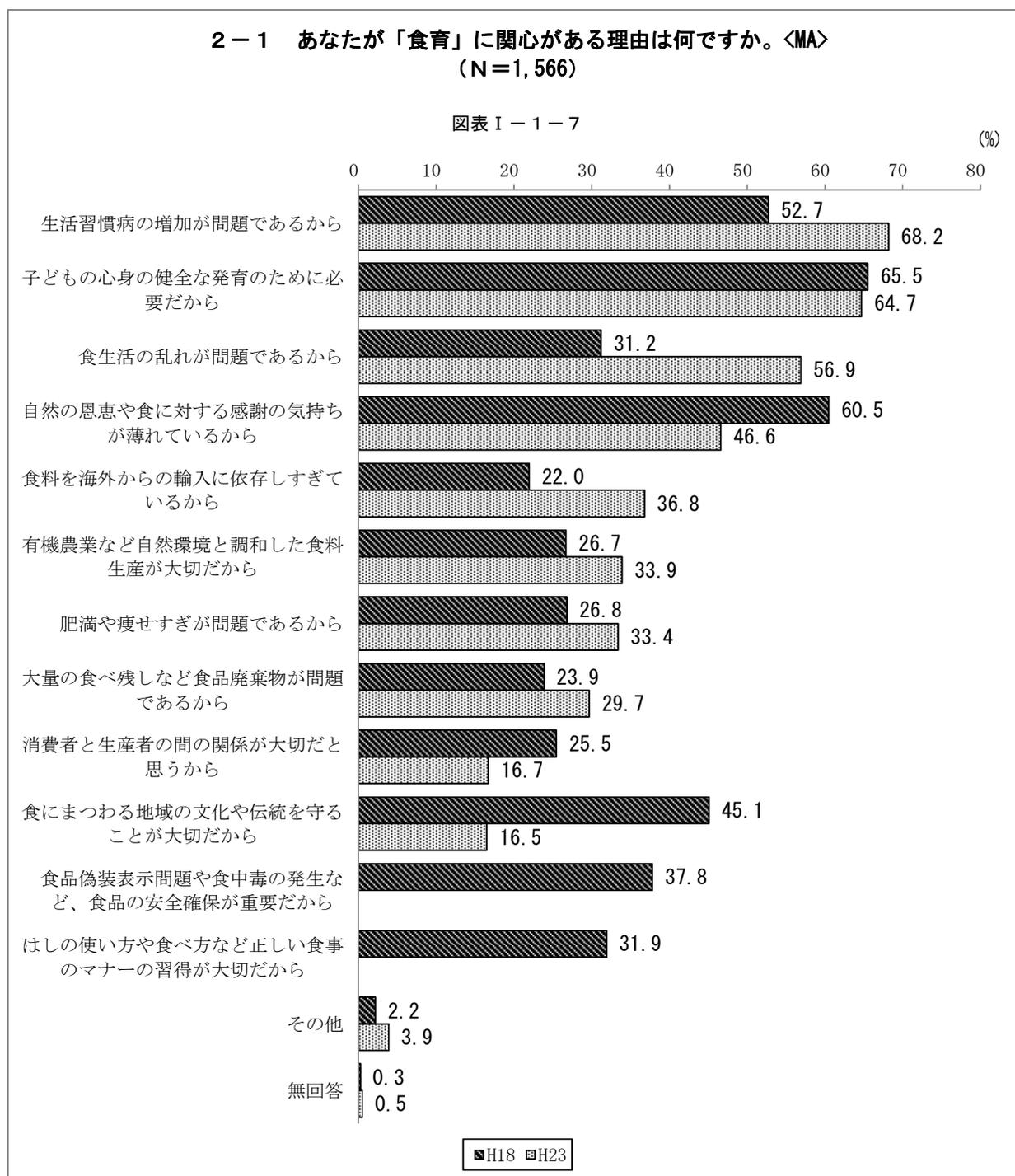
図表 I - 1 - 6



## (2-1) 関心がある理由

2-1 あなたが「食育」に関心がある理由は何ですか。

◆「生活習慣病の増加が問題であるから」が約7割



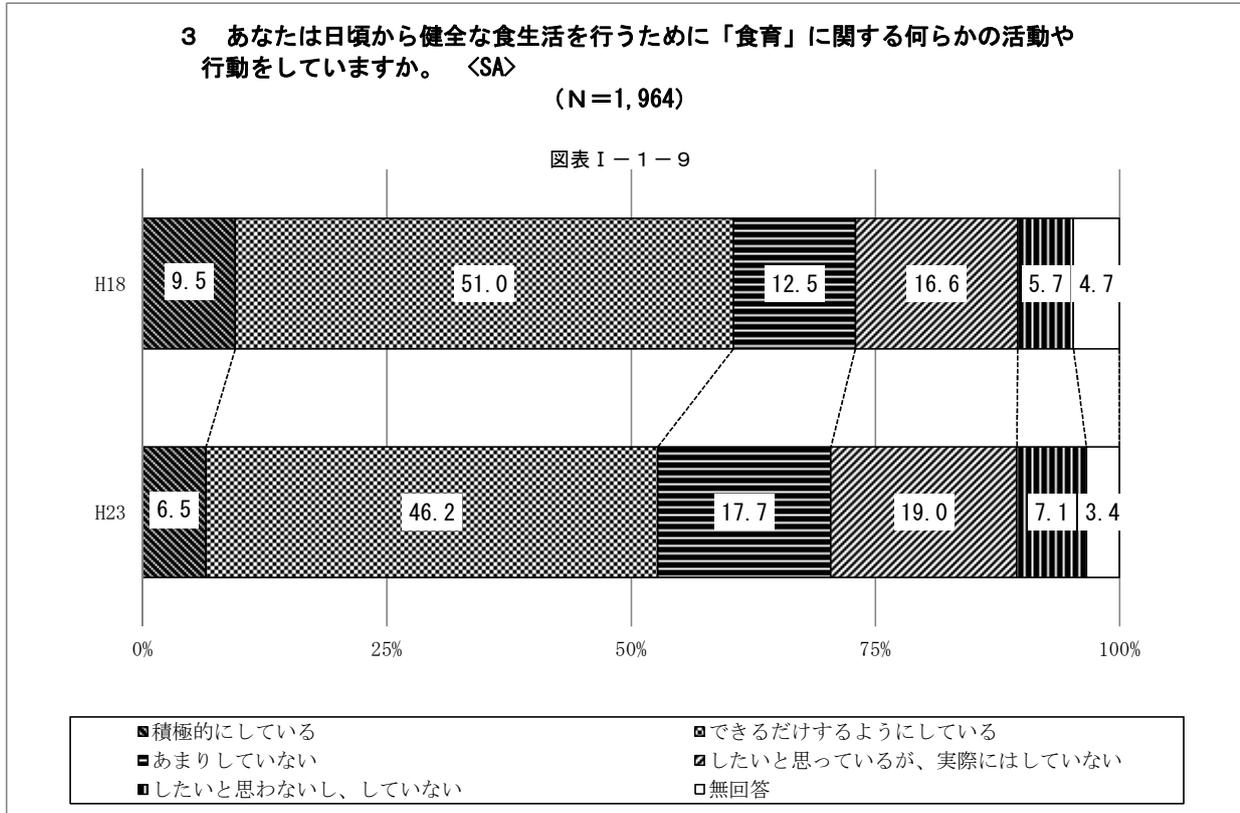
平成18年度調査では「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」(65.5%)が第一位であったのに対し、本調査では「生活習慣病の増加が問題であるから」(68.2%)が第一位となっている。以下、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」(64.7%)、「食生活の乱れが問題であるから」(56.9%)と続いている。(図表I-1-7)



### (3) 食育実行度

3 あなたは日頃から健全な食生活を行うために「食育」に関する何らかの活動や行動をしていますか。

◆「できるだけするようにしている」が4割台半ば



「食育」に関する何らかの活動や行動を「積極的にしている」(6.5%)人は、平成18年度調査では9.5%であったのに対し、本調査では6.5%と減少している。また、「できるだけするようにしている」(46.2%)も、平成18年度調査では51.0%と半数を超えているのに対し、本調査では46.2%と減少している。逆に、「あまりしていない」(17.7%)、「したいと思っているが、実際にはしていない」(19.0%)が微増となっている。(図表 I-1-9)

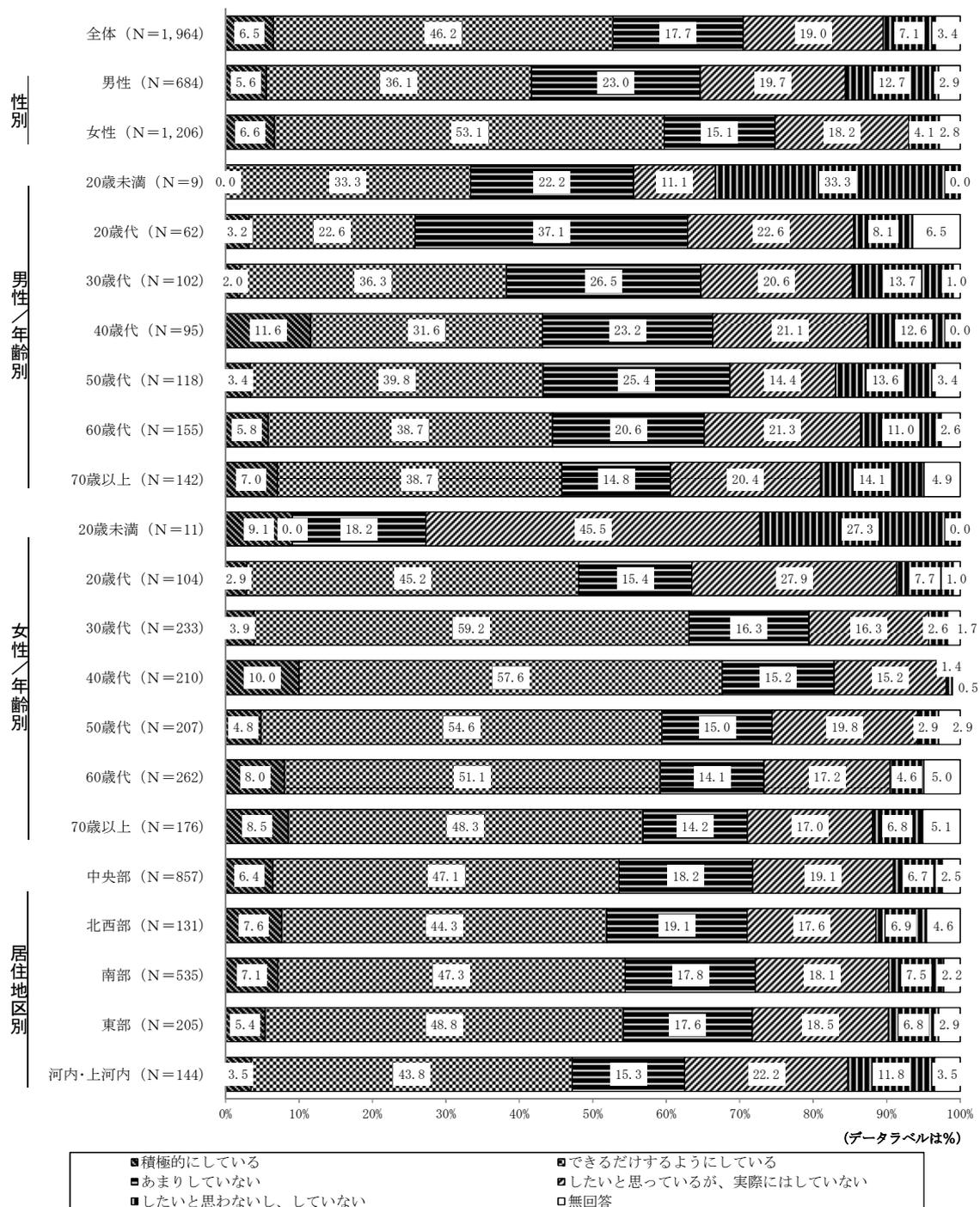
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、「できるだけするようにしている」は女性が53.1%と半数を超え、男性より17%高くなっている。

性・年齢別では、男女とも「40歳代」で「積極的にしている」の割合が高くなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」で「したいと思わないし、していない」(11.8%)の割合が高く、一方で「関心がある」の割合が低くなっている。(図表I-1-10)

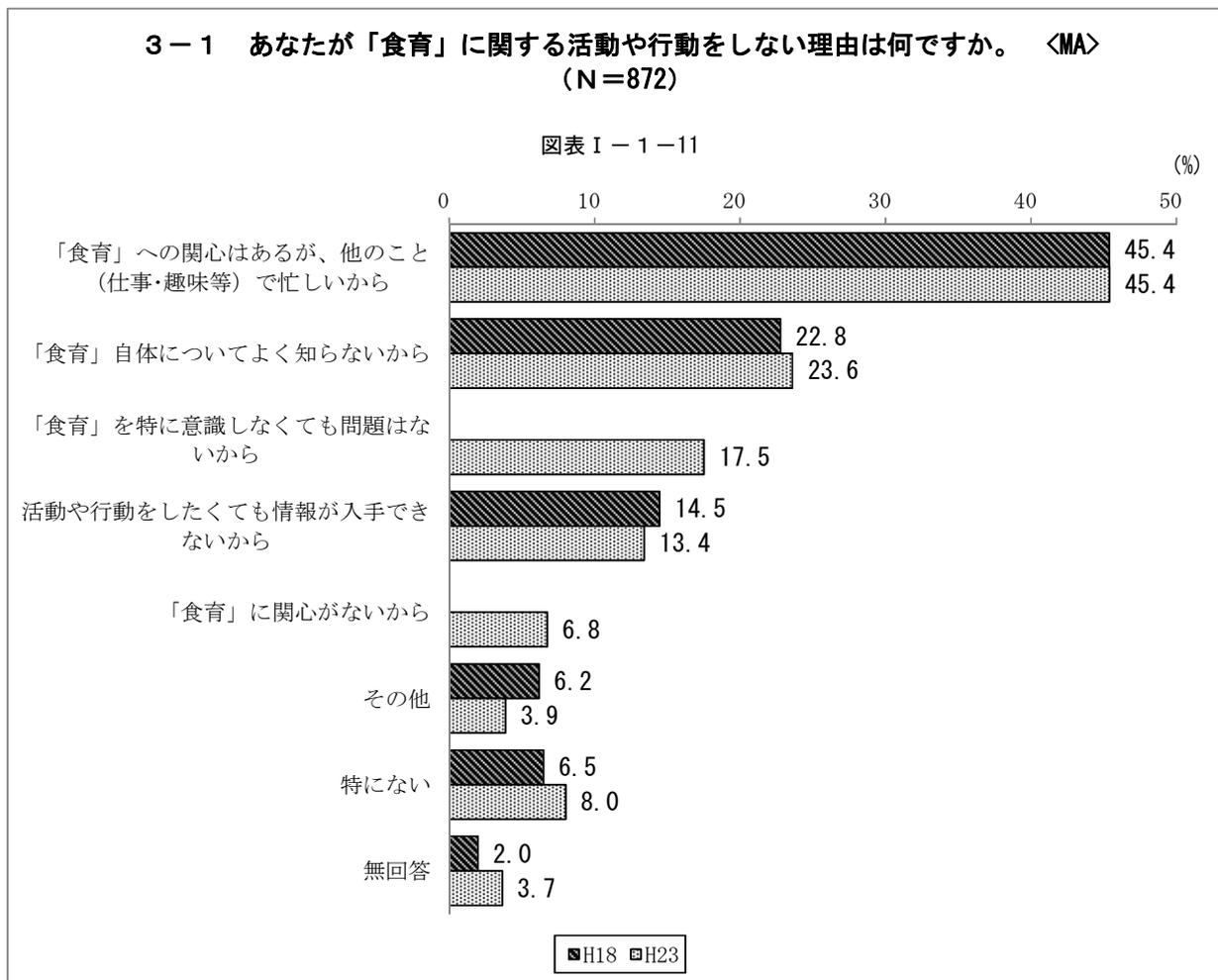
図表 I - 1 - 10



### (3-1) 非実行の理由

3-1 あなたが「食育」に関する活動や行動をしない理由は何ですか。

◆「関心はあるが、他のこと（仕事・趣味等）に忙しい」が4割台半ば



前問で「していない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「「食育」や生活への関心はあるが、他のこと（仕事・趣味等）で忙しいから」（45.4%）と、50%近くに上っており、平成18年度調査と同数となっている。以下、「「食育」自体についてよく知らないから」（23.6%）、「「食育」を特に意識しなくても問題はないから」（17.5%）となっている。（図表 I-1-11）

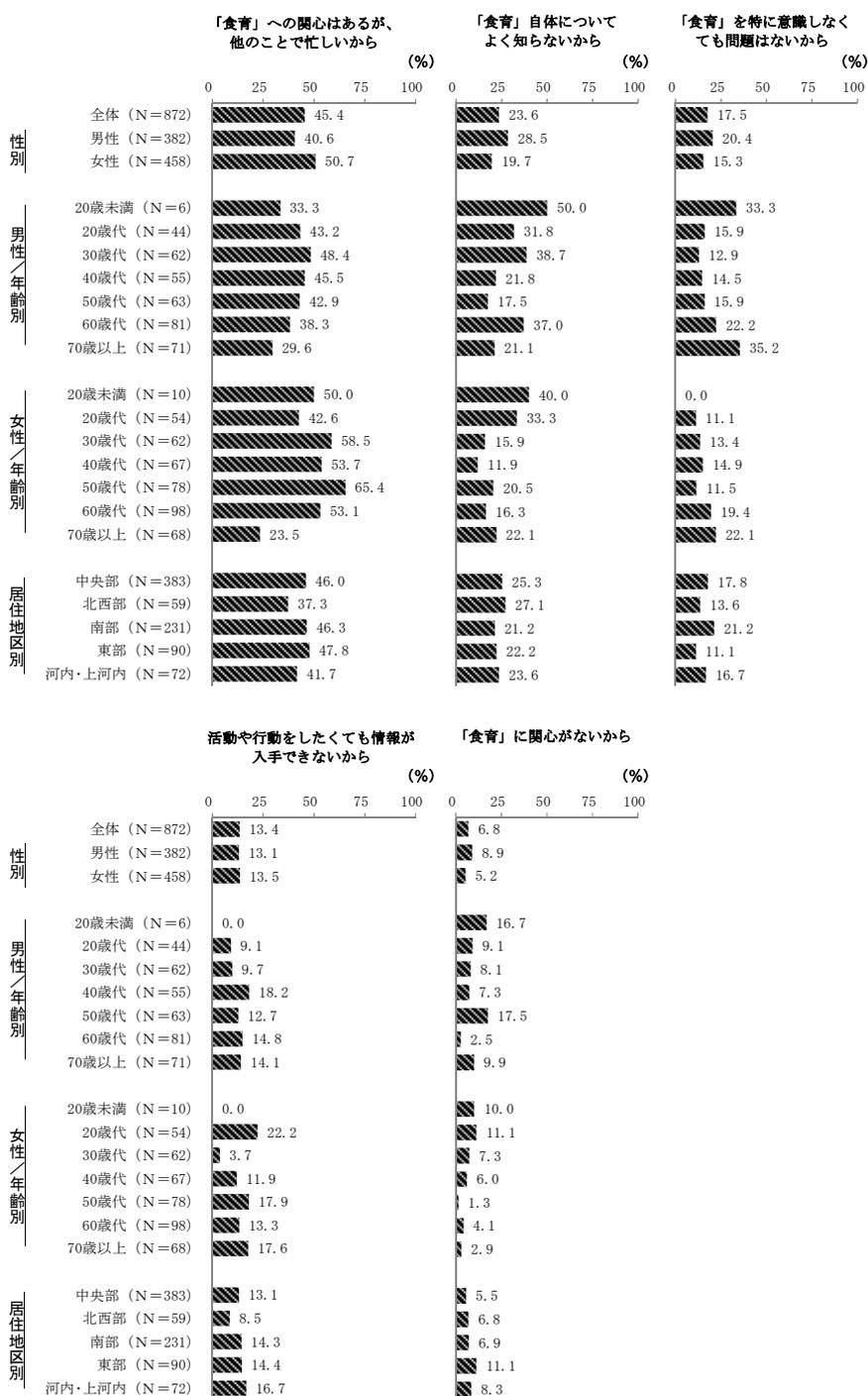
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「食育」への関心はあるが、他のことで忙しいから」が「女性」で50.7%と高くなっており、「男性」と10%程度差がある。

性・年齢別で見ると、「20歳代」から「50歳代」で「食育」への関心はあるが、他のことで忙しいから」が高くなっており、女性では「50歳代」、男性では「30歳代」が高くなっている。男女とも「20歳未満」では「食育」自体についてよく知らないから」、「70歳以上」の男性の「食育」を特に意識しなくても問題はないから」が高くなっている。

居住地区別は、「食育」への関心はあるが、他のことで忙しいから」で、「北西部」の低くなっている他は、大きな差は見られない。(図表 I - 1 - 12)

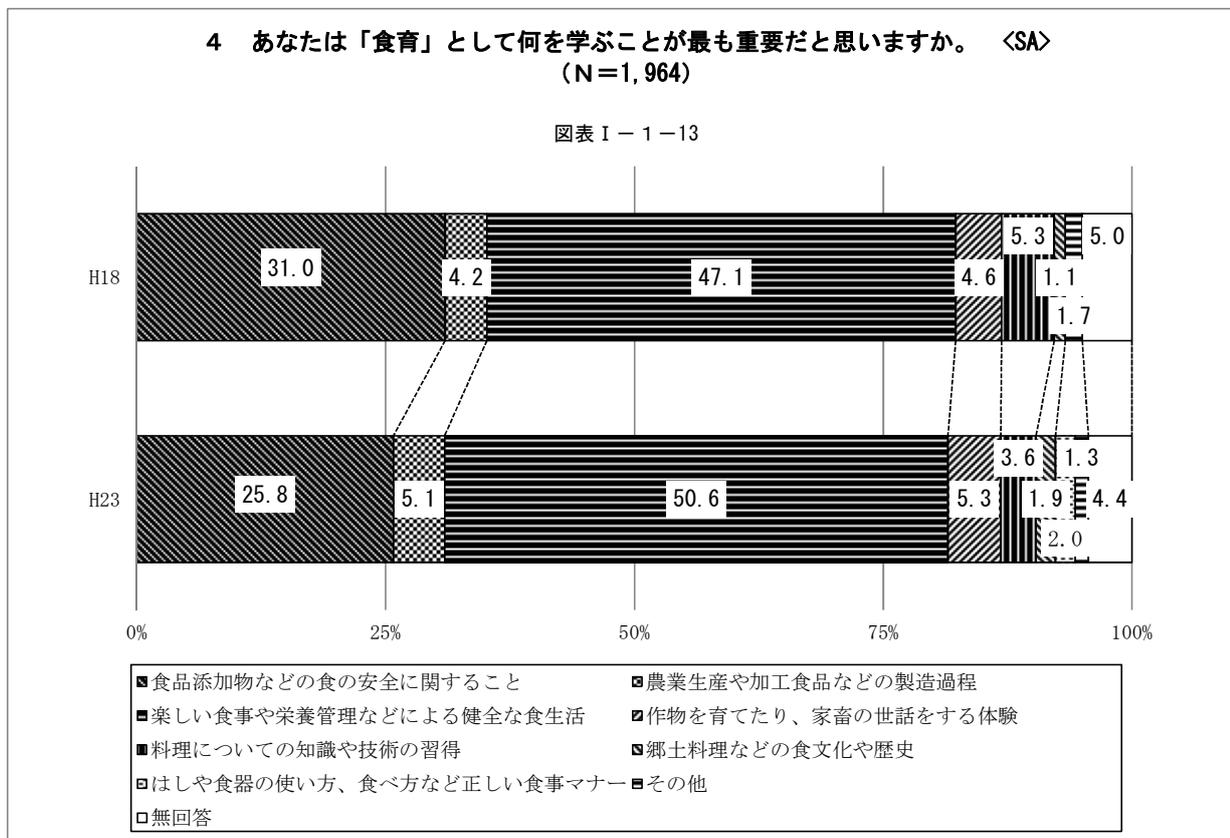
図表 I - 1 - 12



#### (4) 食育の最重要点

4 あなたは「食育」として何を学ぶことが最も重要だと思いますか。

◆「楽しい食事や栄養管理などによる健全な食生活」が最重要



「食育」として何を学ぶことが最も重要だと思うか聞いたところ、「楽しい食事や栄養管理などによる健全な食生活」(50.6%)が半数を超え、最も高くなっている。次いで、「食品添加物などの食の安全に関すること」(31.0%)となっている。(図表 I - 1 - 13)

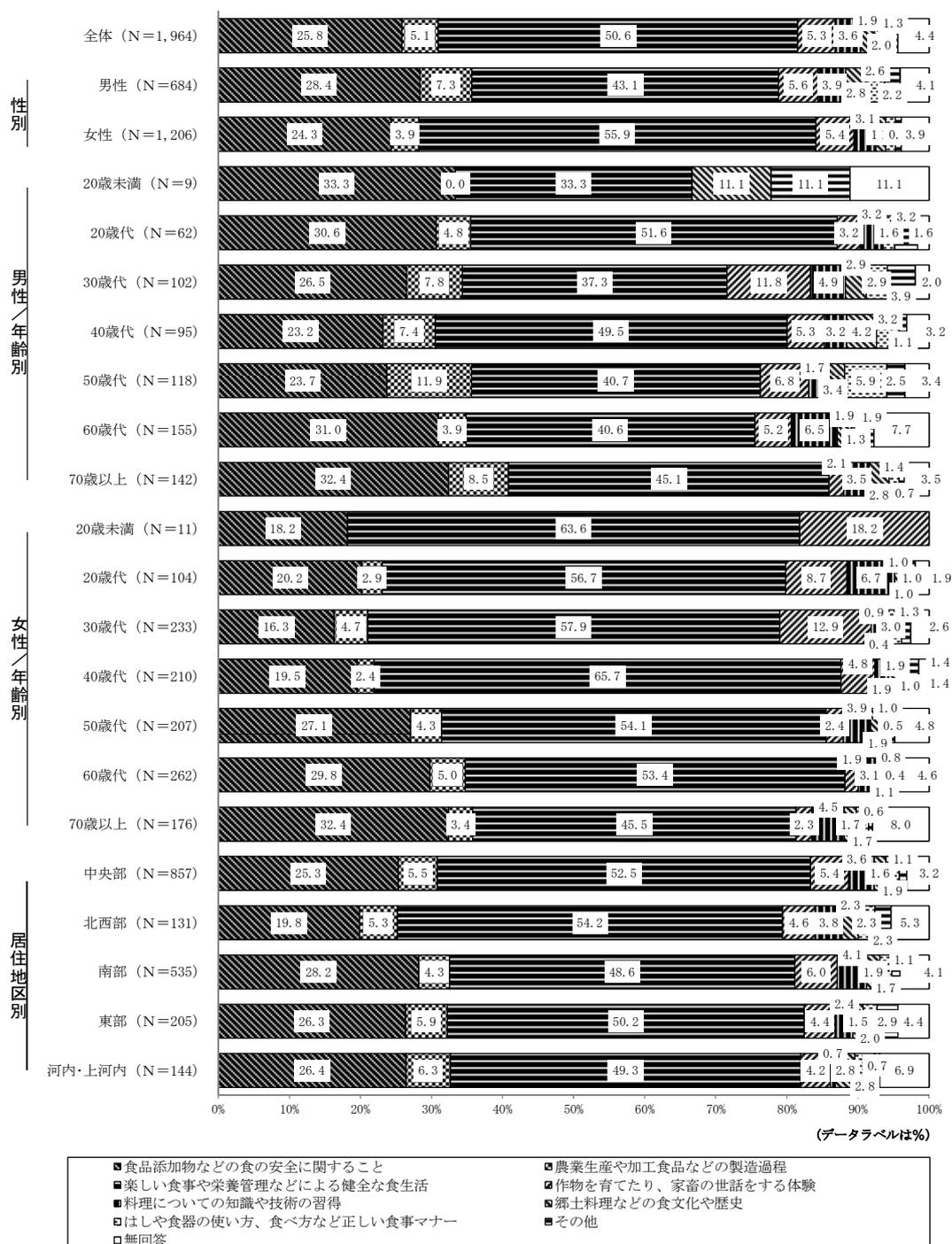
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「食品添加物などの食の安全に関すること」「楽しい食事や栄養管理などによる健全な食生活」が男女ともに高くなっているが、女性の方が12%以上高くなっている。

性・年齢別では、男女・全年齢で「楽しい食事や栄養管理などによる健全な食生活」が最も高くなっており、女性では45～65%程度となっている。「食品添加物などの食の安全に関すること」は、50歳代以上の女性で割合が高くなっている。

居住地区別では、「北西部」で「食品添加物などの食の安全に関すること」(19.8%)の割合が低くなっている。(図表I-1-14)

図表 I - 1 - 14

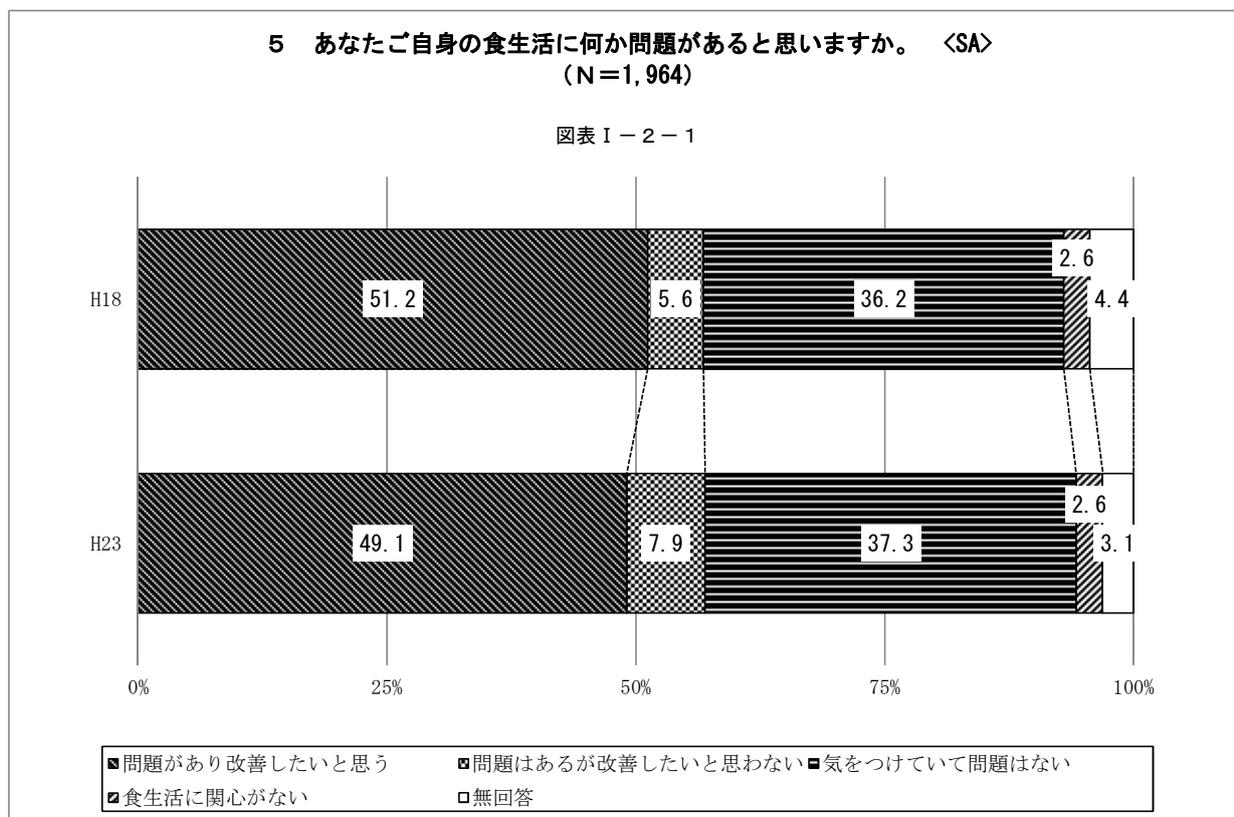


## II 食生活について

### (1) 食生活の問題点の有無

5 あなたはご自身の食生活に何か問題があると思いますか。

◆「問題はあるが改善したいと思わない」、「気をつけていて問題はない」が増加



自分の食生活に問題があるか聞いたところ、「問題があり改善したいと思う」(49.1%)が約半数を占めているが、平成18年度調査から約5%減少している。逆に、「問題はあるが改善したいと思わない」(7.9%)、「気をつけていて問題はない」(37.3%)が微増となっている。(図表 I - 2 - 1)

【性別／性・年齢別／地区別】

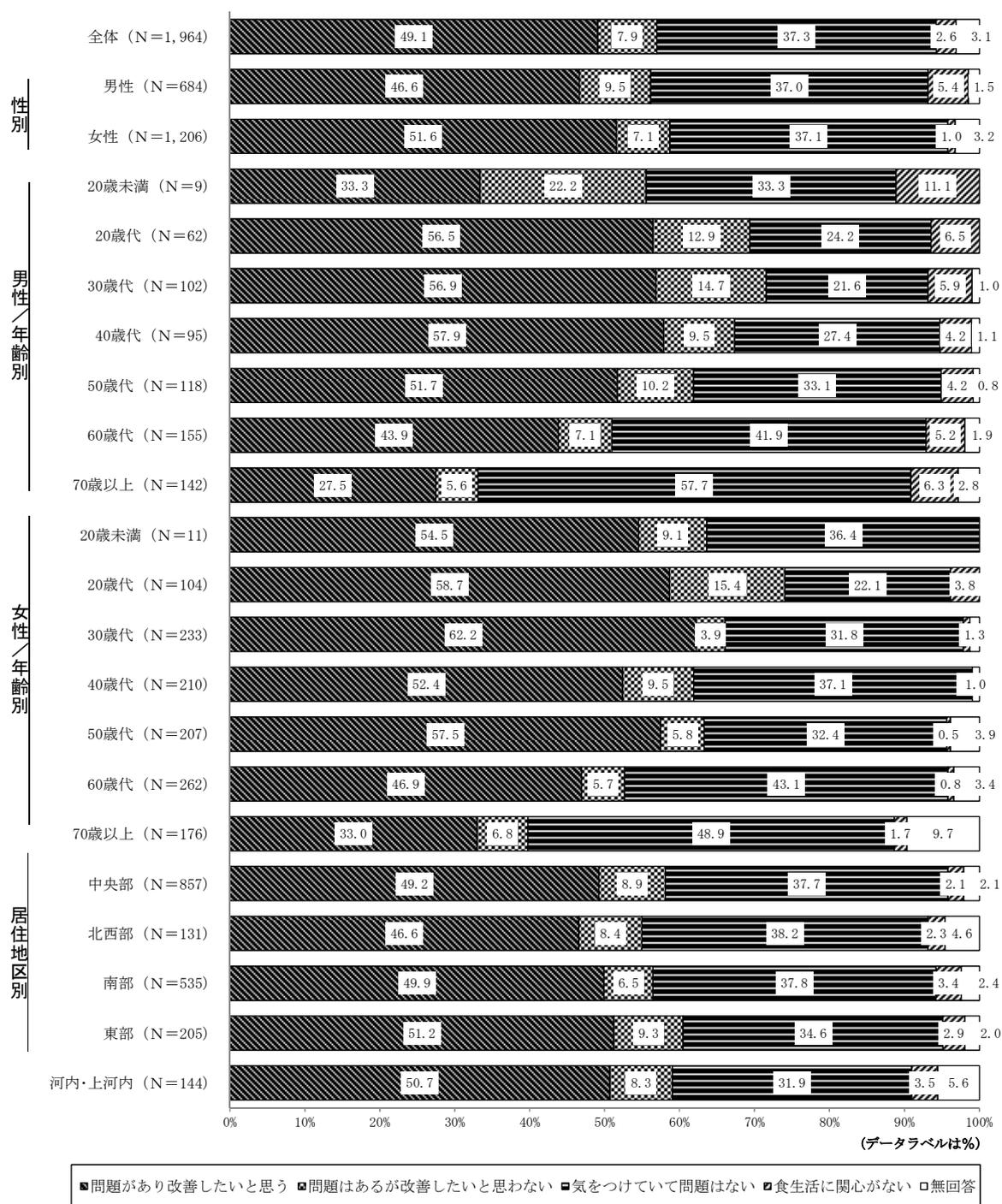
性別で見ると、女性の方がわずかに「問題があり改善したいと思う」の割合が高くなっている。

性・年齢別では、男女とも「20歳代」から「50歳代」までが「問題があり改善したいと思う」の割合が50%を超えている。特に、「30歳代」の女性では62.2%と最も高くなっている。「気をつけていて問題はない」は、「70歳代」の女性で48.9%と最も高くなっている。

居住地区別では、大きな開きはなく、「問題があり改善したいと思う」が50%前後となっている。

(図表 I - 2 - 2)

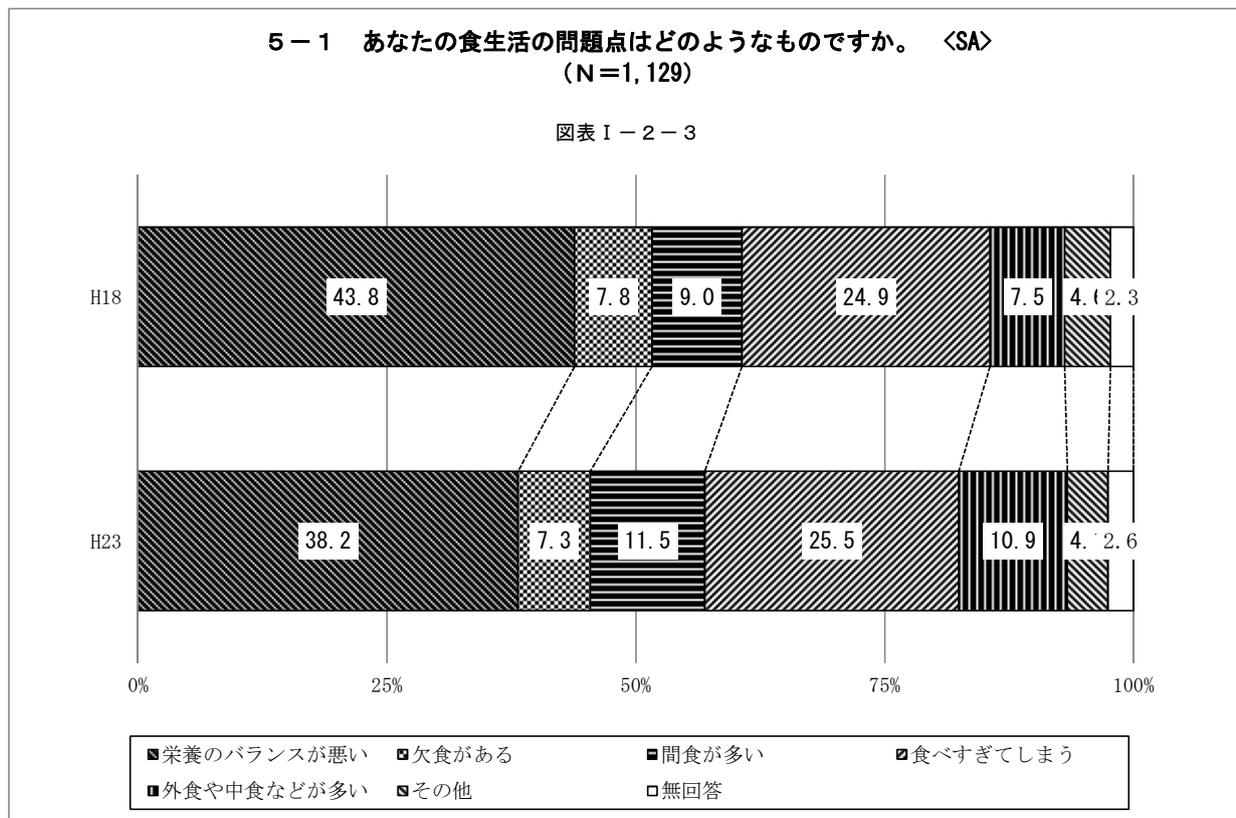
図表 I - 2 - 2



(1-1) 問題点の内容

5-1 あなたの食生活の問題点はどのようなものですか。

◆「栄養のバランスが悪い」が約4割、「間食が多い」、「外食や中食などが多い」が増加



前問で「問題がある」と答えた人に、その問題点を聞いたところ、「栄養のバランスが悪い」(38.2%)が約4割と最も多く、次いで「食べすぎてしまう」(25.5%)となっている。平成18年度調査から見ると、「栄養のバランスが悪い」が減少し、「間食が多い」(11.5%)や「外食や中食などが多い」(10.9%)が増加している。(図表 I-2-3)

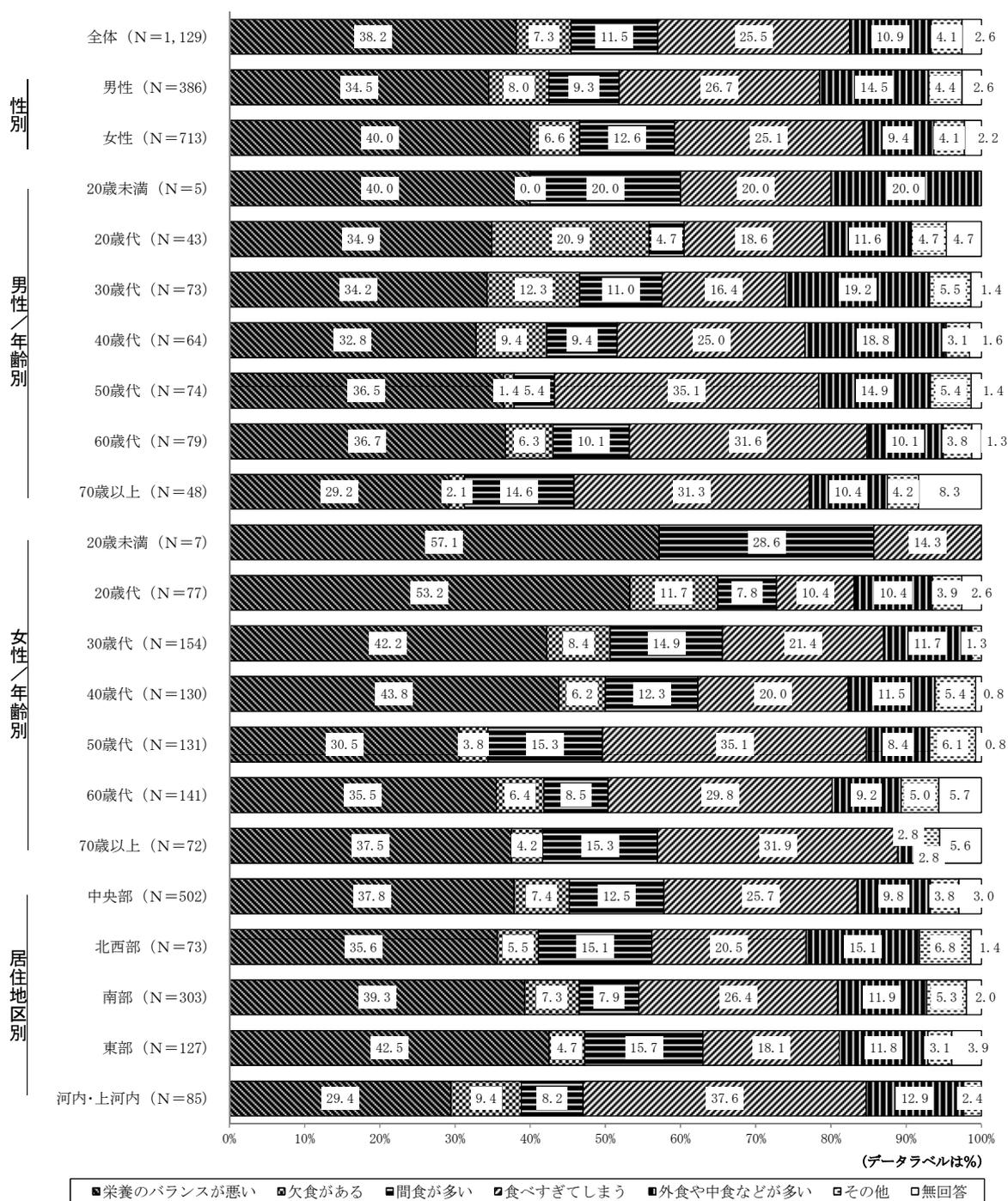
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女とも「食事のバランスが悪い」が最も多くなっているが、男性では「外食や中食などが多い」（14.5%）、女性では「間食が多い」（12.6%）が多くなっている。

性・年齢別においても「食事のバランスが悪い」が多くなっているが、「50歳代」から「70歳以上」の男性で、「食べすぎてしまう」が30%を超えている。

居住地区別では、「河内・上河内」で「食べすぎてしまう」（37.6%）の割合が最も高くなっている。（図表 I - 2 - 4）

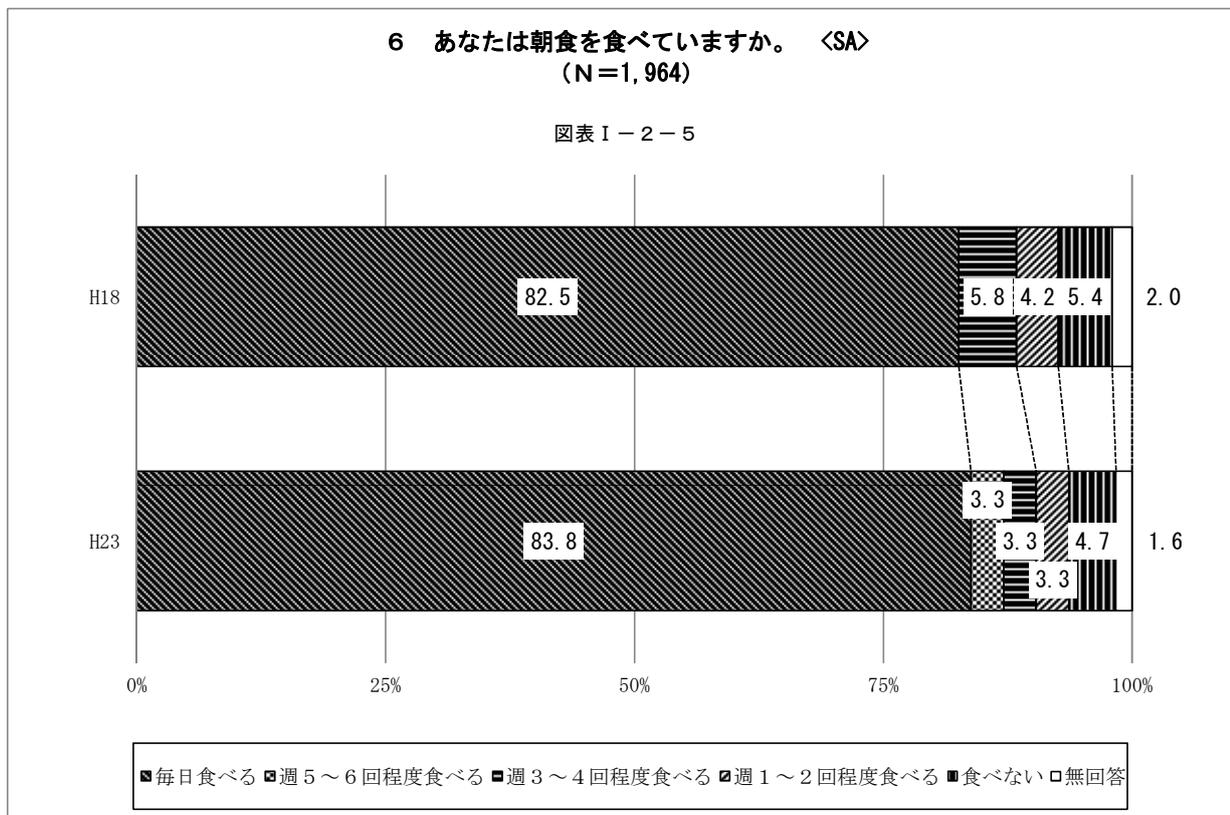
図表 I - 2 - 4



## (2) 朝食摂取度

6 あなたは朝食を食べていますか。

◆「毎日食べる」が8割強



朝食の摂取状況は、「毎日食べる」(83.8%)が8割強を占め、平成18年度調査から見ても増加している。逆に、「週5～6回程度食べる」(3.3%)、「週3～4回程度食べる」(3.3%)、「週1～2回程度食べる」(3.3%)、「食べない」(4.7%)は減少している。(図表I-2-5)

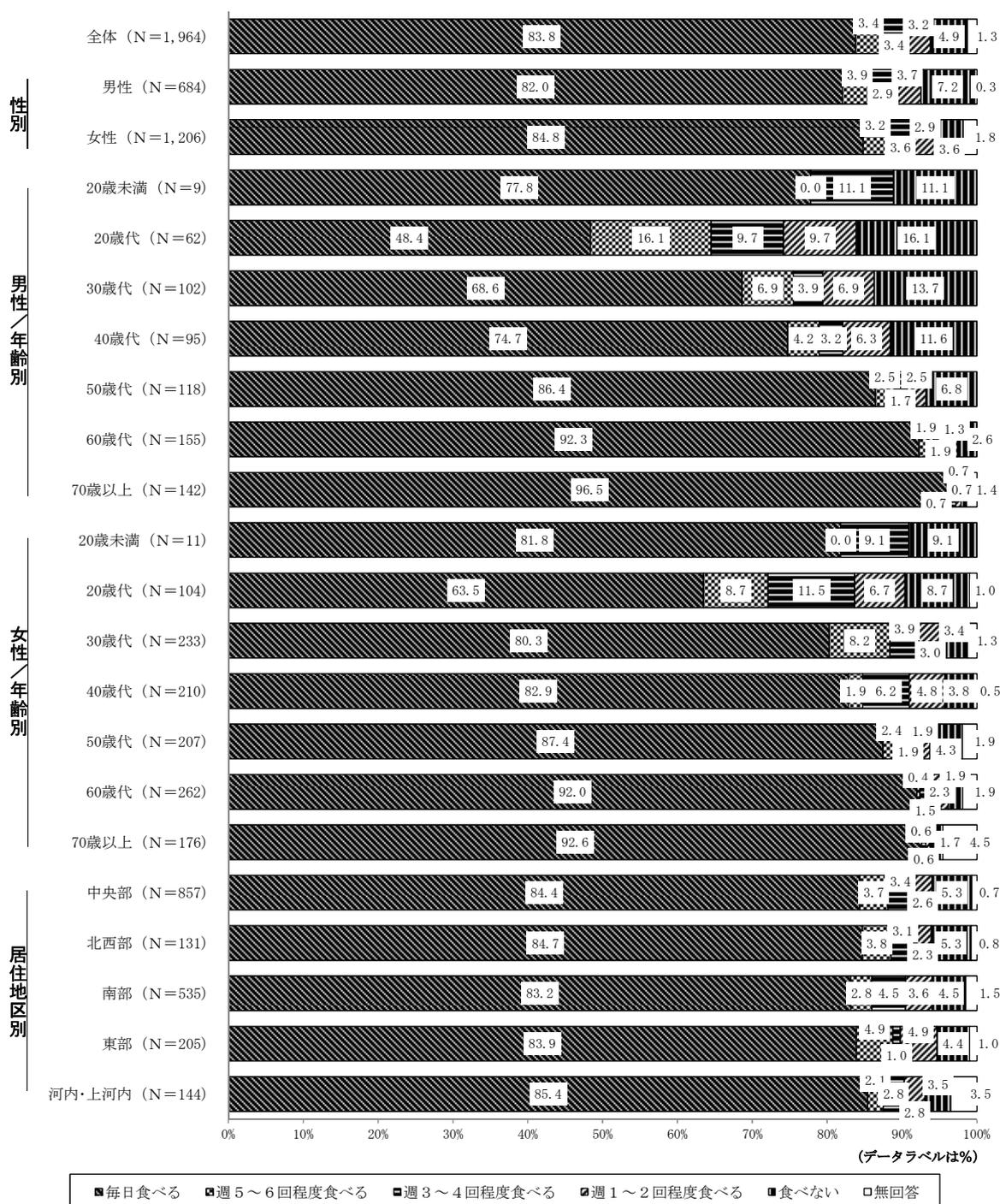
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女ともに「毎日食べる」が80%を超えている。

性・年齢別では、男女ともに、「20歳代」から年齢が上がる毎に「毎日食べる」の割合が高くなっていく。逆に、「食べない」は、「20歳代」の男性が最も多く16.1%で、年齢が上がるに従って割合が減っている。

居住地区別では、各地区とも大きな開きは見られず、「毎日食べる」が80%以上となっている。(図表I-2-6)

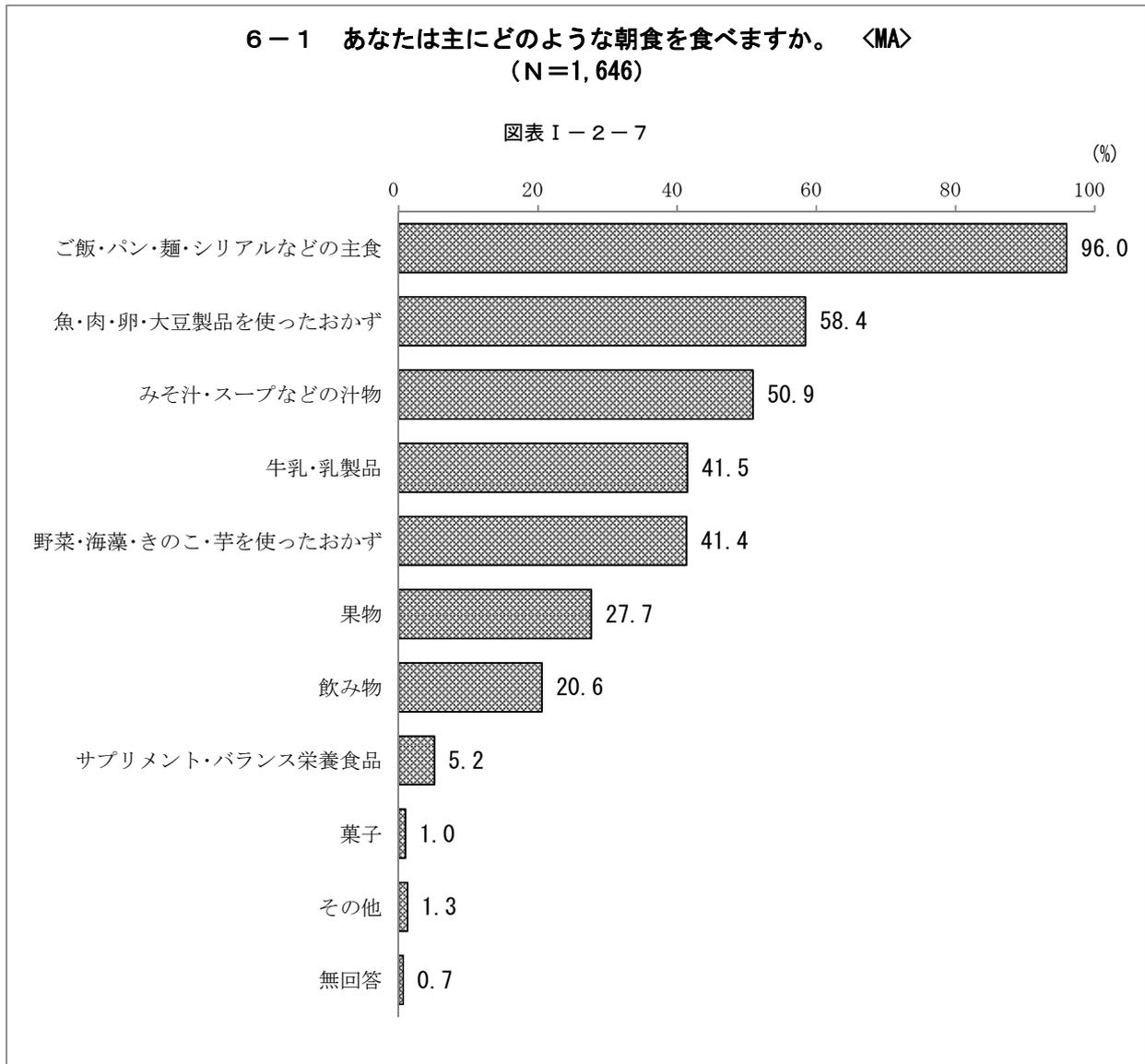
図表I-2-6



## (2-1) 朝食の内容

6-1 あなたは主にどのような朝食を食べますか。

◆9割以上が「ご飯・パン・麺・シリアルなどの主食」

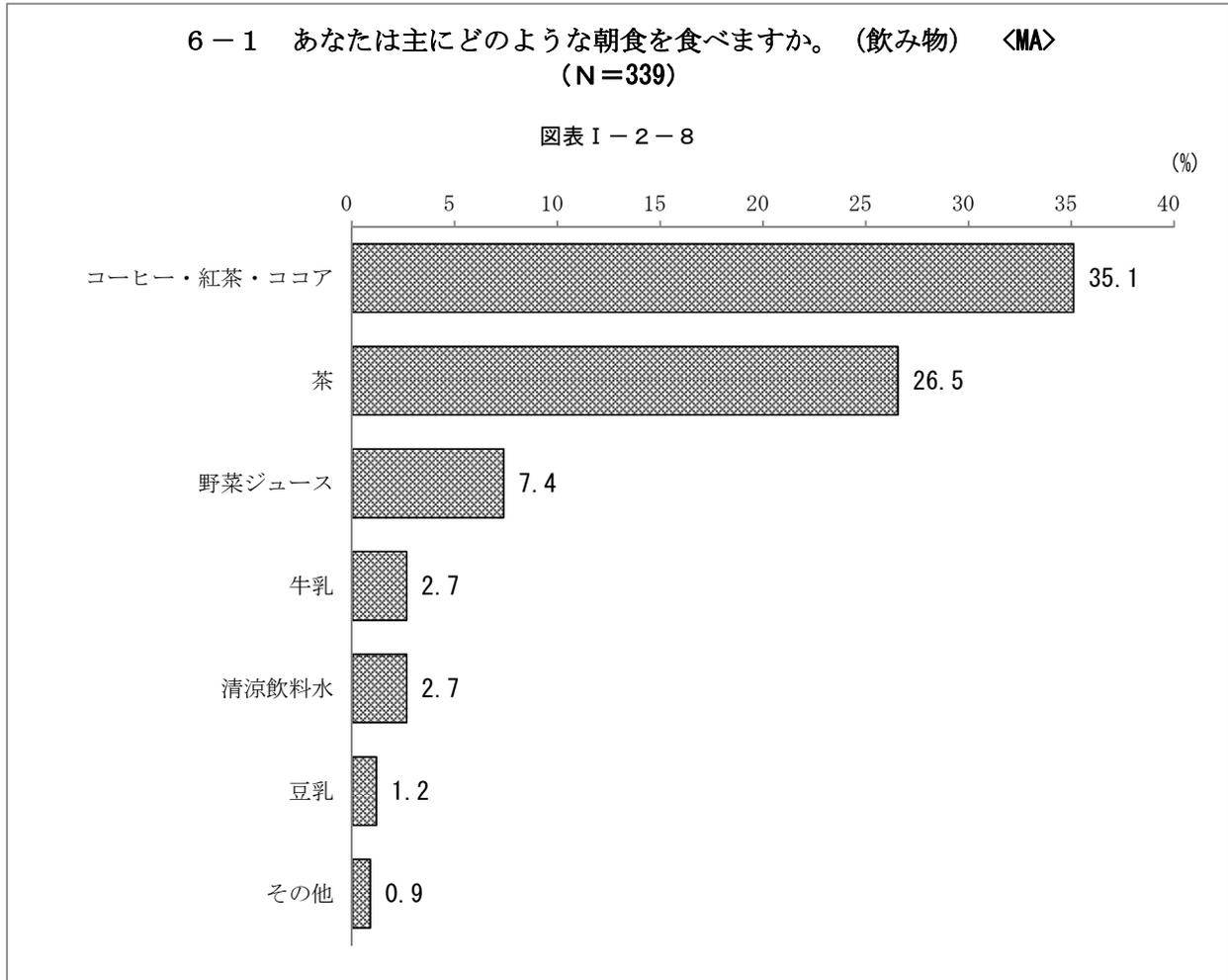


朝食を毎日食べる人にその内容を聞いたところ、「ご飯・パン・麺・シリアルなどの主食」(96.0%)が圧倒的に多くなっている。次いで、「魚・肉・卵・大豆製品を使ったおかず」(58.4%)、「みそ汁・スープなどの汁物」(50.9)が50%を超えている。(図表 I-2-7)

(2-1) 朝食の内容 (飲み物) (記述回答)

6-1 飲み物

◆3人に一人が「コーヒー・紅茶・ココア」



朝食を毎日食べる人で、「飲み物」(339人)と回答し、記述した内容を見ると、「コーヒー・紅茶・ココア」(35.1%)が最も多く、3割を超えている。次いで、「茶」(26.5%)となっている。(図表 I-2-8)

なお、記述回答であり、内容が多岐に渡るため、下表のように分類した。

図表 I-2-9

回答分類	備考 (以下の内容も含む)
茶	緑茶・麦茶・日本茶
コーヒー・紅茶・ココア	カフェオレ・ミルクティー・コーヒー牛乳等
野菜ジュース	青汁・トマトジュース
清涼飲料水	炭酸飲料・果実飲料・スポーツ飲料等
牛乳	牛乳のみ
豆乳	豆乳のみ
その他	アルコール・飲むヨーグルト・プロテイン等

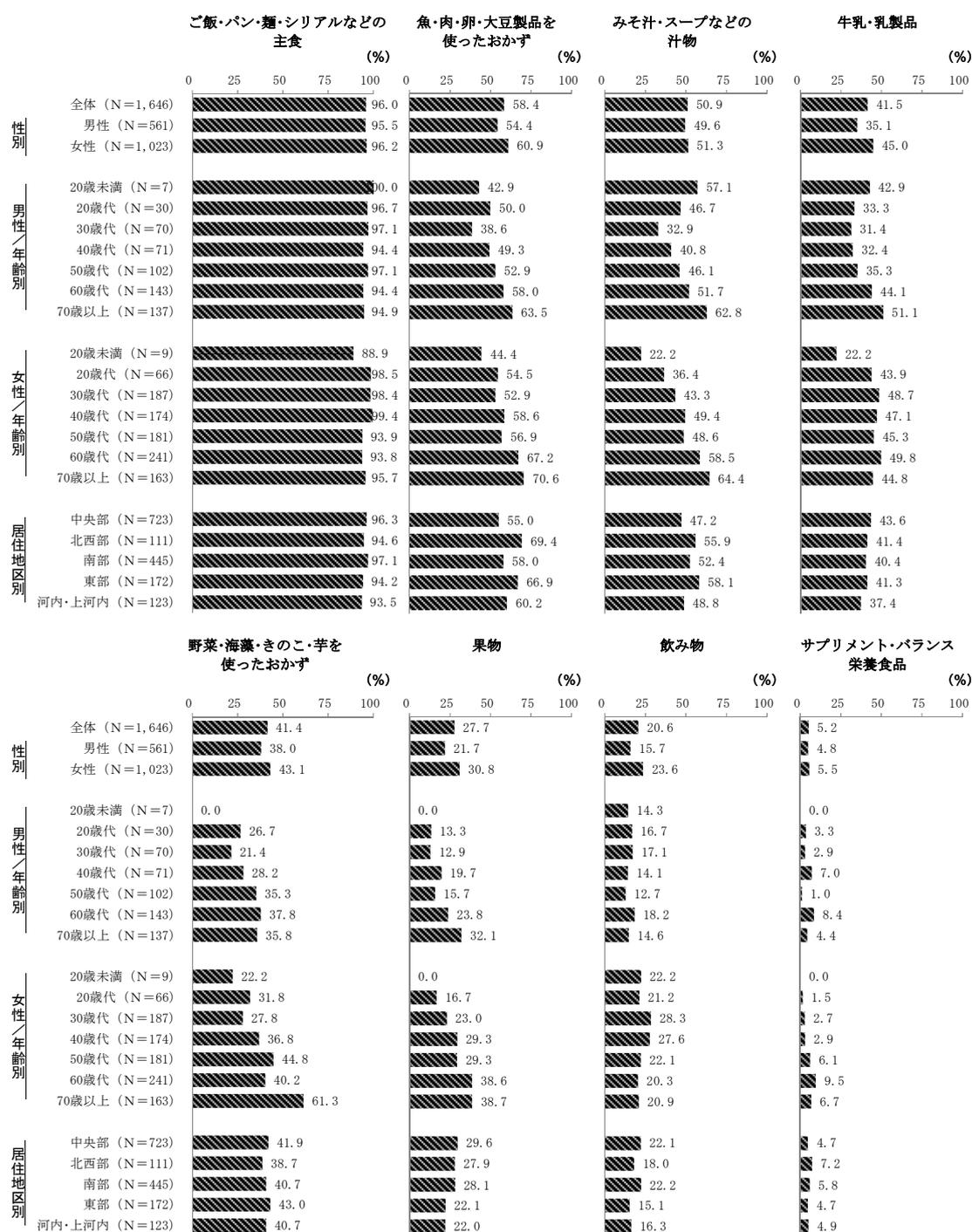
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、全体的に女性の方が多くの品目を答えており、「魚・肉・卵・大豆製品を使ったおかず」、「牛乳・乳製品」では、6%以上、あるいは10%近く高くなっている。

性・年齢別では、「30歳代」の男性の品目の回答が少なくなっており、逆に「70歳代」（男女とも）は多く回答している。とりわけ「魚・肉・卵・大豆製品を使ったおかず」（63.5%）、「みそ汁・スープなどの汁物」（62.8%）、「野菜・海藻・きのこ・芋を使ったおかず」（61.3%）の割合が高くなっている。

居住地区別では、「北西部」と「東部」で、「魚・肉・卵・大豆製品を使ったおかず」が60%を超えている。（図表 I-2-10）

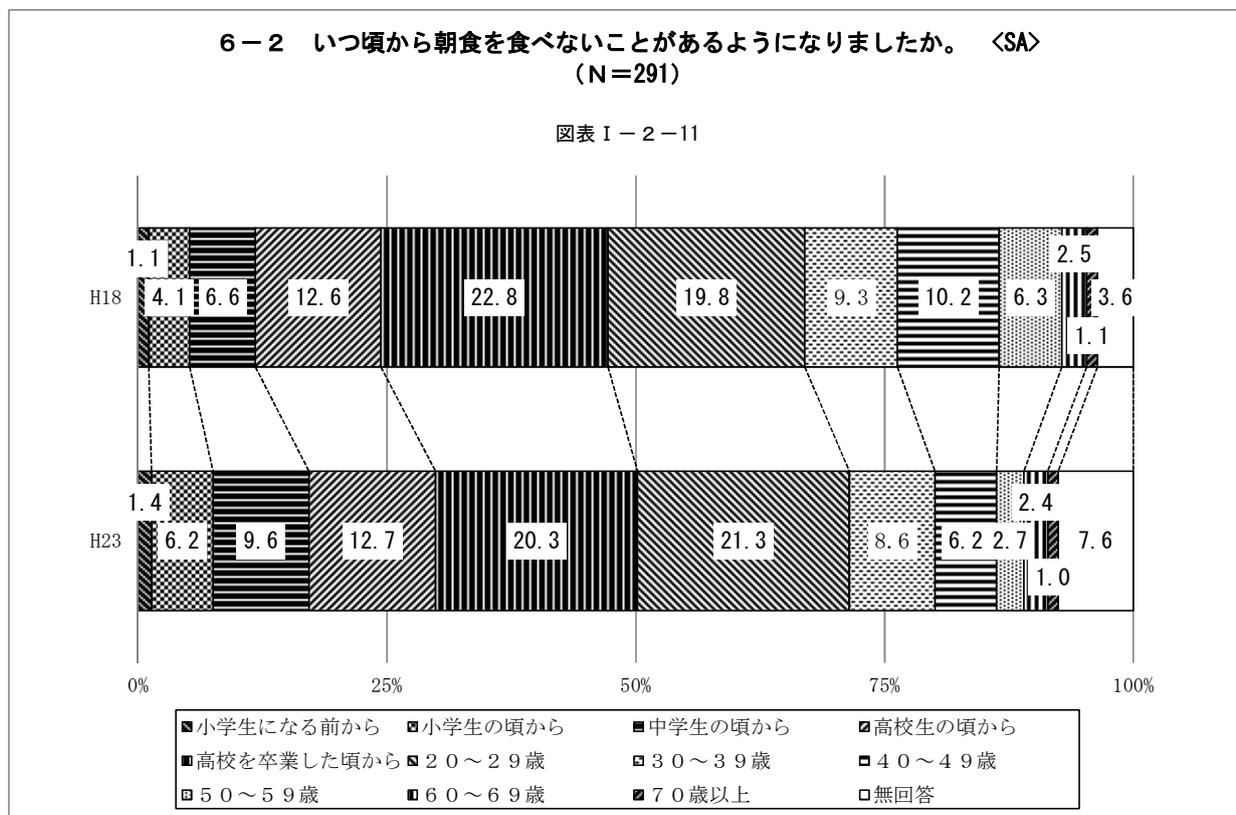
図表 I-2-10（上位8項目）



(2-2) 非摂取が始まった時期

6-2 いつ頃から朝食を食べないことがあるようになりましたか。

◆「小学生の頃から」、「中学生の頃から」、「20~29歳」が増加



朝食を毎日食べない、あるいは「食べない」と回答した人に、いつ頃から食べないことがあるようになったかを聞いたところ、「20~29歳」(21.3%)が最も多くなっている。

平成18年度調査で最も多かった「高校を卒業した頃から」(20.3%)は、22.8%から20.3%とやや減少している。

逆に、「小学生の頃から」(6.2%)、「中学生の頃から」(9.6%)、「20~29歳」(21.3%)が増加している。(図表 I-2-11)

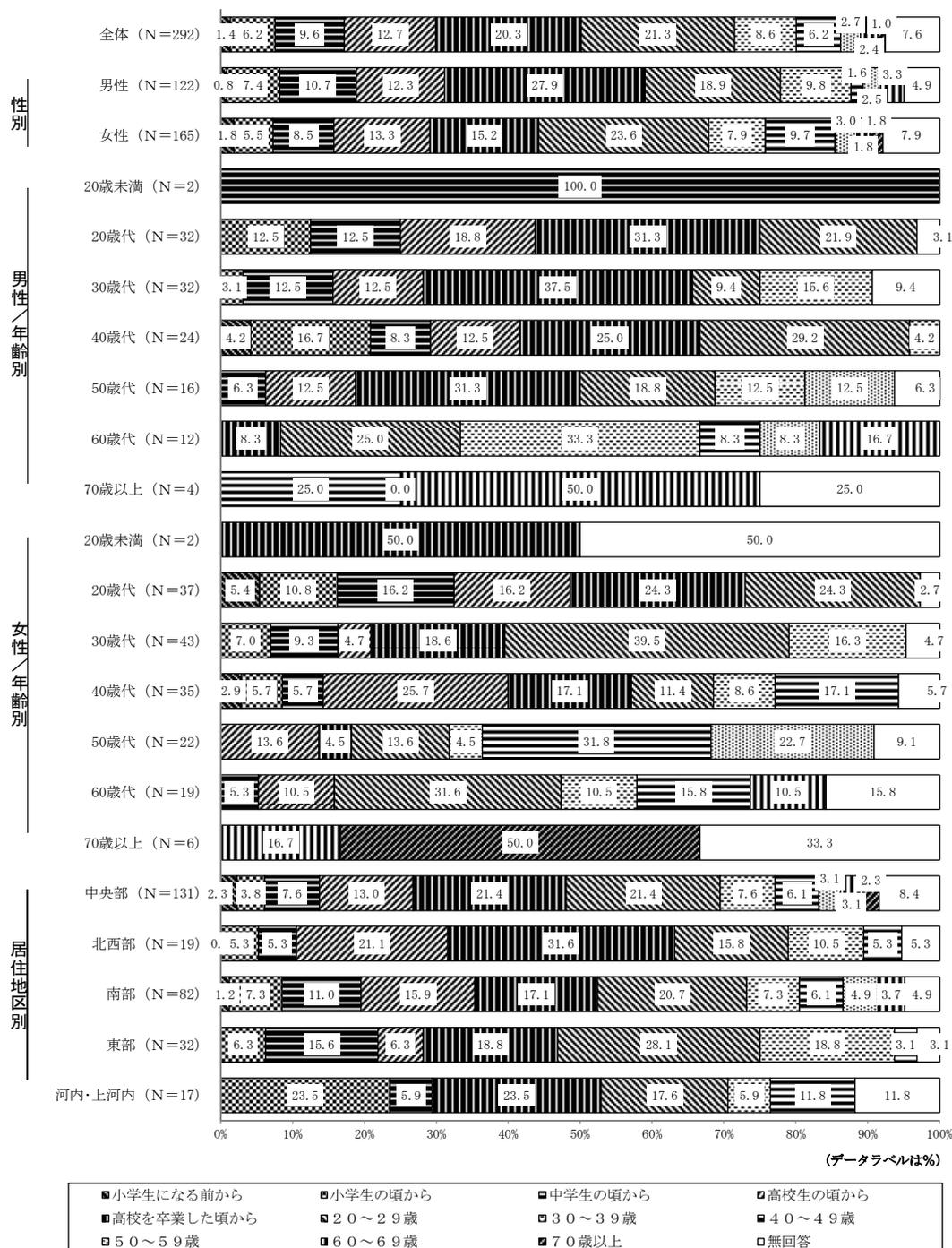
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、男性は「高校を卒業した頃から」（27.9%）、女性は「20～29歳」（23.6%）が高くなっている。

性・年齢別では、男性は「20歳代」、「30歳代」では「高校を卒業した頃」、「40歳代」では「20～29歳」の割合が高くなっている。女性は、「30歳代」で「20～29歳」（39.5%）が特に多くなっている。

居住地区別では、「北西部」では「高校を卒業した頃」（31.6%）、「東部」では「20～29歳」（28.1%）の割合が高くなっている。（図表 I - 2 - 12）

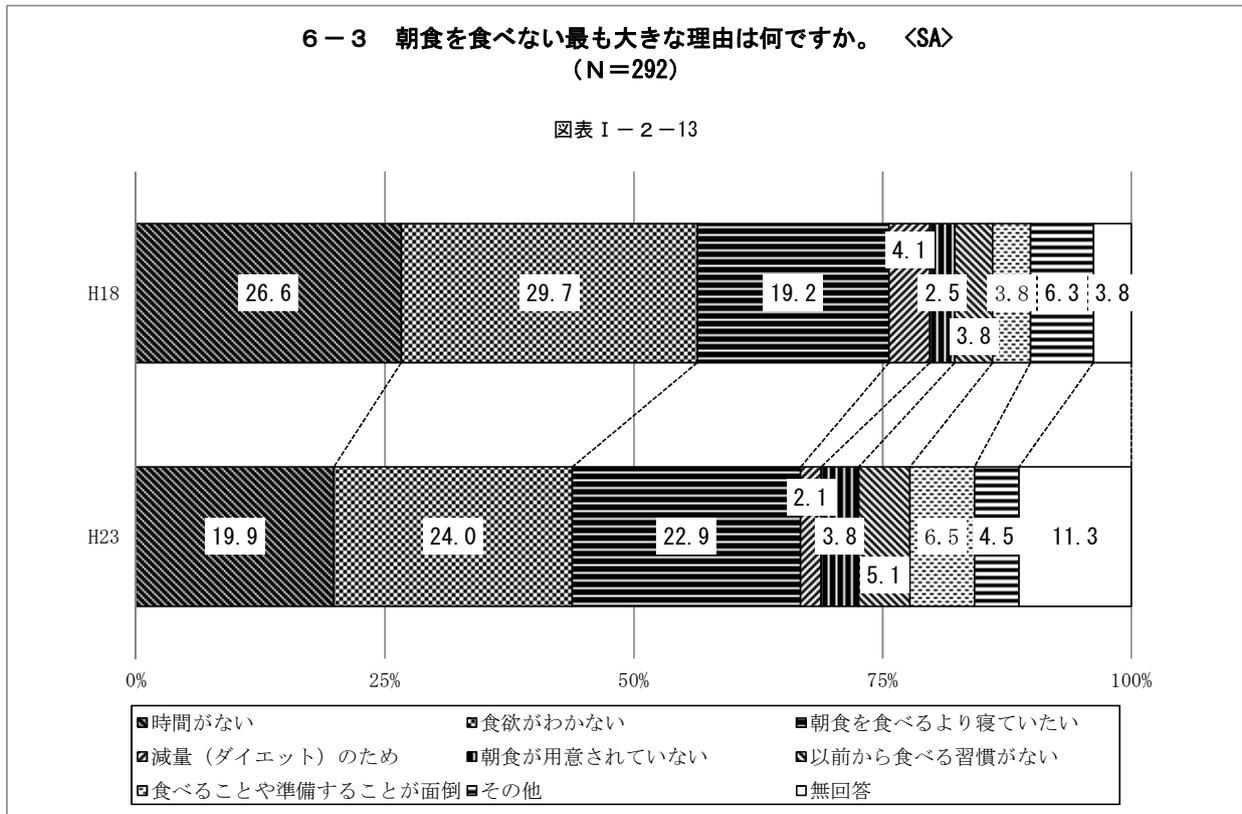
図表 I - 2 - 12



(2-3) 食べない理由

6-3 朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。

◆「朝食を食べるより寝ていたい」が2割強で増加



朝食を食べない最も大きな理由を聞いたところ、「食欲がわからない」(24.0%)が今回調査でも最も多くなっているが、平成18年度調査からは減少しており、逆に、「朝食を食べるより寝ていたい」(22.9%)の増加が目立っている。また、「時間がない」(19.9%)も平成18年度調査に比べると減少が目立つ。(図表 I-2-13)

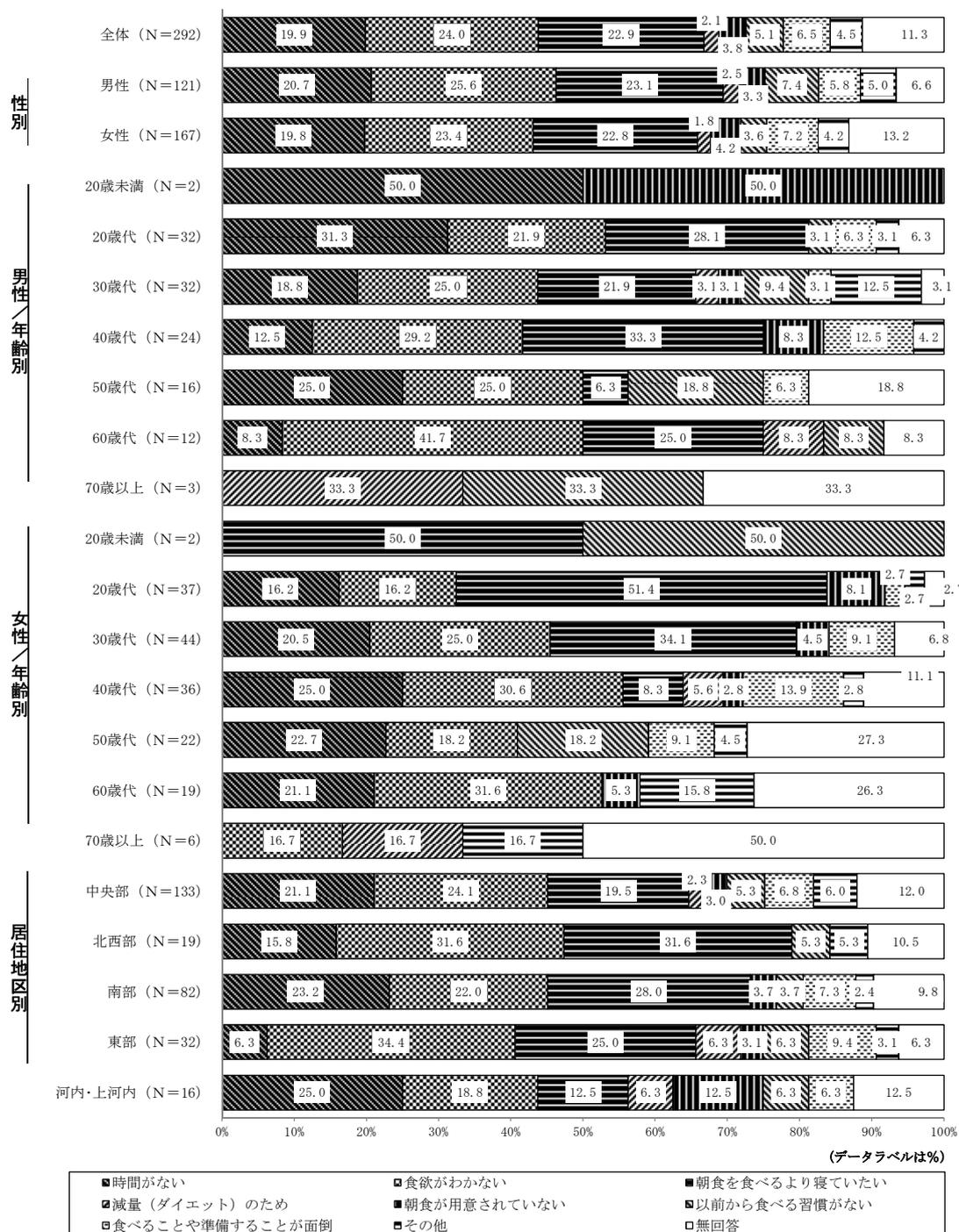
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女ともに「食欲がわからない」が20%台半ばとなっている。

性・年齢別では、「20歳代」男性は「時間がない」(31.3%)、「20歳代」女性は「朝食を食べるより寝ていたい」(51.4%)が多くなっている。「食欲がわからない」は、「20歳代」から「60歳代」で多くなっている。

居住地区別では、「東部」では「時間がない」(6.3%)の割合が低く、他地区に比べ「食べることや準備することが面倒」(9.4%)の割合が高くなっている。(図表I-2-14)

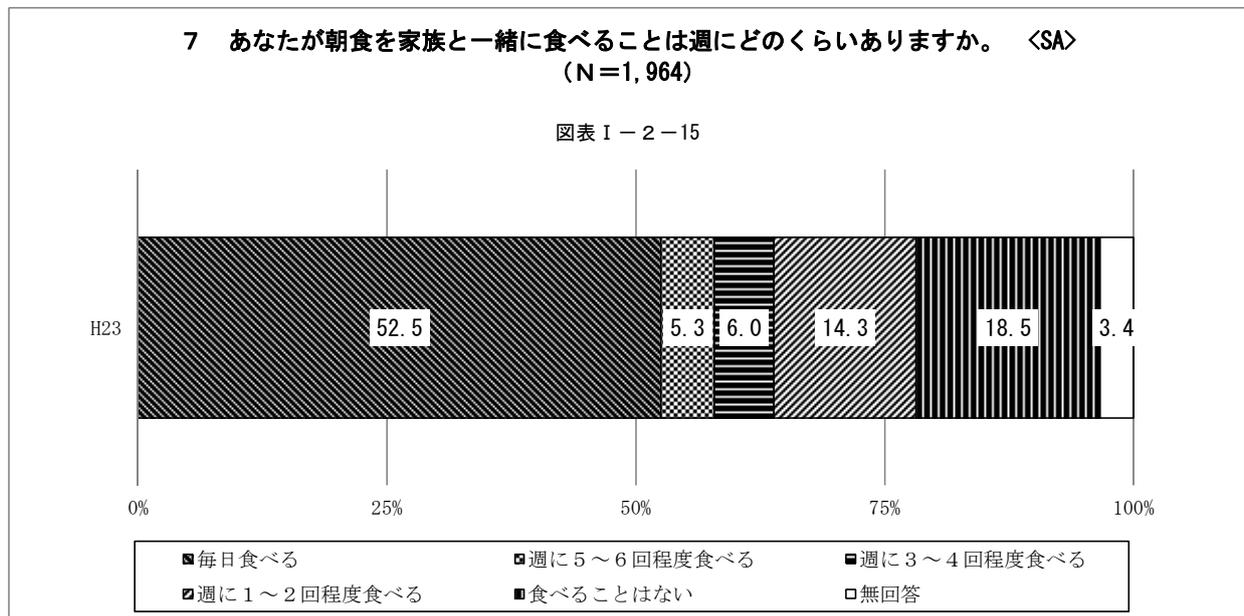
図表 I - 2 - 14



### (3) 家族との朝食（共食）

7 あなたが朝食を家族と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。

◆「毎日食べる」が5割超



家族と一緒に朝食を食べる機会は、「毎日食べる」(52.5%)が半数を超えている。次いで「食べることはない」(18.5%)、「週に1～2回程度食べる」(14.3%)の順となっている。(図表 I-2-15)

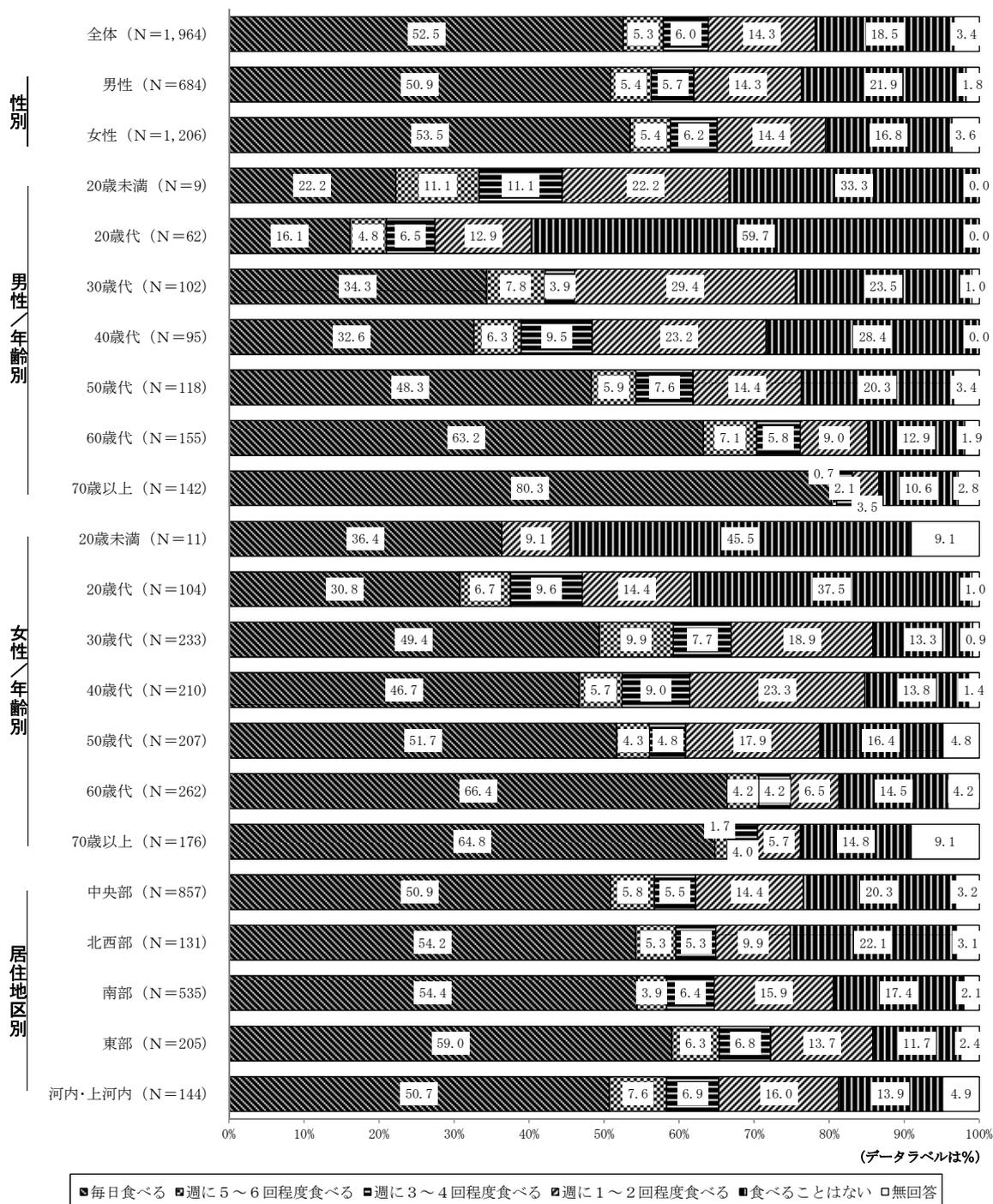
【性別／性・年齢別／地区別】

性別は、男女とも「毎日食べる」が50%を超えており、「食べることはない」は、男性の方が約5%多くなっている。

性・年齢別では、男女とも「20歳代」が最も低く、男性では16.1%に留まっており、逆に「食べることはない」は59.7%と突出している。

居住地区別では、大きな開きはあまり見られないが、「食べることはない」で、「東部」(11.7%)、「河内・上河内」(13.9%)は、10%強と他地区に比べ低くなっている。(図表I-2-16)

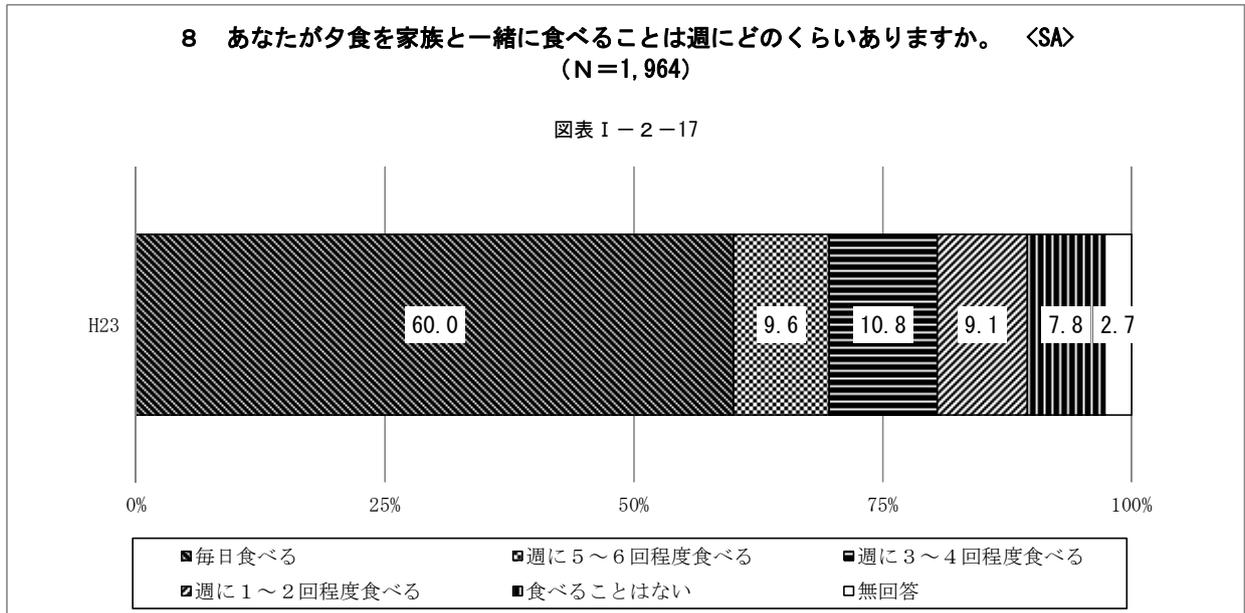
図表 I - 2 - 16



(4) 家族との夕食（共食）

8 あなたが夕食を家族と一緒に食べることは週にどのくらいありますか。

◆「毎日食べる」が6割



家族と一緒に夕食を食べる機会は、「毎日食べる」(60.0%)が6割を占めている。「食べることはない」(7.8%)は、最も少なくなっている。(図表 I-2-17)

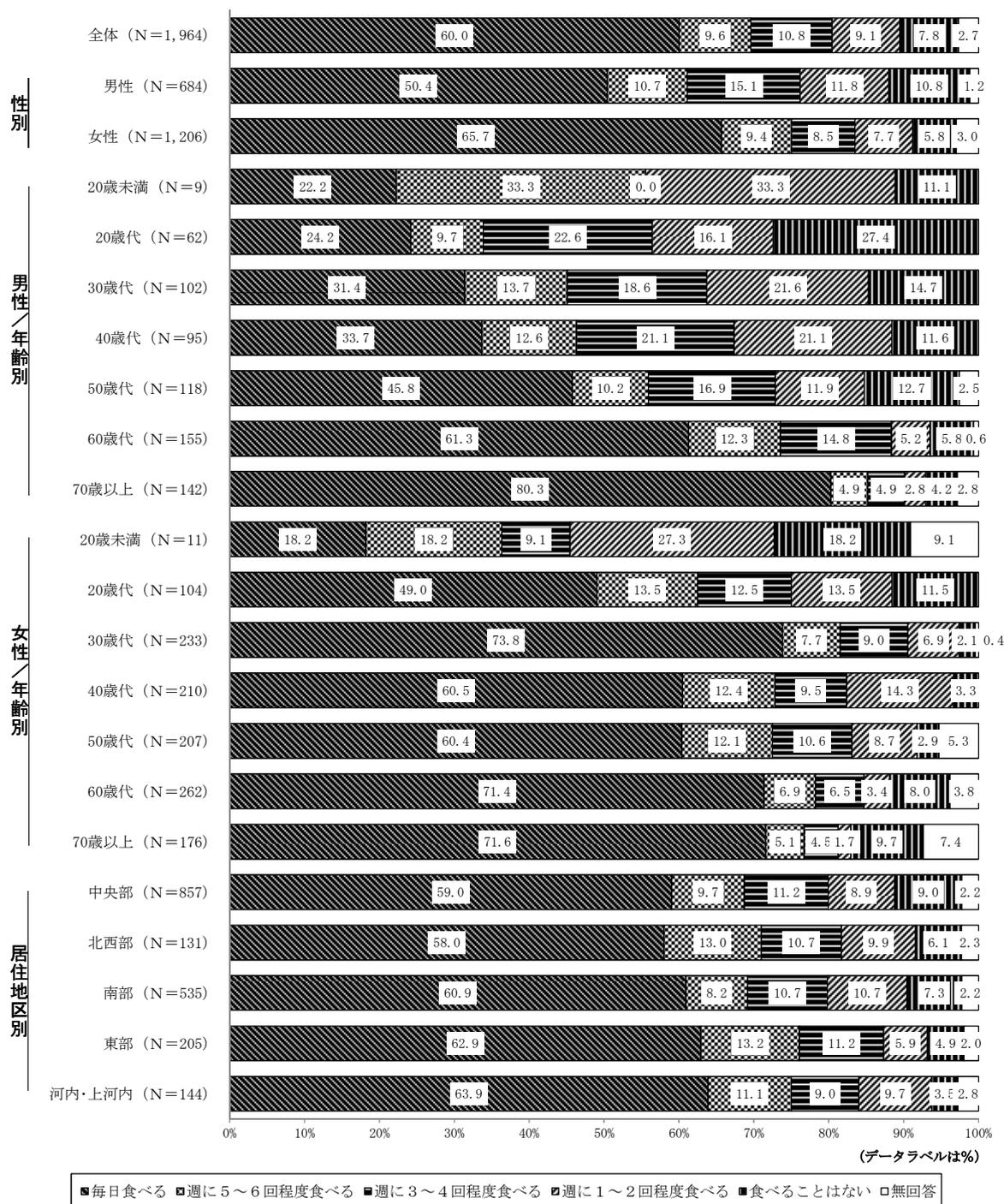
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、女性は「毎日食べる」(65.7%)が圧倒的に多くなっているが、男性も50.4%と、5割を超えている。

性・年齢別では、男性は年齢が上がるに従い「毎日食べる」の割合が増加し、「70歳以上」では80%を超えている。逆に、「20歳代」男性は「食べることはない」(27.4%)が3割近くに上っている。女性では、「40歳代」で「週1～2回程度食べる」が他地区に比べ高くなっている。

居住地区別は、大きな開きは見られないが、「南部」では「週に5～6回程度食べる」(8.2%)、「東部」で「週に1～2回程度食べる」(5.9%)の割合が、他地区に比べ低くなっている。(図表I-2-18)

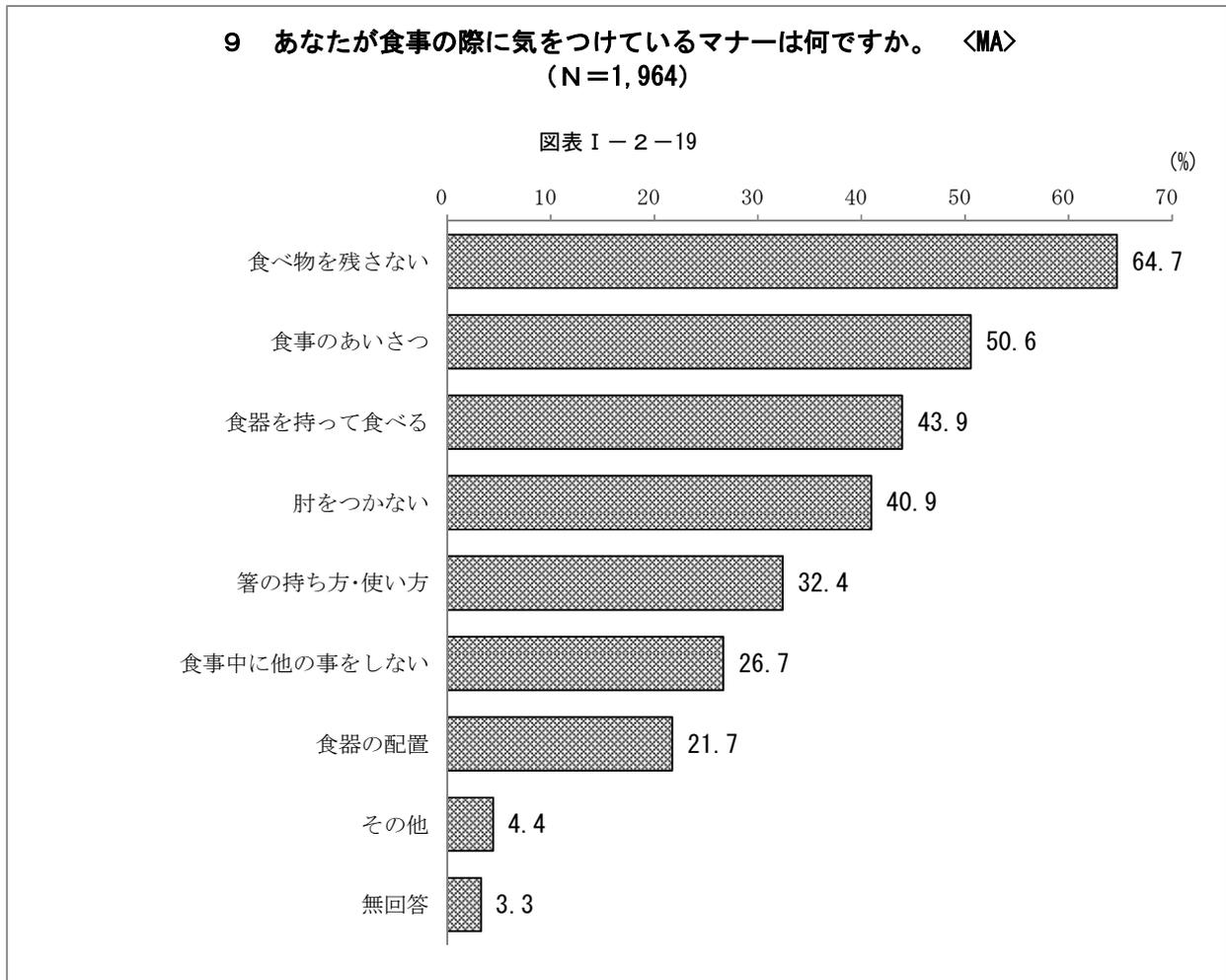
図表 I - 2 - 18



(5) 食事の際のマナー

9 あなたが食事の際に気をつけているマナーは何ですか。

◆「食べ物を残さない」が6割超



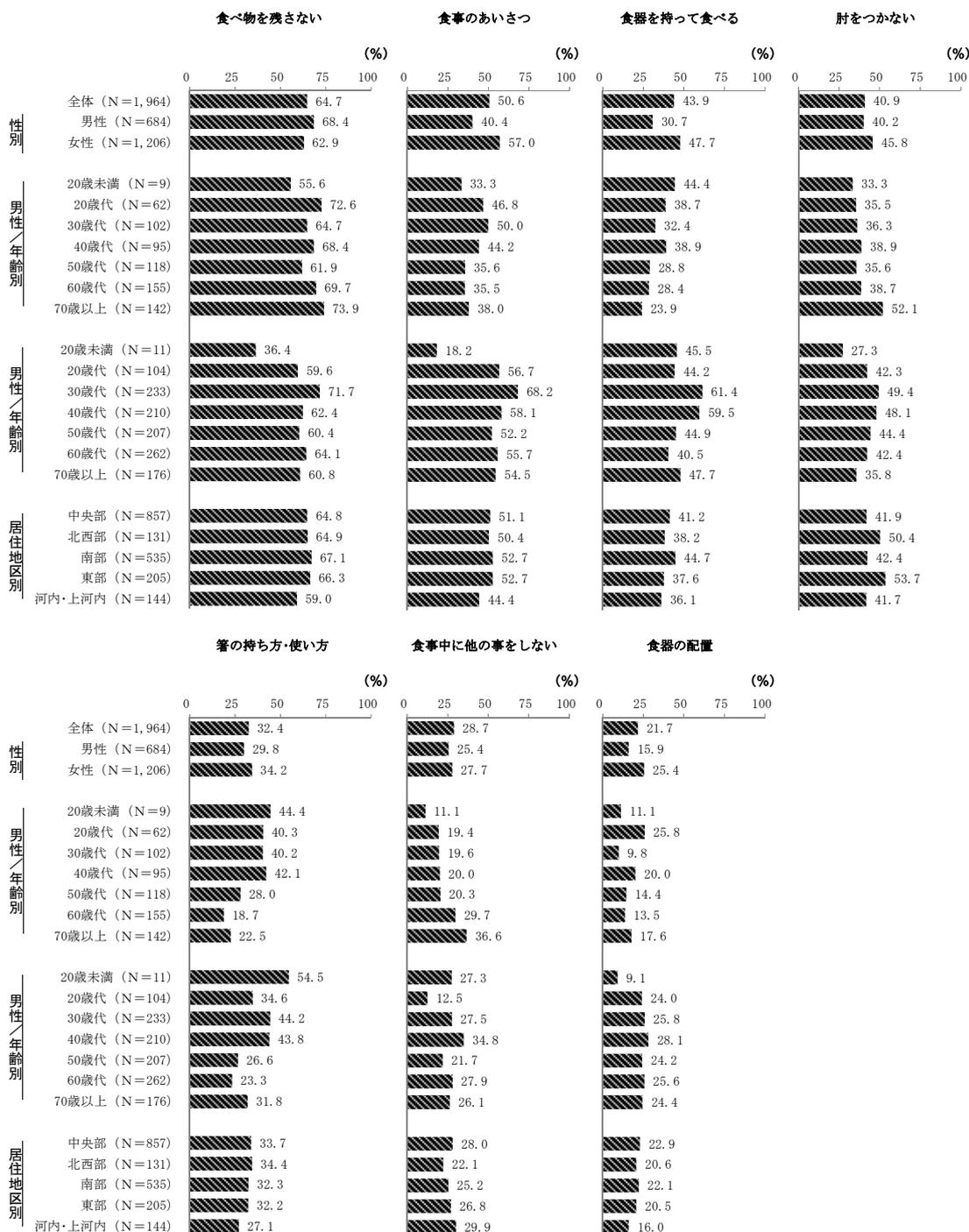
食事の際に気をつけているマナーは、「食べ物を残さない」(64.7%)が6割を超え、「食事のあいさつ」(50.6%)が5割を超えている。以下、「食器を持って食べる」(43.9%)、「肘をつかない」(40.9%)の順となっている。(図表 I - 2 - 19)

【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、「食べ物を残さない」(68.4%)は男性の方が多く、「食事のあいさつ」(57.0%)、「食器を持って食べる」(47.7%)、「肘をつかない」(45.8%)などは、女性の方が多くなっている。性・年齢別では、「食べ物を残さない」は男性の「70歳以上」(73.9%)、女性は「30歳代」(71.7%)が最も高くなっている。また、女性では、「食事のあいさつ」(68.2%)、「食器を持って食べる」(61.4%)、「肘をつかない」(49.4%)で、「30歳以上」が最も高くなっている。

居住地区別では、「河内・上河内」で、上位4項目の回答が低くなっている他は、大きな開きは見られない。(図表I-2-20)

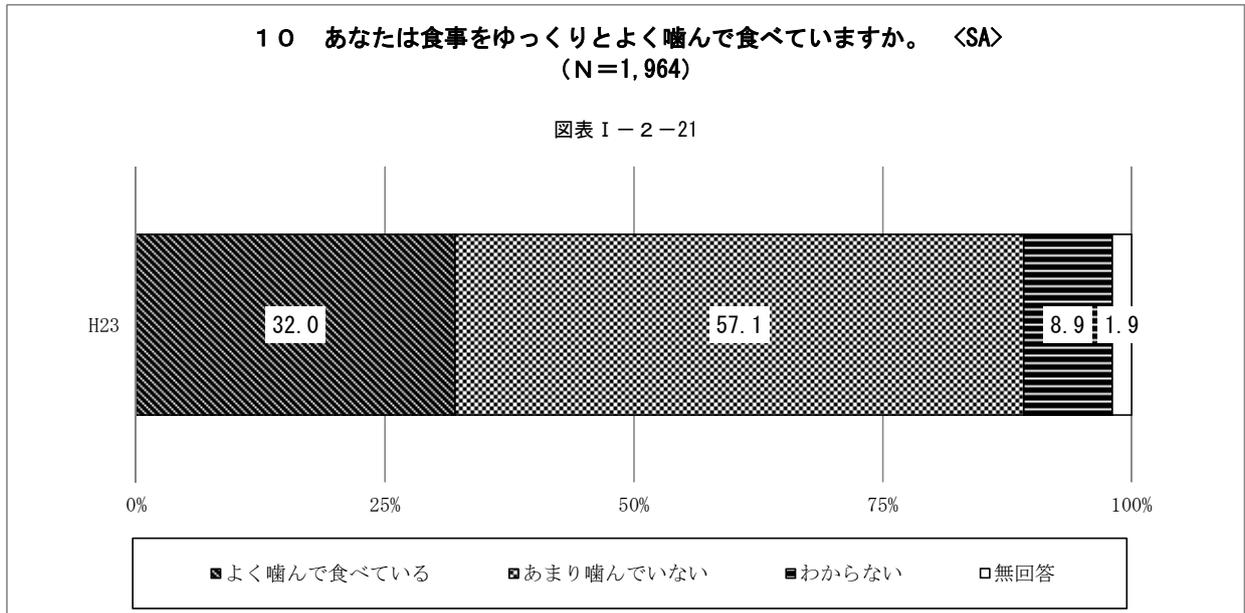
図表 I - 2 - 20



(6) 咀嚼

10 あなたは食事をゆっくりとよく噛んで食べていますか。

◆「あまり噛んでいない」が5割超



食事をゆっくりとよく噛んで食べているか聞いたところ、「あまり噛んでいない」(57.1%)が半数を超えている。「よく噛んでいる」(32.0%)は、3割程度に留まっている。(図表 I-2-21)

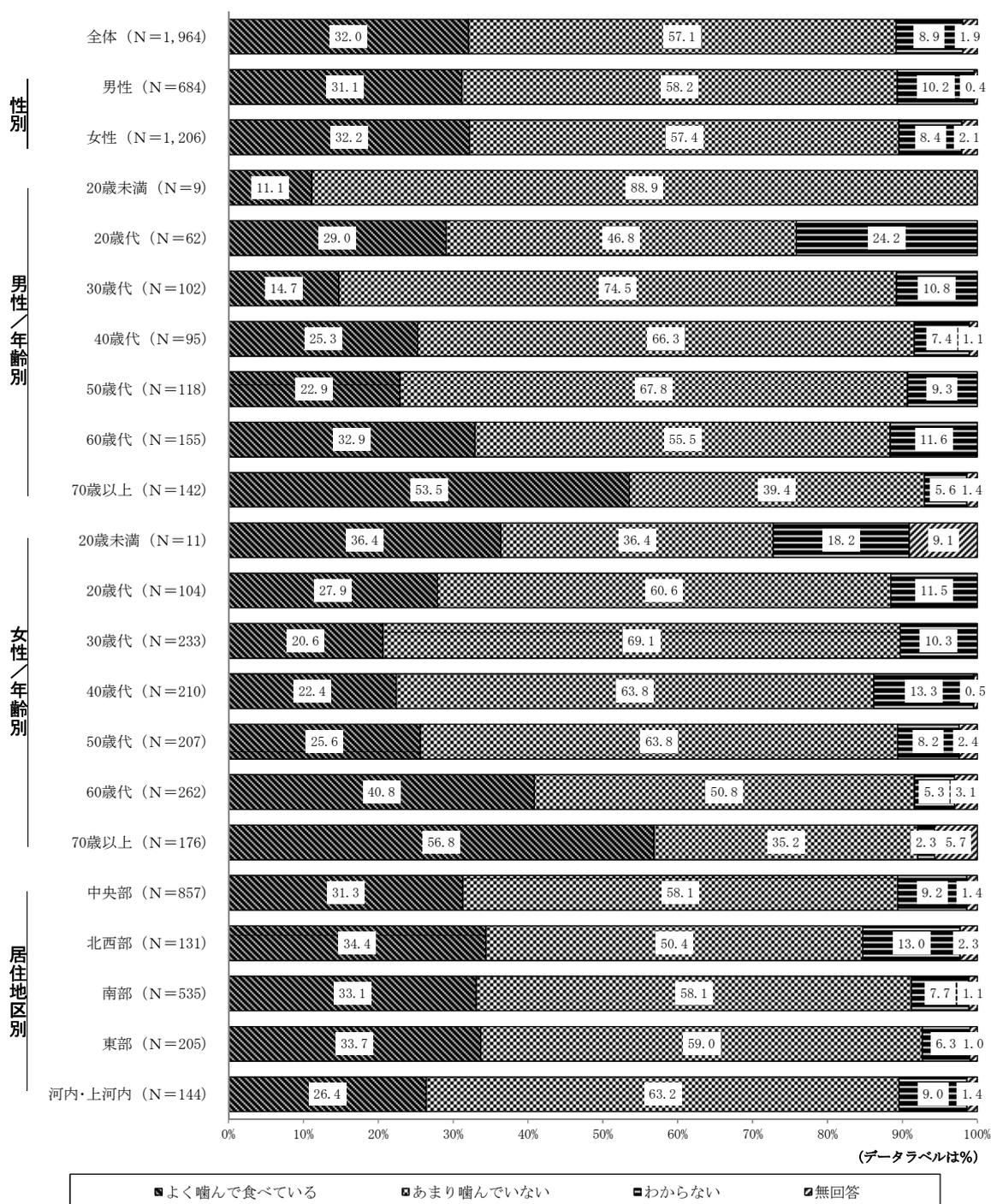
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女に大きな開きは見られない。

性・年齢別では、男女とも「70歳以上」で「よく噛んで食べている」が50%を超えている。「よく噛んで食べている」が最も低いのは、男女ともに「30歳代」で、それぞれ「男性」14.7%、「女性」20.6%となっている。

居住地区別においても大きな開きは見られないが、「河内・上河内」で「よく噛んで食べている」が26.4%と、他地区に比べ低くなっている。(図表I-2-22)

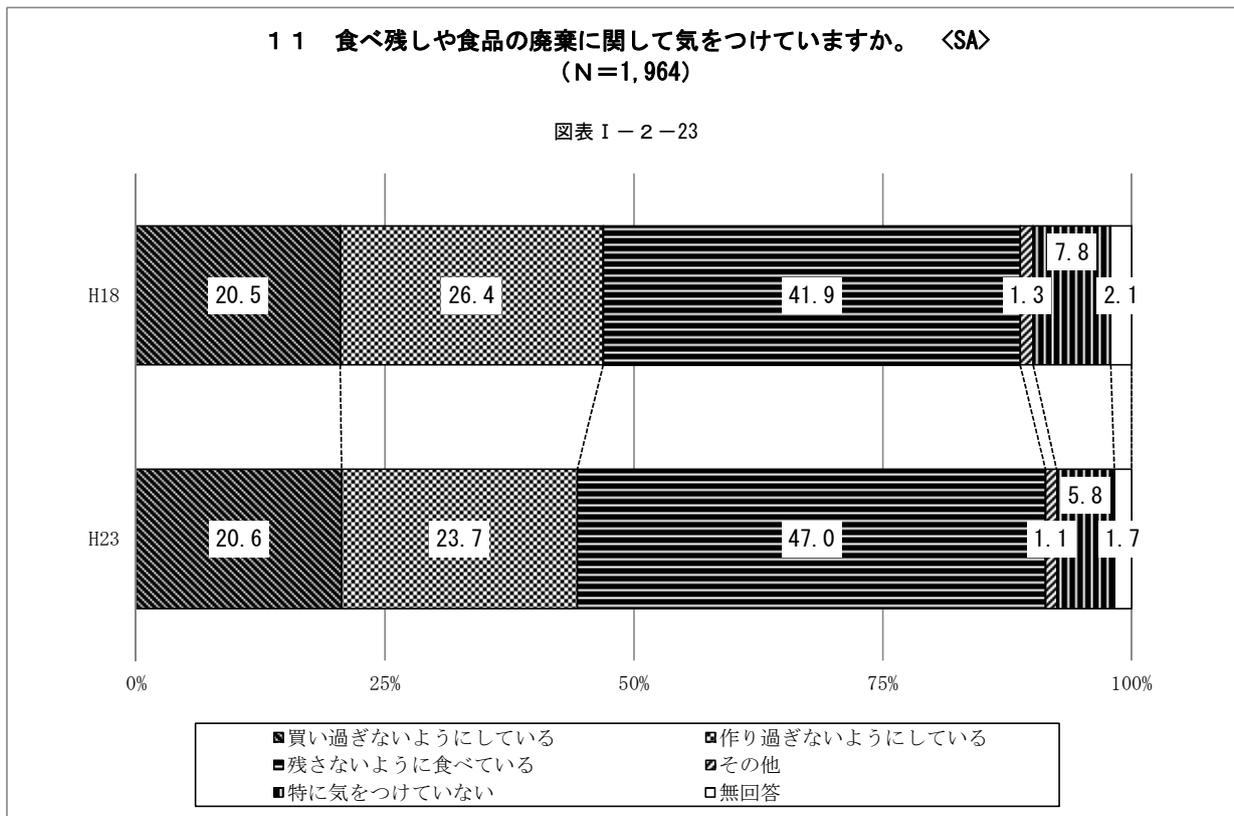
図表 I - 2 - 22



(7) 食べ残しや廃棄への関心

1.1 食べ残しや食品の廃棄に関して気をつけていますか。

◆「残さないように食べている」が4割



食べ残しや廃棄に関して、「残さないように食べている」が、平成18年度調査では41.9%で合ったのに対し、47.0%まで増加している。また、「作り過ぎないようにしている」(23.7%)、「特に気をつけていない」(5.8%)が微減となっている。(図表 I-2-23)

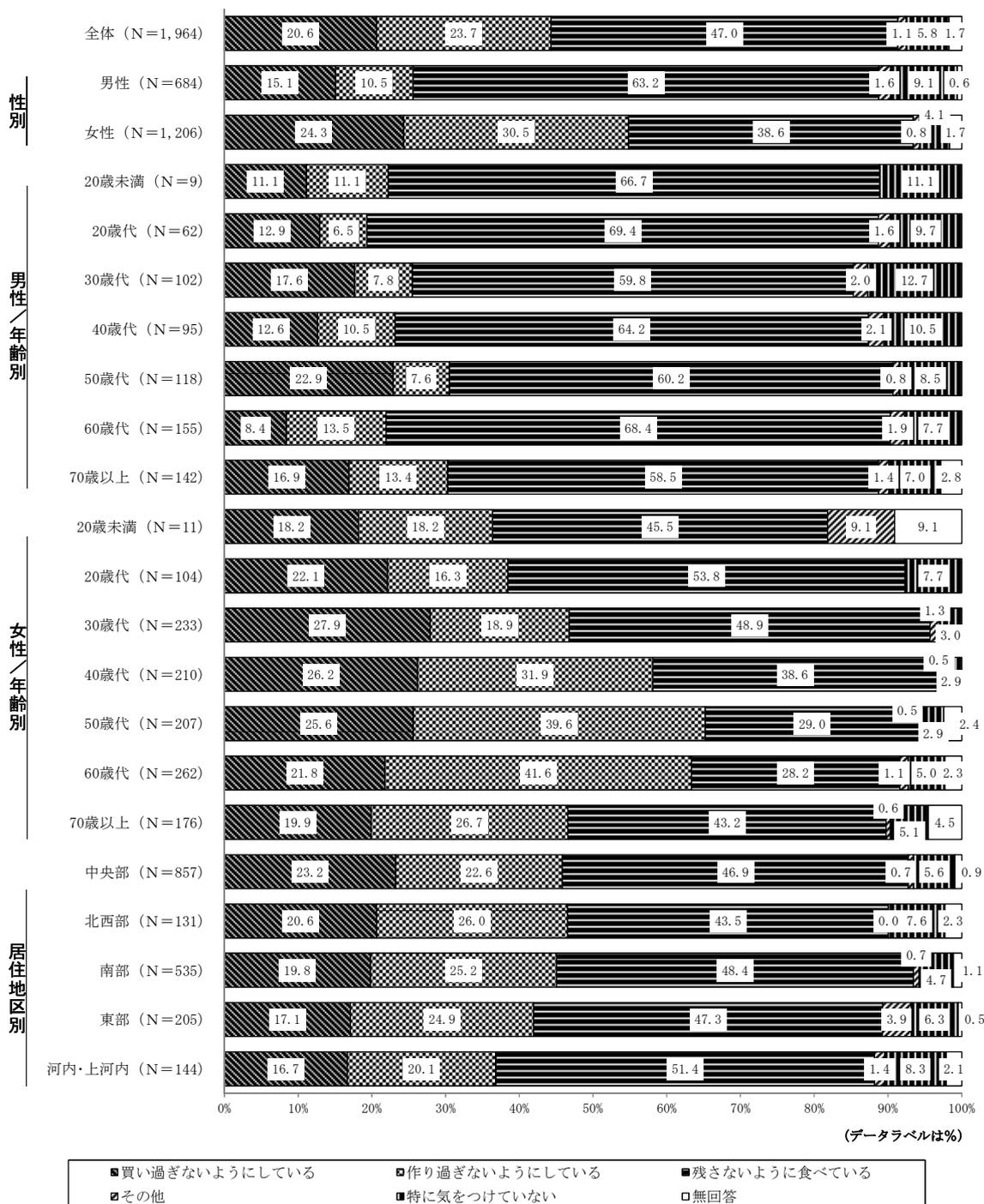
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、「男性」では「残さないように食べている」(63.2%)、「女性」では「残さないように食べている」(38.6%)、「作り過ぎないようにしている」(30.5%)が3割を超えている。

性・年齢別では、「男性」は全年代で「残さないように食べている」が約60%~70%で、「女性」は「50歳代」(39.6%)、「60歳代」(41.6%)が「作り過ぎないようにしている」の割合が高くなっている。

居住地区別では、特に大きな開きは見られないが、「河内・上河内」で「残さないように食べている」(51.4%)が50%を超えている。(図表I-2-24)

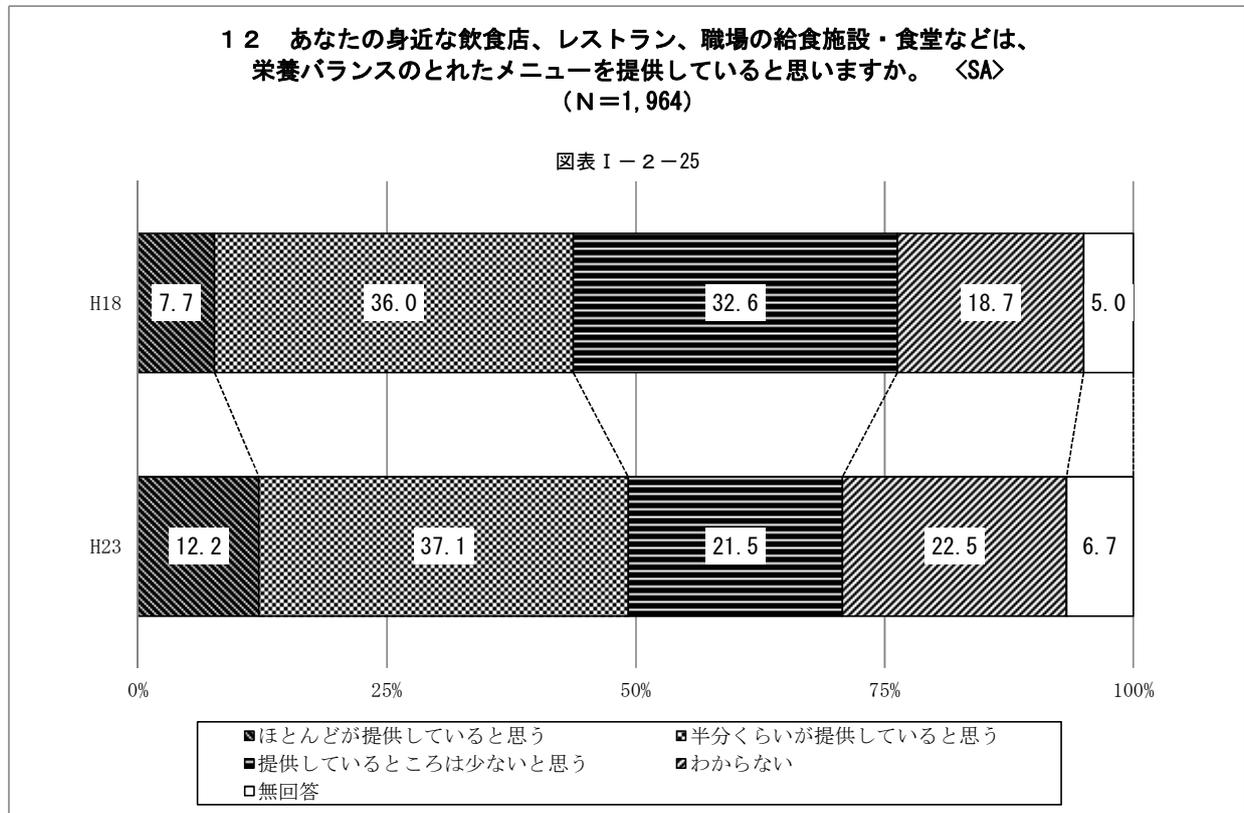
図表 I - 2 - 24



## (8) 外食の栄養バランス

12 あなたの身近な飲食店、レストラン、職場の給食施設・食堂などは、栄養バランスのとれたメニューを提供していると思いますか。

◆「提供しているところは少ないと思う」が大幅に減少



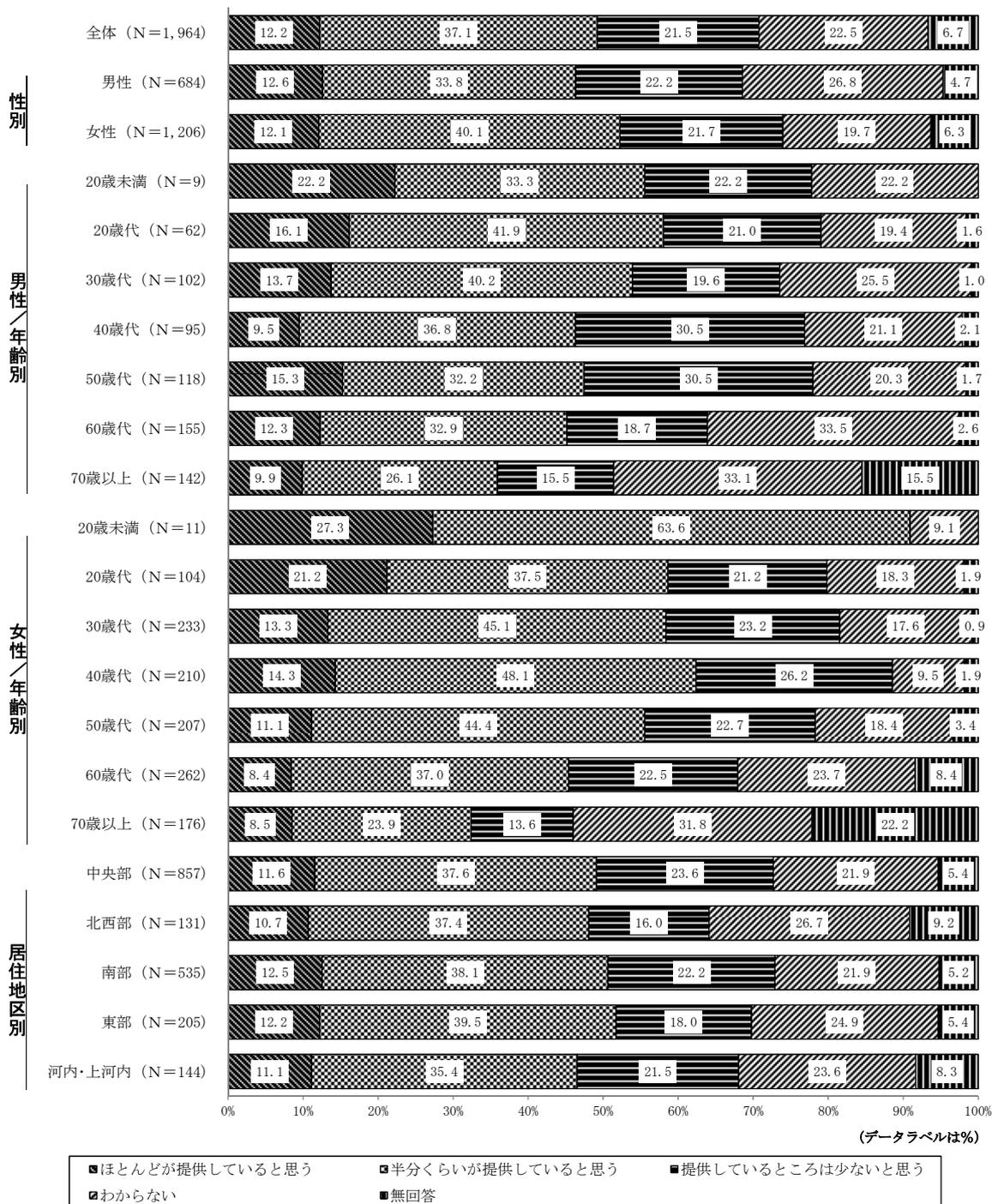
外食の場合、栄養バランスのとれたメニューを「ほとんどが提供していると思う」が7.7%から12.2%に増加し、「提供しているところは少ないと思う」が32.6%から21.5%と、大幅に減少している。最も割合が高いのは「半分くらいが提供していると思う」(37.1%)となっている。(図表 I-2-25)

【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、「女性」は「男性」よりも「半分くらいは提供していると思う」が高くなっている。  
 性・年齢別で見ると、男女ともに「半分くらいが提供していると思う」の割合が高くなっているが、「70歳以上」では「わからない」の割合が高くなっている。

居住地区別では、全地区で「半分くらいが提供していると思う」の割合が高くなっている。(図表 I-2-26)

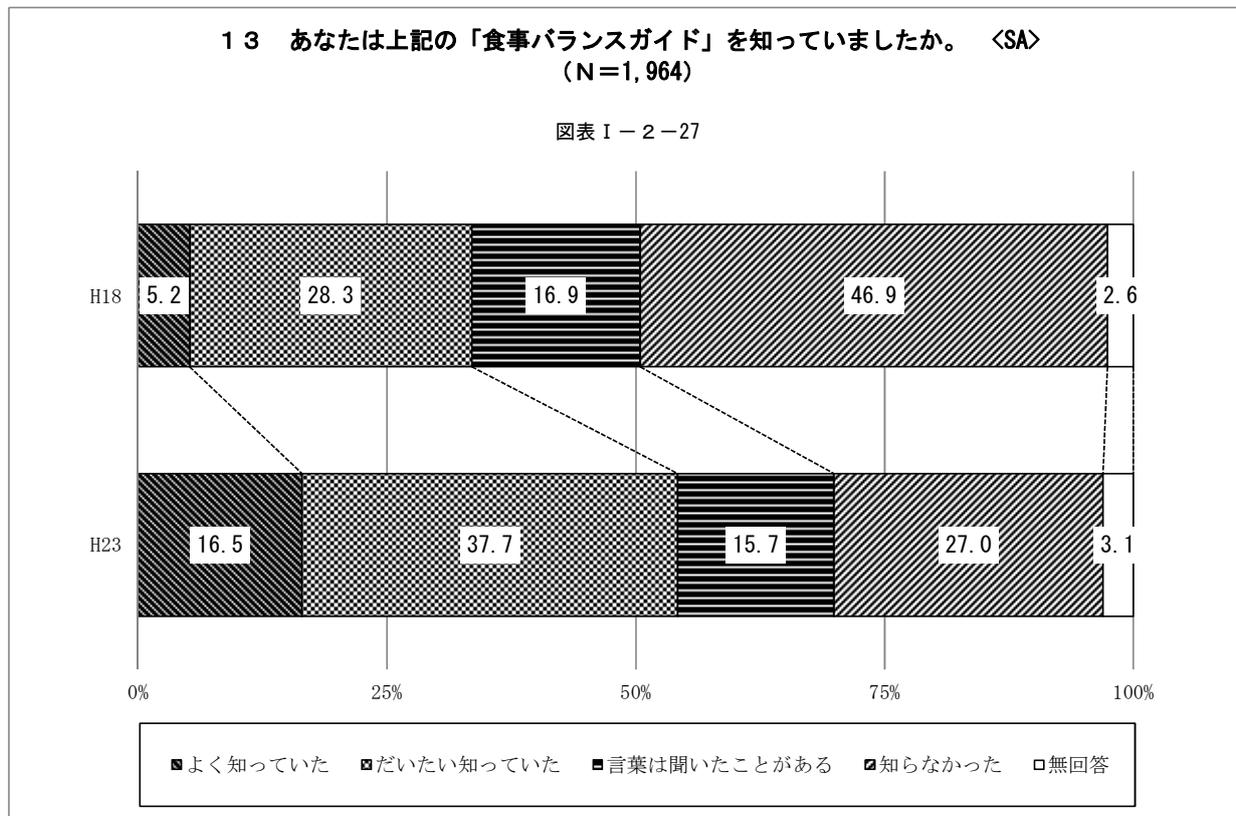
図表 I-2-26



(9) 食事バランスガイド認知度

13 あなたは上記の「食事バランスガイド」を知っていましたか。

◆「よく知っていた」が3倍以上増加、「知らなかった」が半減



「食事バランスガイド」の内容を「よく知っていた」人は、平成18年度調査では5.2%であったのに対し、今回調査では16.5%と、3倍以上となっており、「だいたい知っていた」と合わせると50% (54.2%) を超える。逆に、「知らなかった」は46.9%から27.0%にまで減少している。(図表 I-2-27)

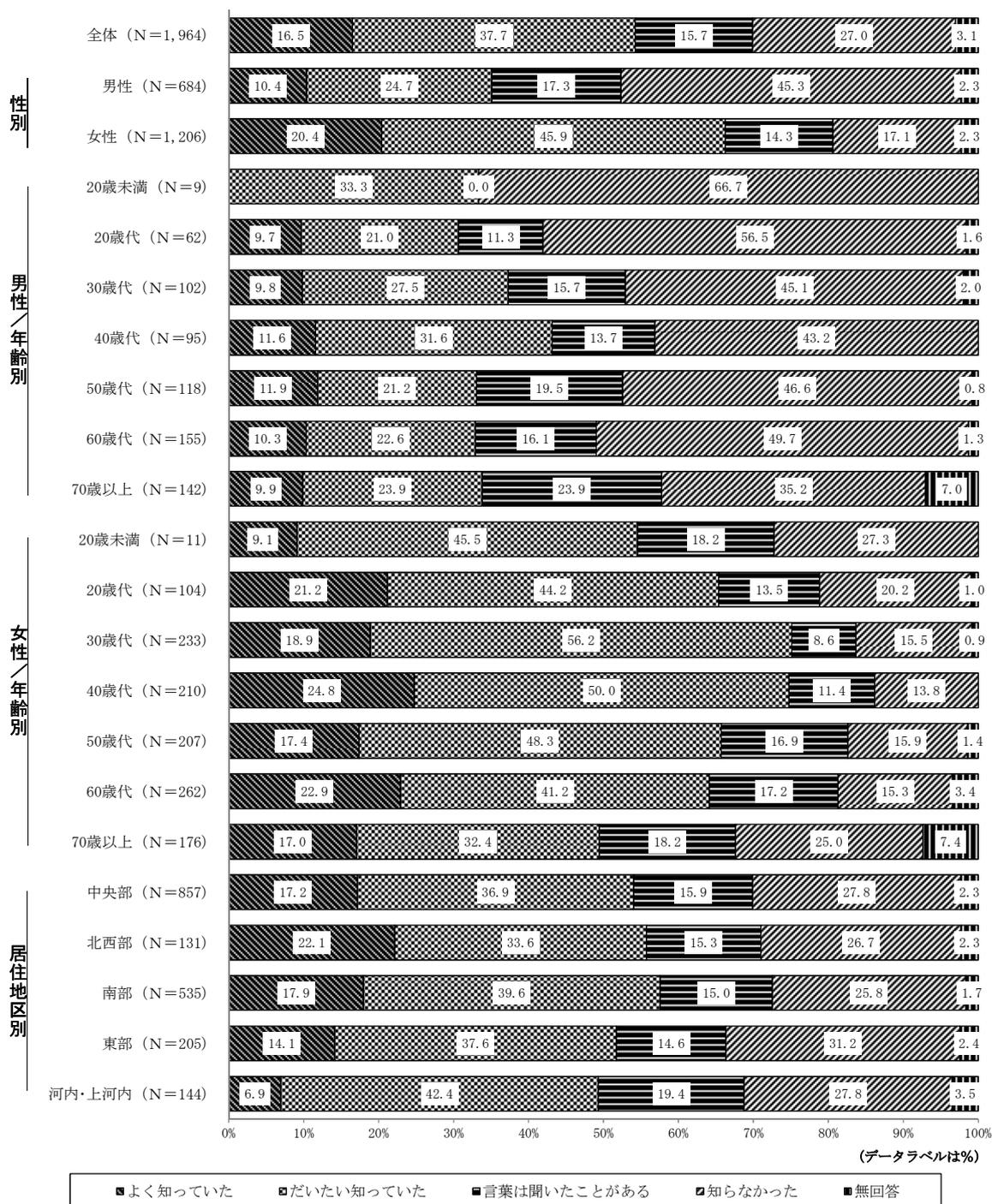
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、「だいたい知っていた」は、女性（45.9%）が男性（24.7%）を大きく上回っている。逆に、男性では「わからない」（45.3%）が4割台半ばとなっている。

性・年齢別では、「知っていた」（「よく知っていた」と「だいたい知っていた」の合計）が全年齢で女性が男性を上回っている。特に「30歳代」（75.1%）、「40歳代」（74.8%）では、7割台半ばに上っている。

居住地区別では、「知っていた」割合は全地区で大きな差はないが、「よく知っていた」は、「河内・上河内」では6.9%に留まっており、最も少なくなっている。（図表I-2-28）

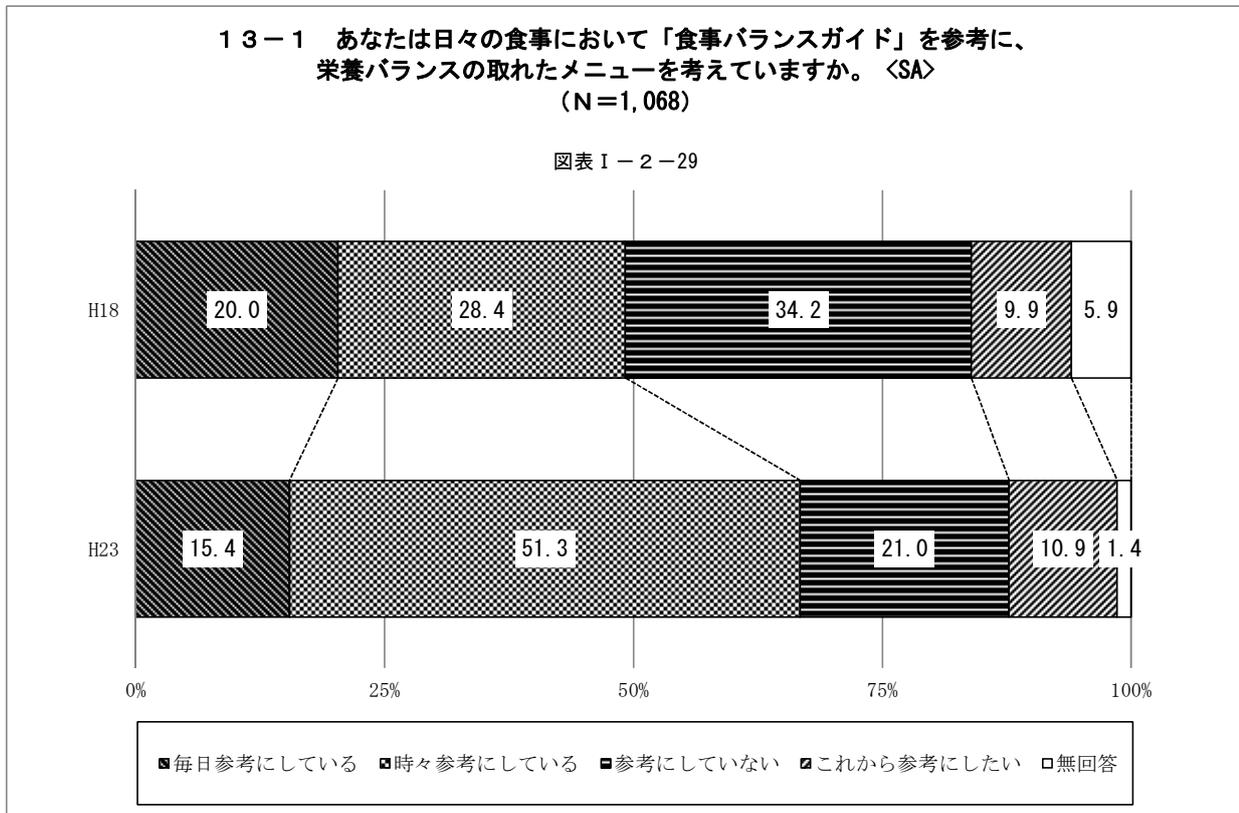
図表 I - 2 - 28



## (9-1) ガイド利用度

13-1 あなたは日々の食事において「食事バランスガイド」を参考に、栄養バランスのとれたメニューを考えていますか。

◆「時々参考にしている」が5割超

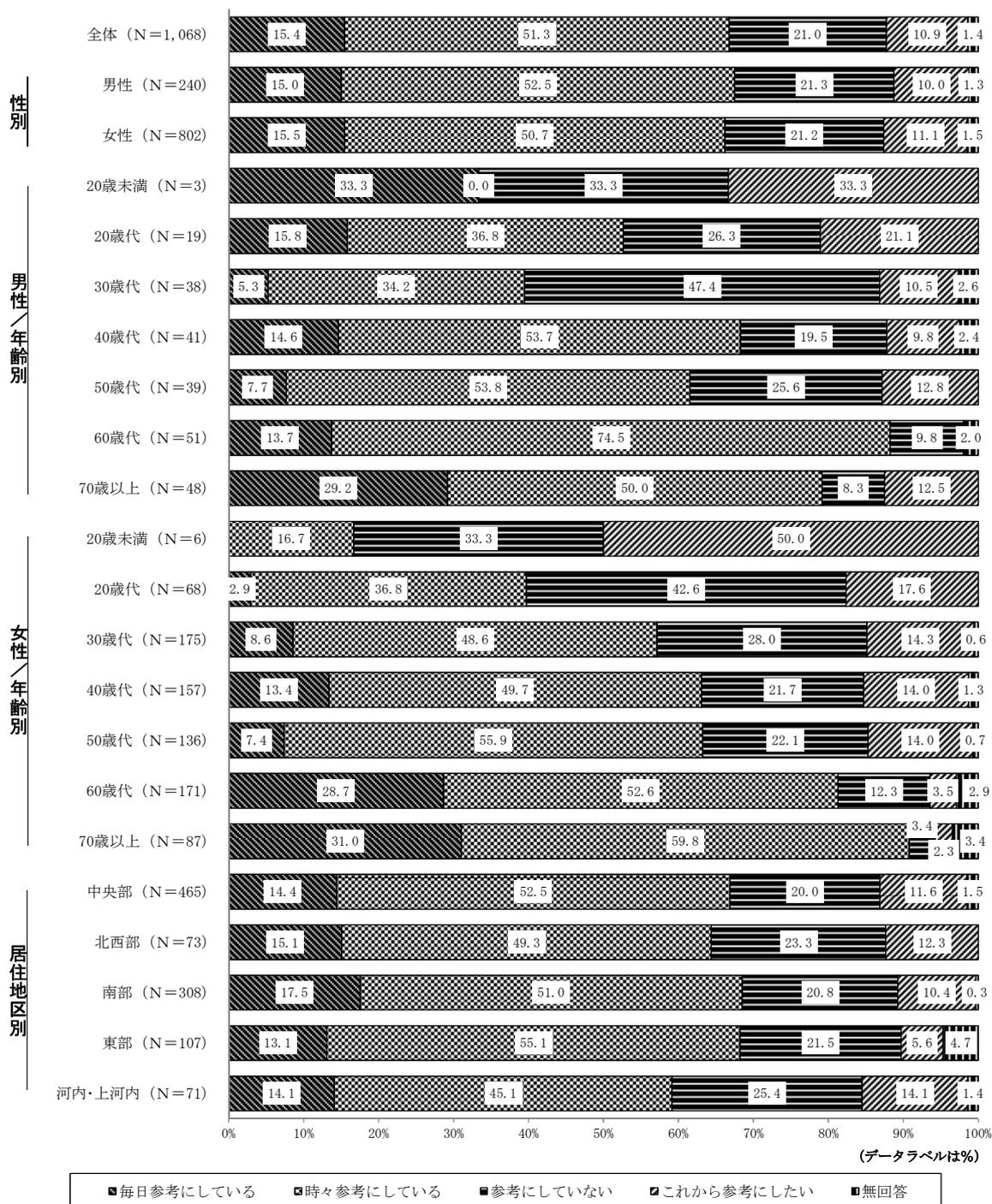


全問で「知っていた」と答えた人に、食事バランスガイドの利用度を聞いたところ、「時々参考にしている」が51.3%と半数を超え、平成18年度調査からほぼ倍となっている。逆に、「参考にしていない」(21.0%)が大幅に減少している。(図表 I-2-29)

【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女ともほとんど差はなく、「時々参考にしている」が最も多くなっている。  
 性・年齢別では、男女とも「20歳代」で「参考にしていない」が40%台となっている。  
 居住地区別においても大きな差はなく、「時々参考にしている」が40%台半ばから50%台半ばとなっている。(図表I-2-30)

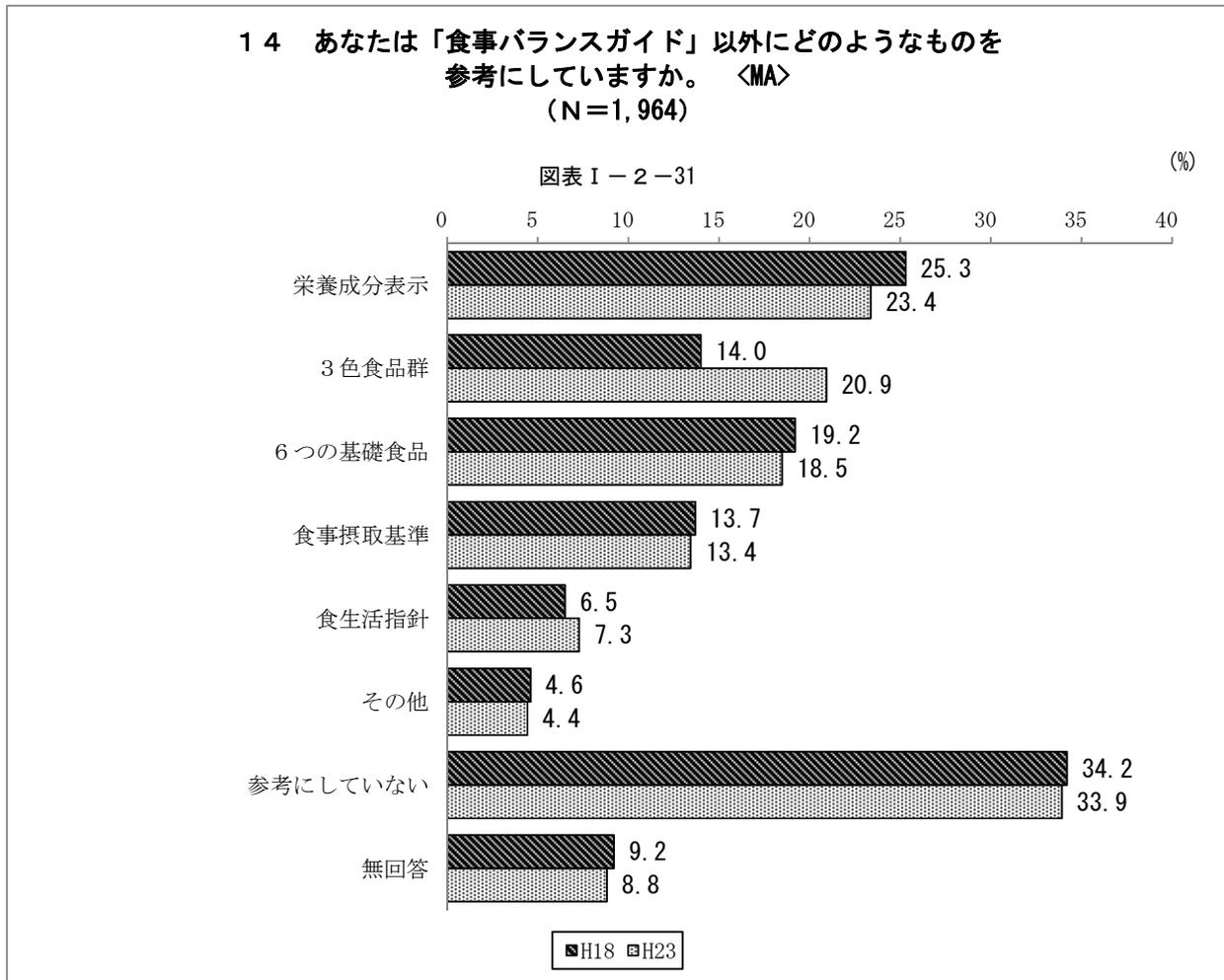
図表 I - 2 - 30



(10) ガイド以外の参考

14 あなたは「食事バランスガイド」以外にどのようなものを参考にしていますか。

◆「3色食品群」が増加



「食事バランスガイド」以外に参考しているものは、「栄養成分表示」(23.4%)、「3色食品群」(20.9%)、「6つの基礎食品」(18.5%)の順となっているが、中でも「3色食品群」の増加が目立つ。一方、3割超の人が「参考にしていない」(33.9%)と回答している。(図表 I-2-31)

【性別／性・年齢別／地区別】

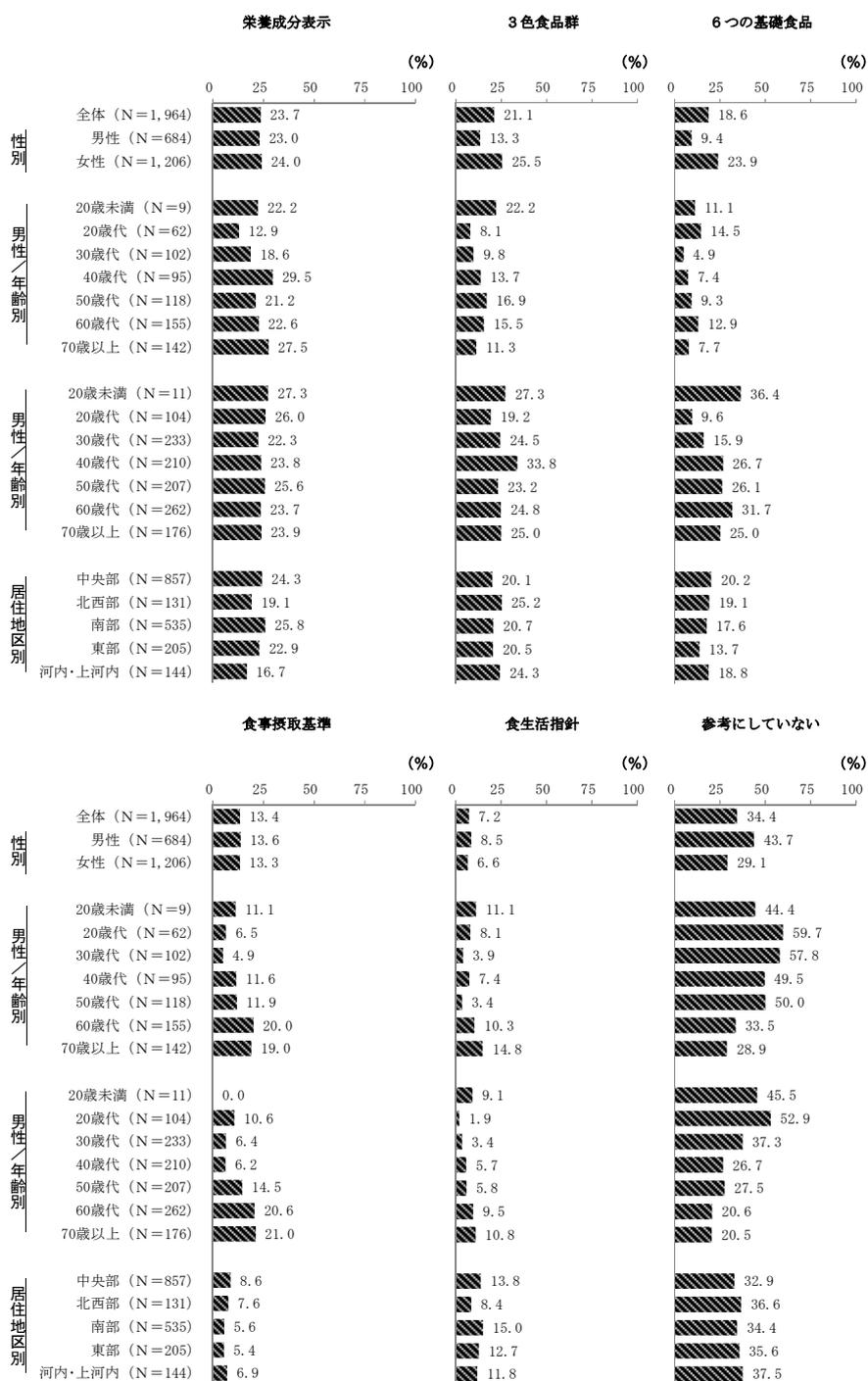
性別で見ると、男性は「参考にしていない」(43.7%)が4割台半ばに上っているのに対し、女性は29.1%に留まっている。

性・年齢別では、男性の「20歳代」、「30歳代」で「参考にしていない」の割合が50%を超えている。全体的に「女性」の方が割合が高くなっている。

居住地区別では、「参考にしていない」が最も高くなっており、他の項目で大きな差は見られない。

(図表 I - 2 - 32)

図表 I - 2 - 32

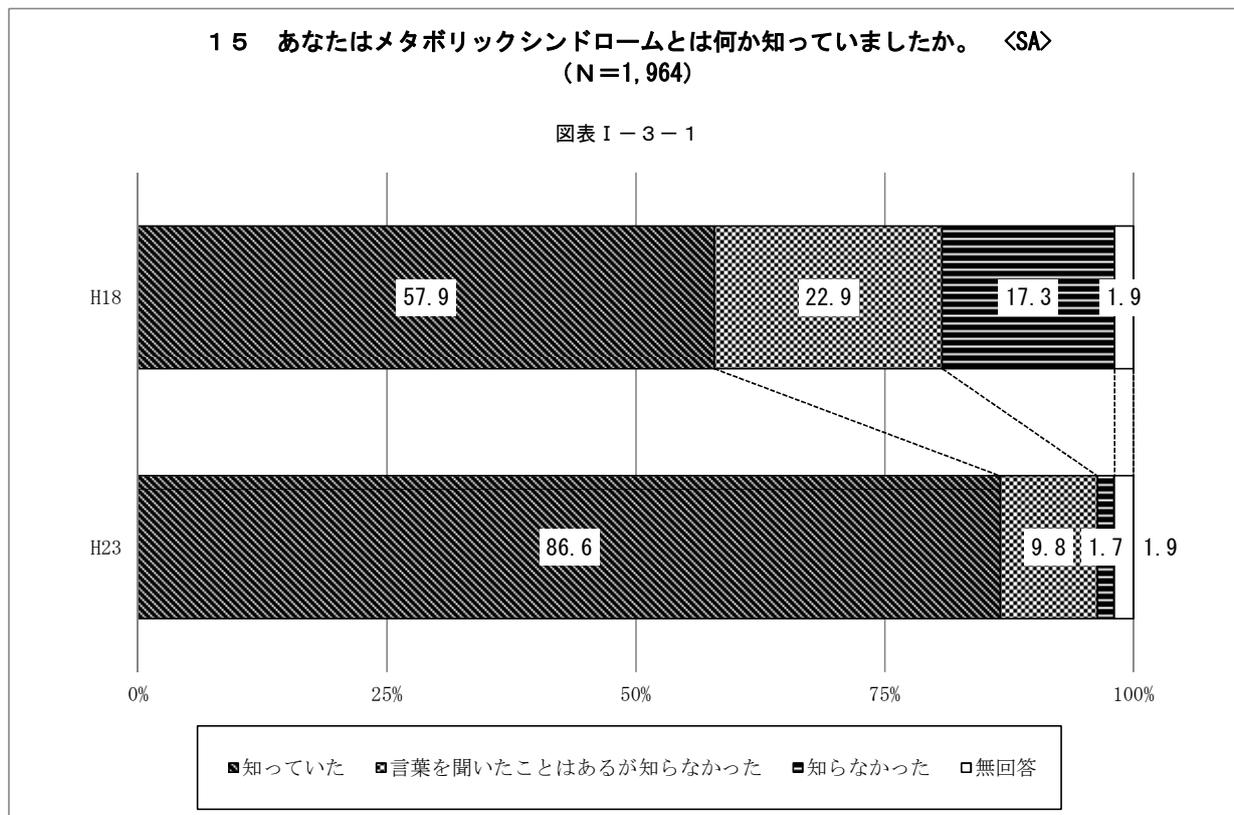


### Ⅲ メタボリックシンドロームについて

#### (1) メタボリックシンドロームの認知度

15 あなたはメタボリックシンドロームとは何か知っていましたか。

◆9割近くが「知っていた」



メタボリックシンドロームについては、近年マスメディアでも取り上げられる機会が増加していることから、「知っていた」と回答した人が86.6%と9割近くに上り、平成18年度調査からみても、大幅に増加している。(図表 I-3-1)

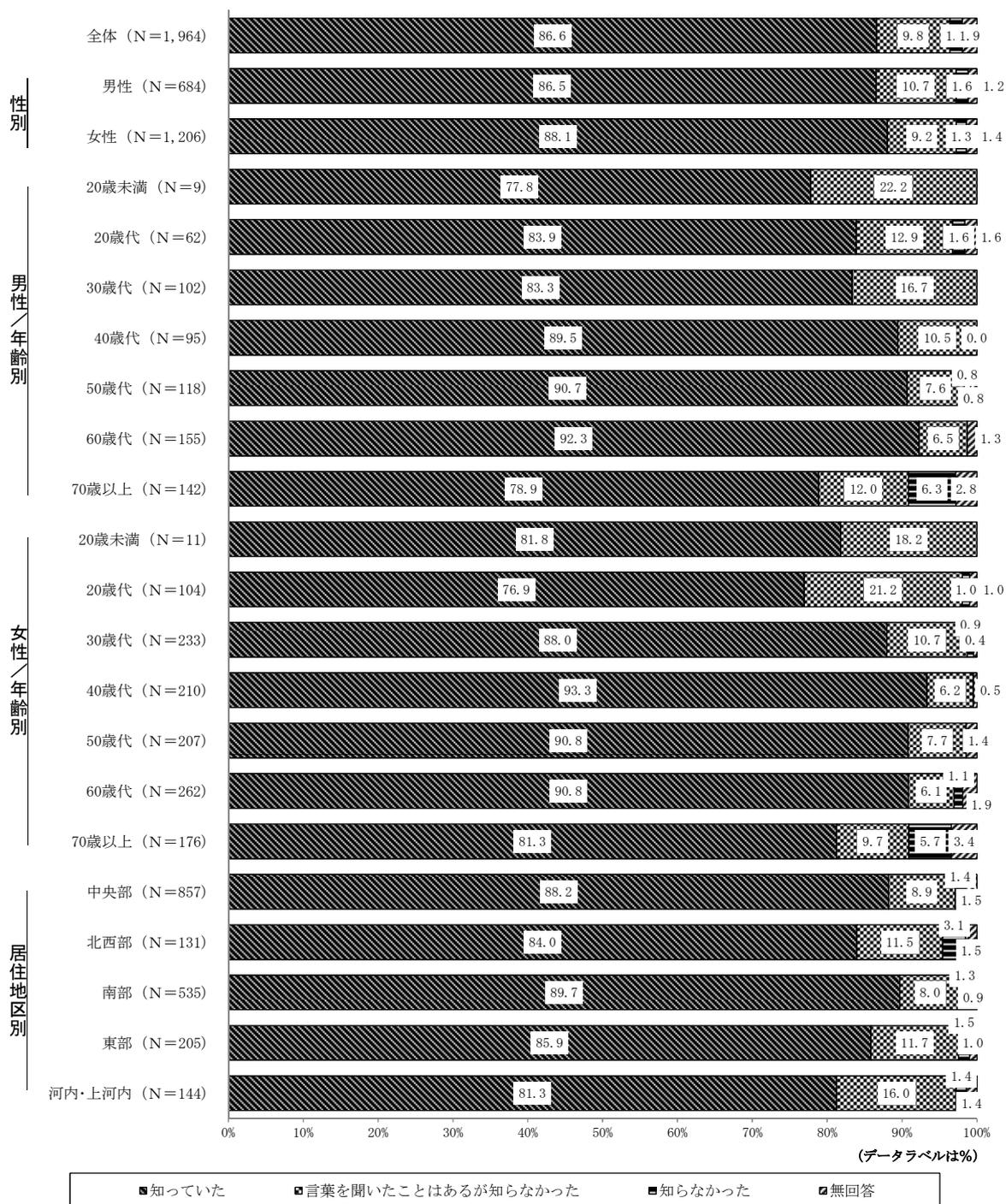
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女とも差はなく「知っていた」が80%を超えている。

性・年齢別では、男女・全年代で「知っていた」が75%を超えているが、男性「20歳未満」(22.2%)、女性「20歳代」(21.2%)で「言葉は聞いたことがあるが知らなかった」が2割台となっている。

居住地区別においても大きな開きはなく、「知っていた」が8割以上を占めている。(図表I-3-2)

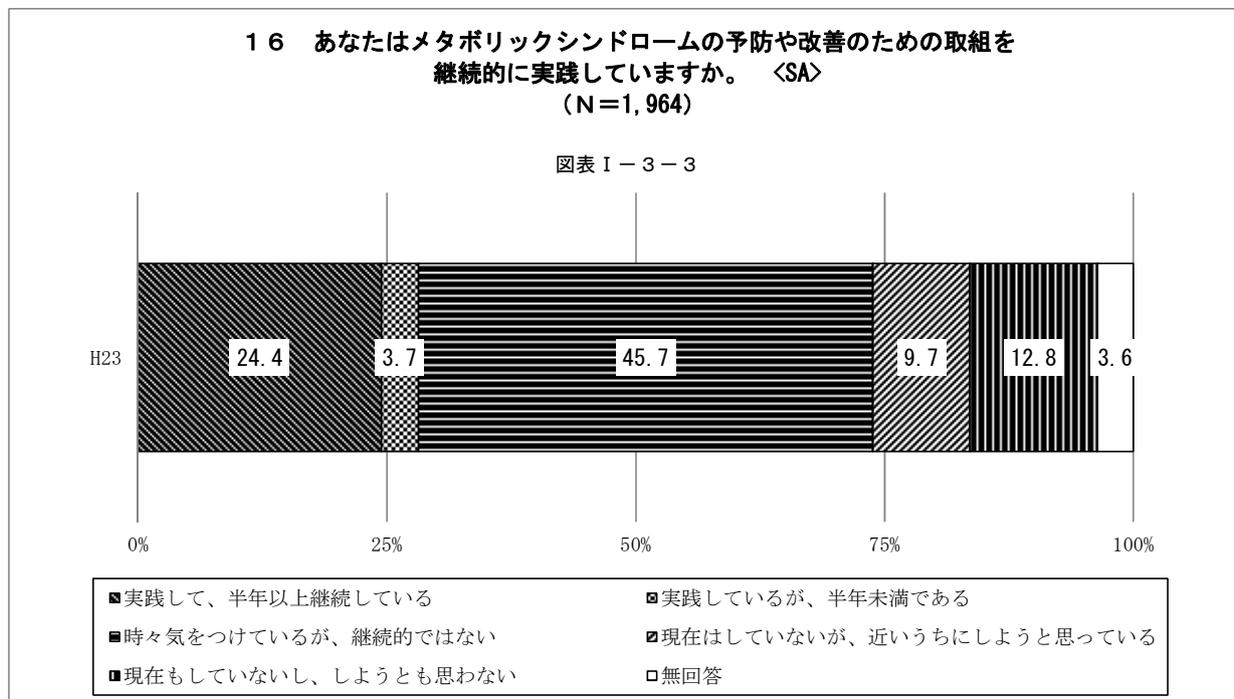
図表 I - 3 - 2



## (2) メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組の継続的实践

16 あなたはメタボリックシンドロームの予防や改善のための取組を継続的に実践していますか。

◆「時々気をつけているが、継続的ではない」が約半数



メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組について、半年以上、もしくは半年未満継続して行っている人は、「実践して、半年以上継続している」(24.4%)、「実践しているが、半年未満である」(3.7%)を合わせて28.1%に留まっている。これに対し、約半数の人が「時々気をつけているが、継続的ではない」(45.7%)と回答している。(図表 I-3-3)

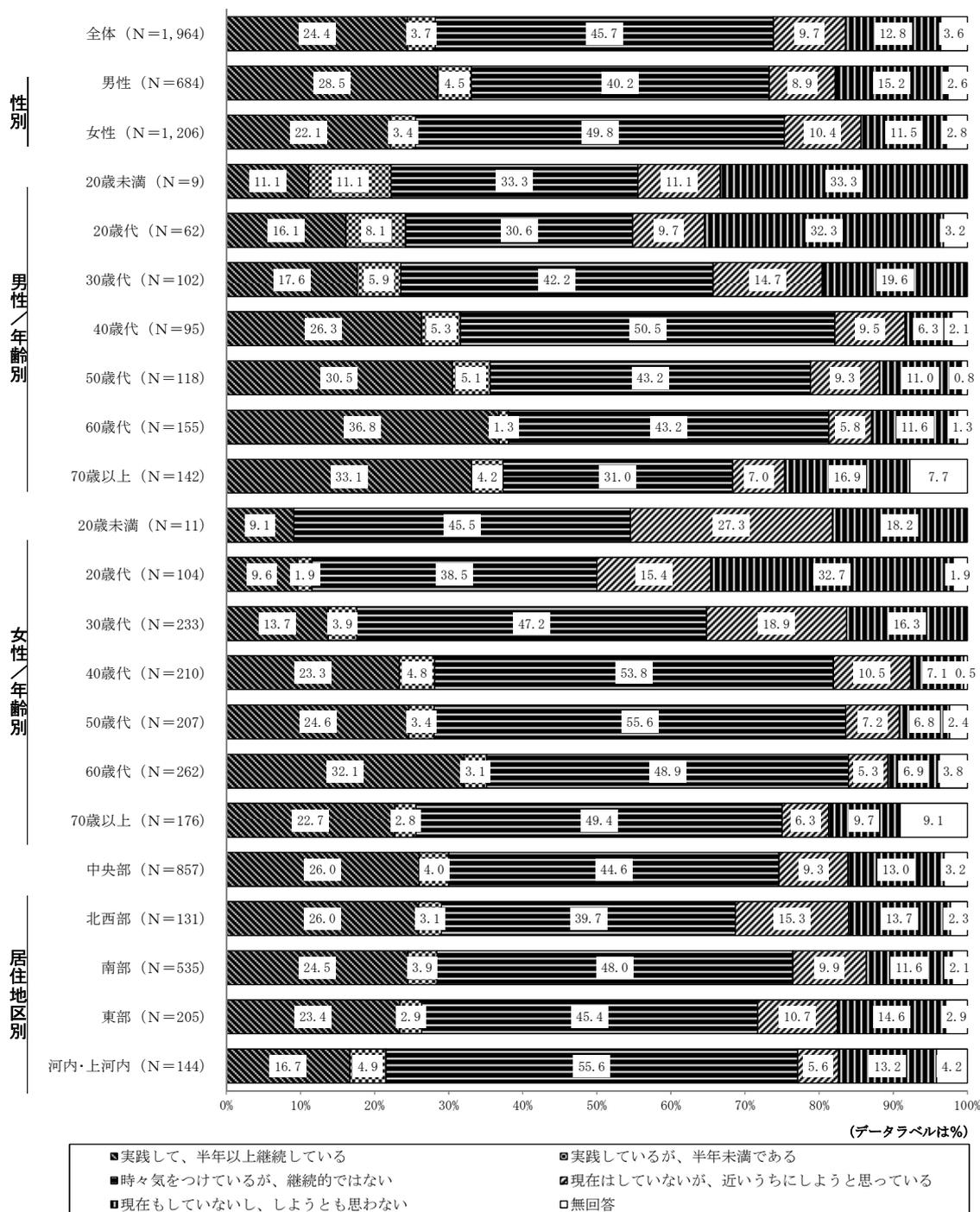
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女ともに「時々気をつけているが、継続的ではない」がもっと高く、特に「女性」は49.8%と、5割近くに上っている。

性・年齢別は、男性「50歳代」、「60歳代」、「70歳以上」で「実践して、半年以上継続している」が3割を超えている。女性は、全年齢で「時々気をつけているが、継続的ではない」が最も高くなっている。

居住地区別では、全地区で「時々気をつけているが、継続的ではない」が最も高くなっており、中でも「河内・上河内」では55.6%と、唯一5割を超えている。(図表I-3-4)

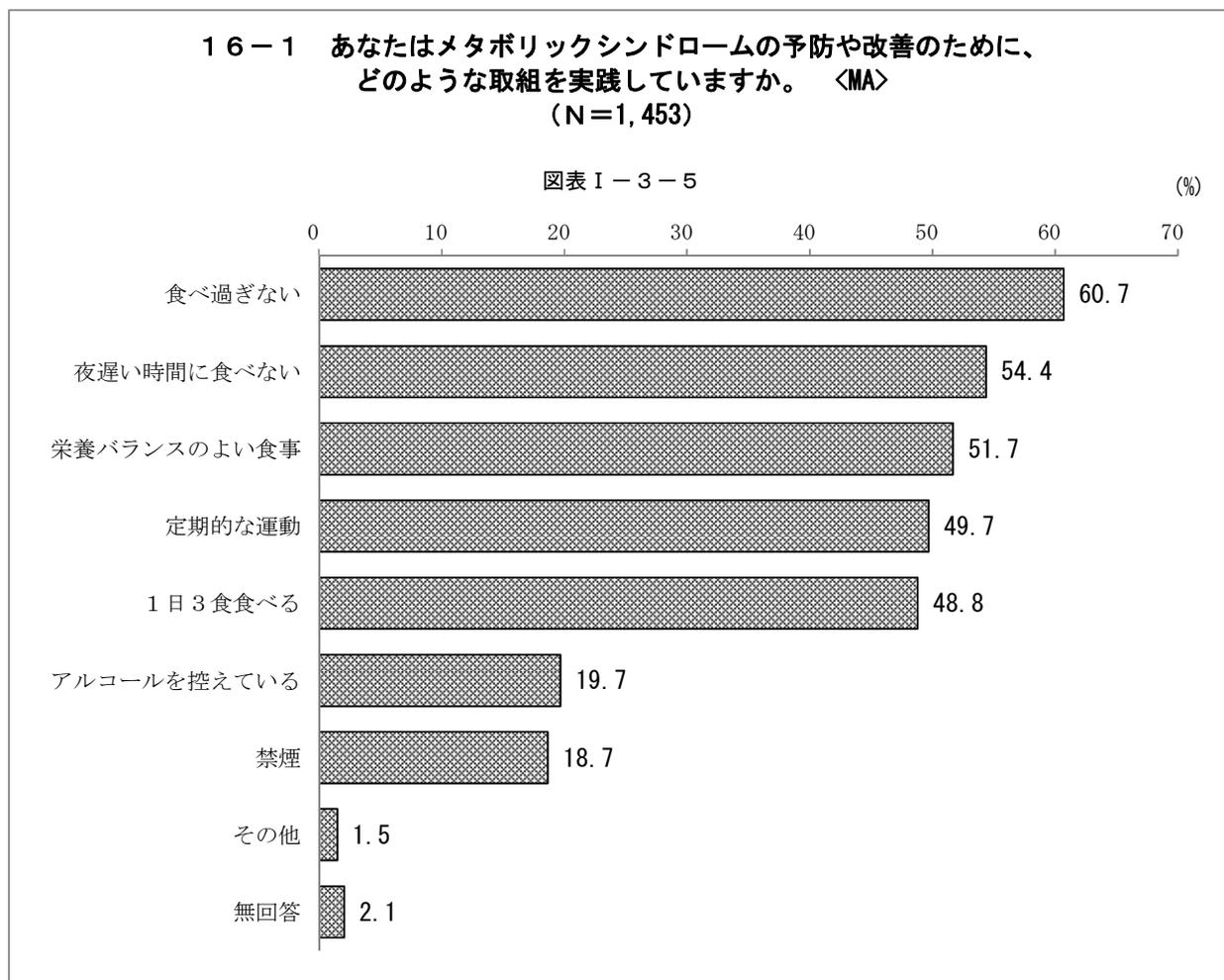
図表 I - 3 - 4



## (2-1) メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組

16-1 あなたはメタボリックシンドロームの予防や改善のために、どのような取組を実践していますか。

◆「食べすぎない」が6割超



メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組について聞いたところ、「食べすぎない」(60.7%)が6割を超え、次いで「夜遅い時間に食べない」(54.4%)、「栄養バランスのよい食事」(51.7%)の順となっている。飲酒や喫煙に対しては、20%以下の回答となっている。(図表 I-3-5)

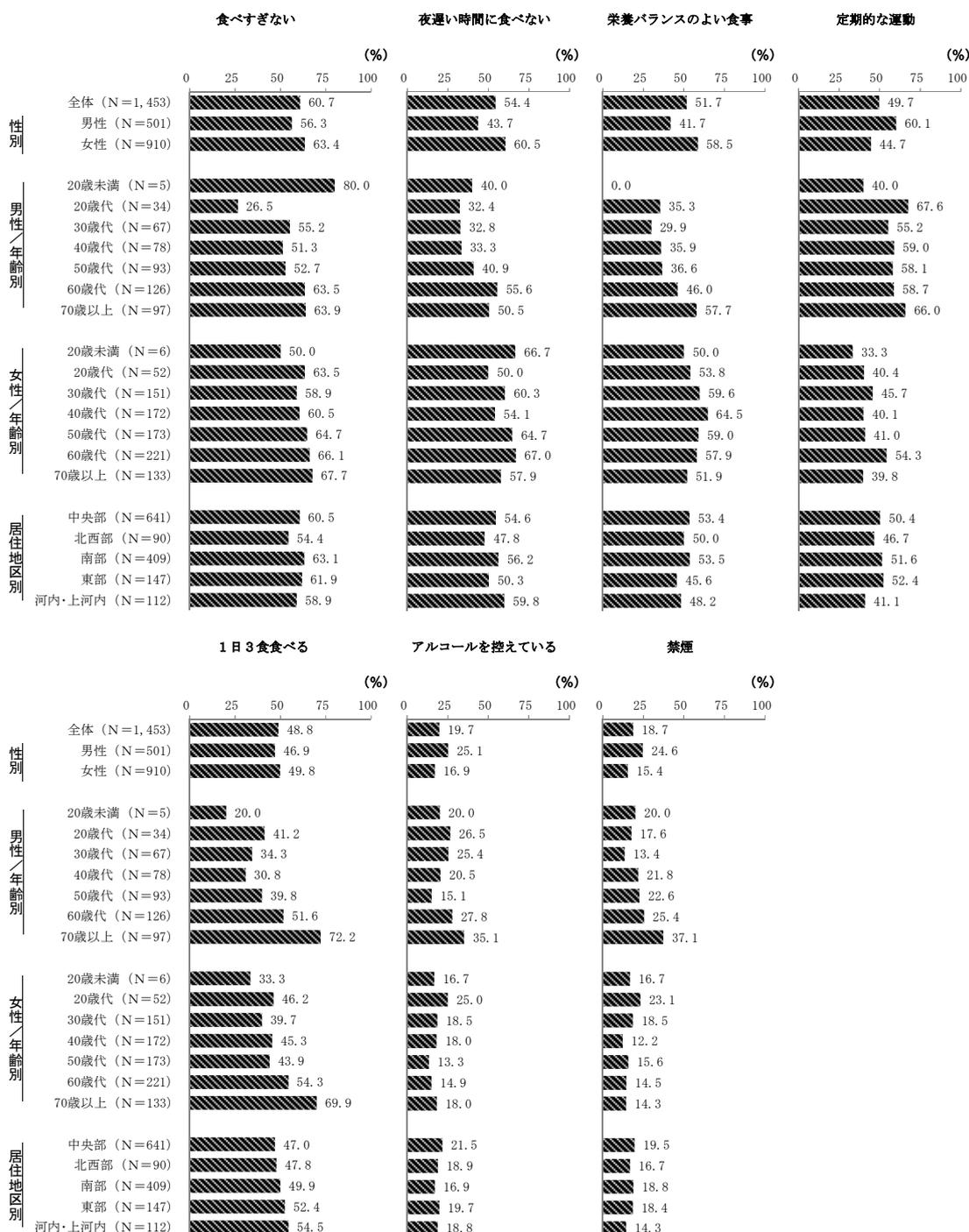
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、女性は「食べすぎない」(63.4%)、「夜遅い時間に食べない」(60.5%)で6割を超え、男性は「定期的な運動」(60.1%)で6割を超えている。

性・年齢別では、「70歳以上」の男女で「一日3食食べる」が70%前後となっている。また、女性「40歳代」は、「栄養バランスのよい食事」(64.5%)、女性「60歳代」は「夜遅い時間に食べない」(67.0%)が6割超と高い値を示している。

居住地区別では、「中央部」(60.5%)、「北西部」(54.4%)、「南部」(63.1%)、「東部」(61.9%)で「食べすぎない」が多くなっているが、「河内・上河内」のみ「夜遅い時間に食べない」(59.8%)が最も多くなっている。(図表I-3-6)

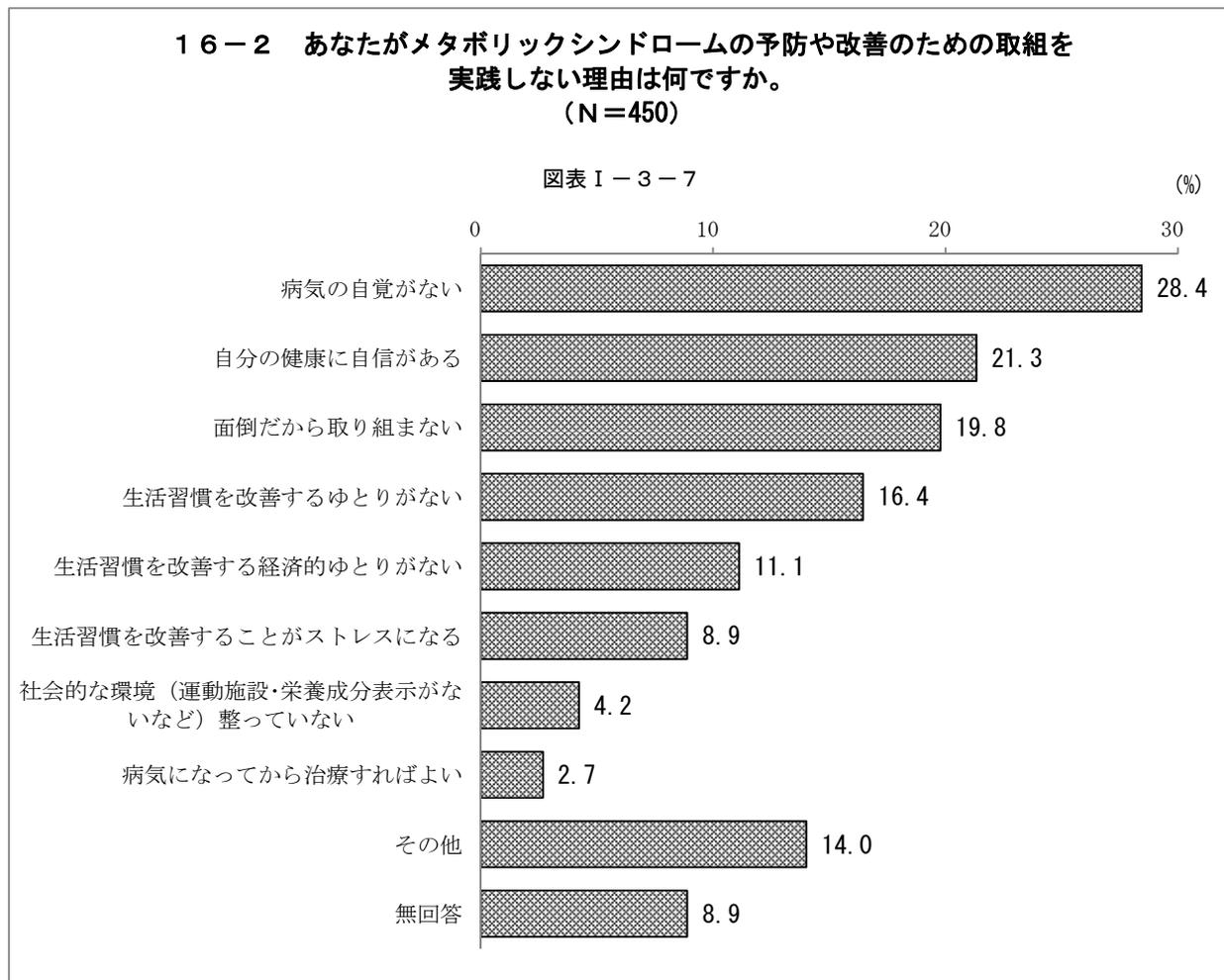
図表 I - 3 - 6



## (2-2) 予防や改善のための取組を実践しない理由

16-2 あなたがメタボリックシンドロームの予防や改善のための取組を実践しない理由は何ですか。

◆「病気の自覚がない」が約3割



予防や改善のための取組を実践しない理由は、「病気の自覚がない」(28.4%)が最も多く、次いで、「自分の健康に自信がある」(21.3%)、「面倒だから取り組まない」(19.8%)の順となっている。(図表 I-3-7)

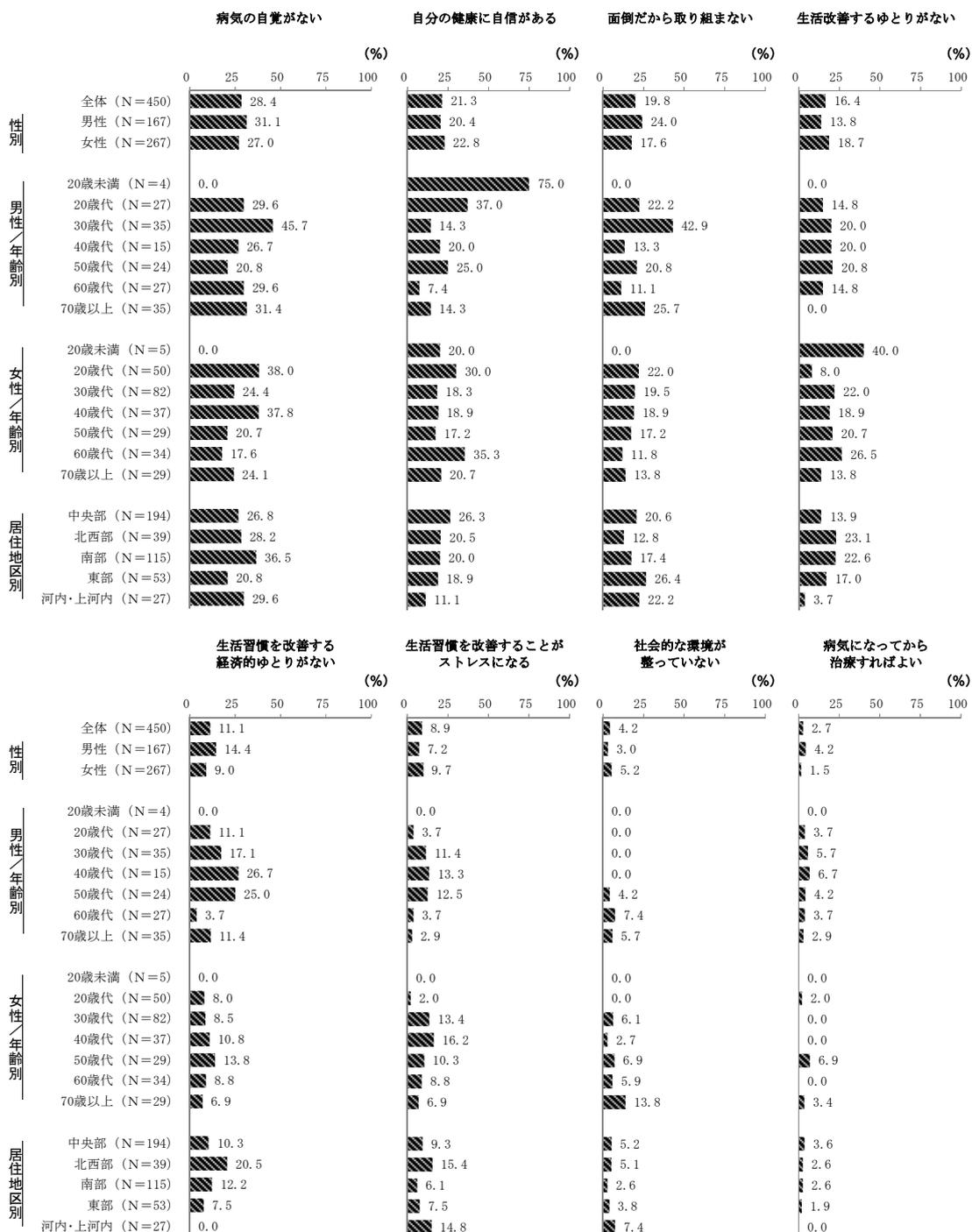
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男性では「面倒だから取り組まない」(24.0%)が女性より約7%高くなっている。逆に、女性は、「生活改善するゆとりがない」(18.7%)が男性より約5%高くなっている。

性・年齢別では、男性「30歳代」が、「病気の自覚がない」(45.7%)、「面倒だから取り組まない」(42.9%)と4割台に達している。女性では「40歳代」で「病気の自覚がない」(37.8%)が目立っている。

居住地区別では、「東部」以外で「病気の自覚がない」が最も多くなっているが、「東部」では「面倒だから取り組まない」(26.4)が高くなっている。(図表I-3-8)

図表 I - 3 - 8

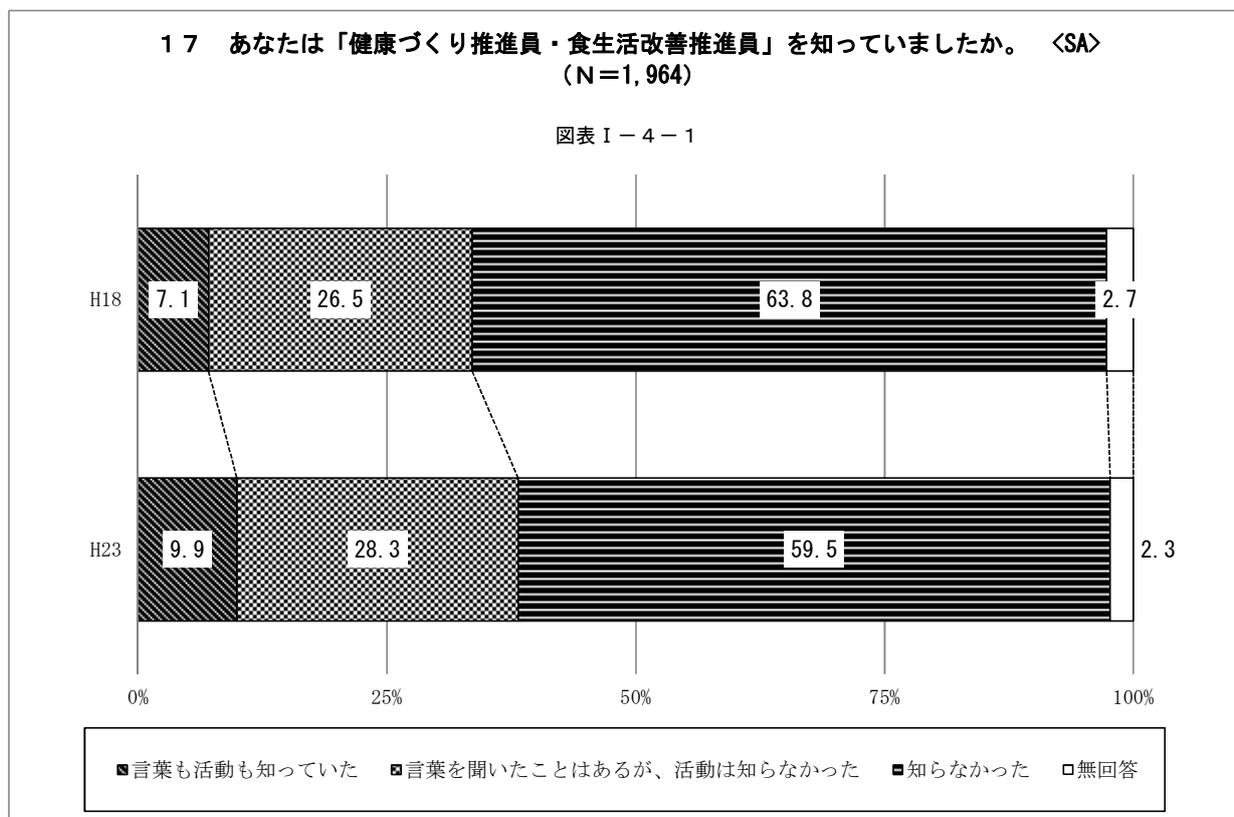


## IV ボランティア活動（健康づくり推進員・食生活改善推進員）について

### （1）健康づくり推進員・食生活改善推進員の認知度

17 あなたは「健康づくり推進員・食生活改善推進員」を知っていましたか。

◆約6割が「知らなかった」



「健康づくり推進員・食生活改善推進員」の認知度は、平成18年度調査では6割超の人が「知らなかった」と回答しているのに対し、今回調査では59.5%と、減少している。また、「言葉も活動も知っていた」(9.9%)、「言葉を聞いたことはあるが、活動は知らない」(28.3%)が微増となっている。(図表I-4-1)

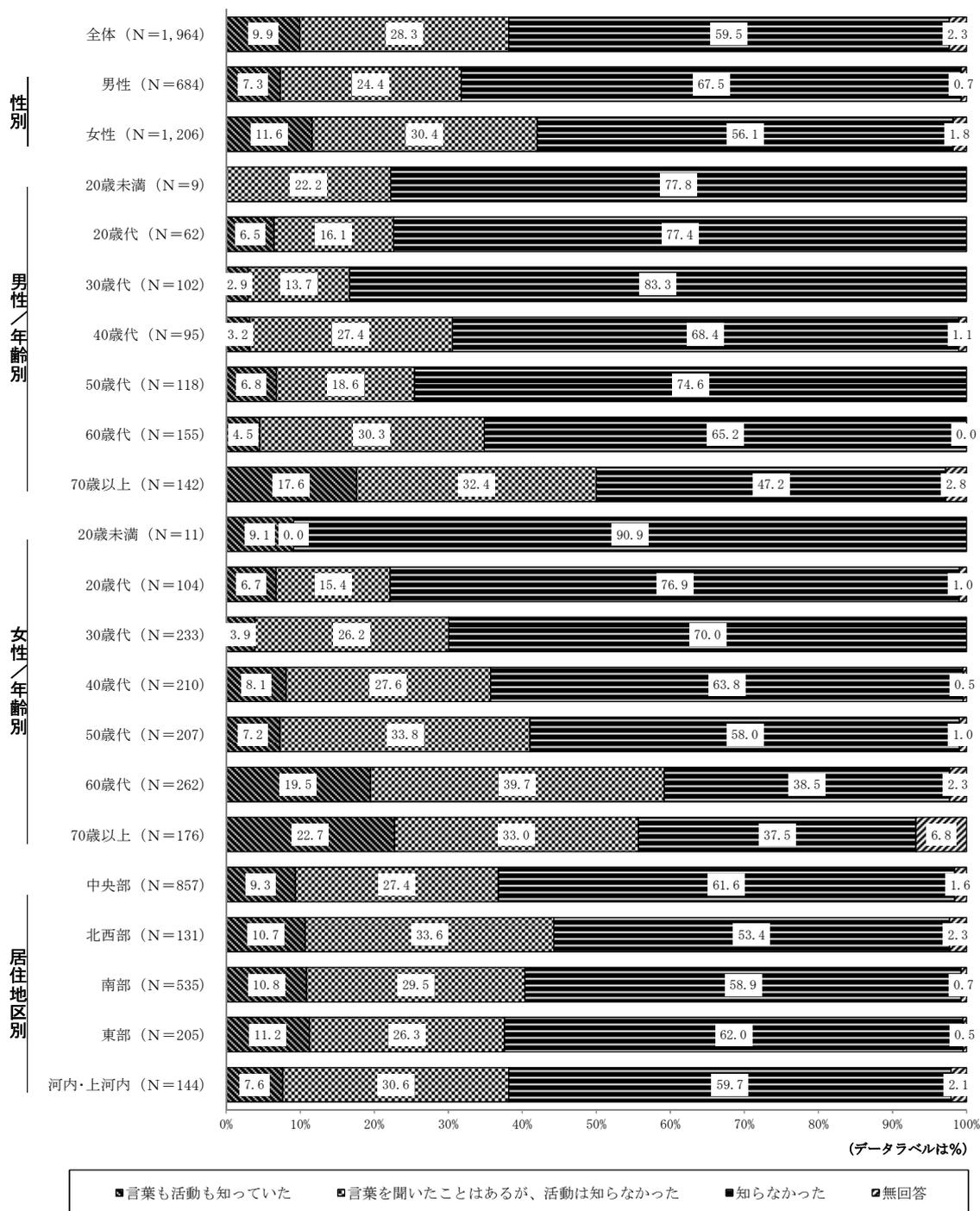
【性別／性・年齢別／地区別】

性別は、男女ともに「知らなかった」の割合が高いが、男性は67.5%と、女性56.1%より約11%高くなっている。

性・年齢別では、女性は、若年になるに従い「知らなかった」の割合が高くなり、「20歳未満」では90%、「20歳代」では7割台半ばとなっている。男性では、「知っていた」の割合が高いのは「70歳代」（32.4%）となっている。

居住地区別では、大きな開きはなく、「知らなかった」が60%前後となっている。（図表I-4-2）

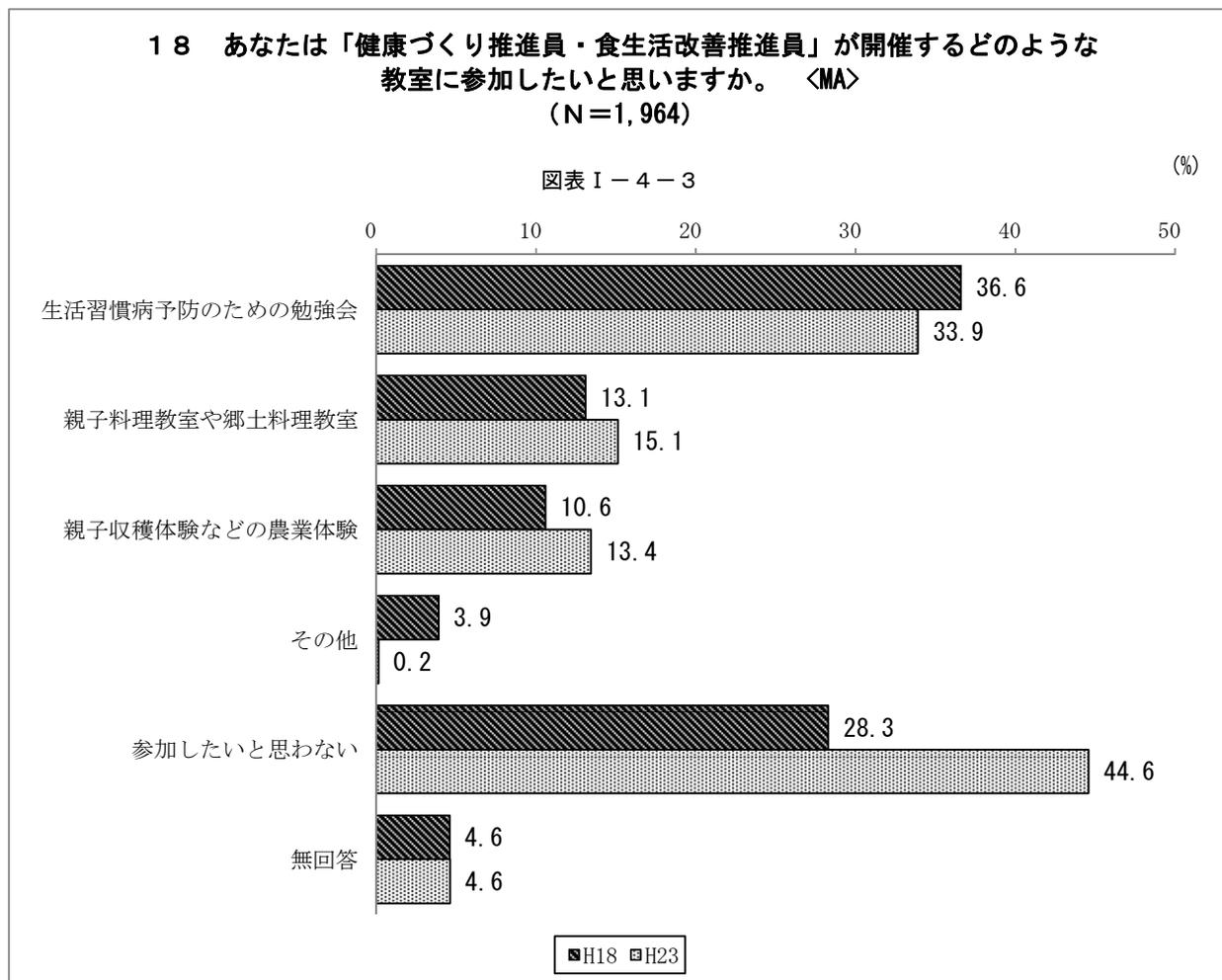
図表 I - 4 - 2



## (2) 教室・勉強会への参加意向

18 あなたは「健康づくり推進員・食生活改善推進員」が開催するどのような教室に参加したいと思いますか。

◆「参加したいと思わない」が4割台半ば



「健康づくり推進員・食生活改善推進員」が開催する教室で、参加したいものがあるか聞いたところ、「生活習慣病予防のための勉強会」(33.9%)が最も多くなっている一方で、「参加したいと思わない」が44.6%と突出している。(図表 I-4-3)

【性別／性・年齢別／地区別】

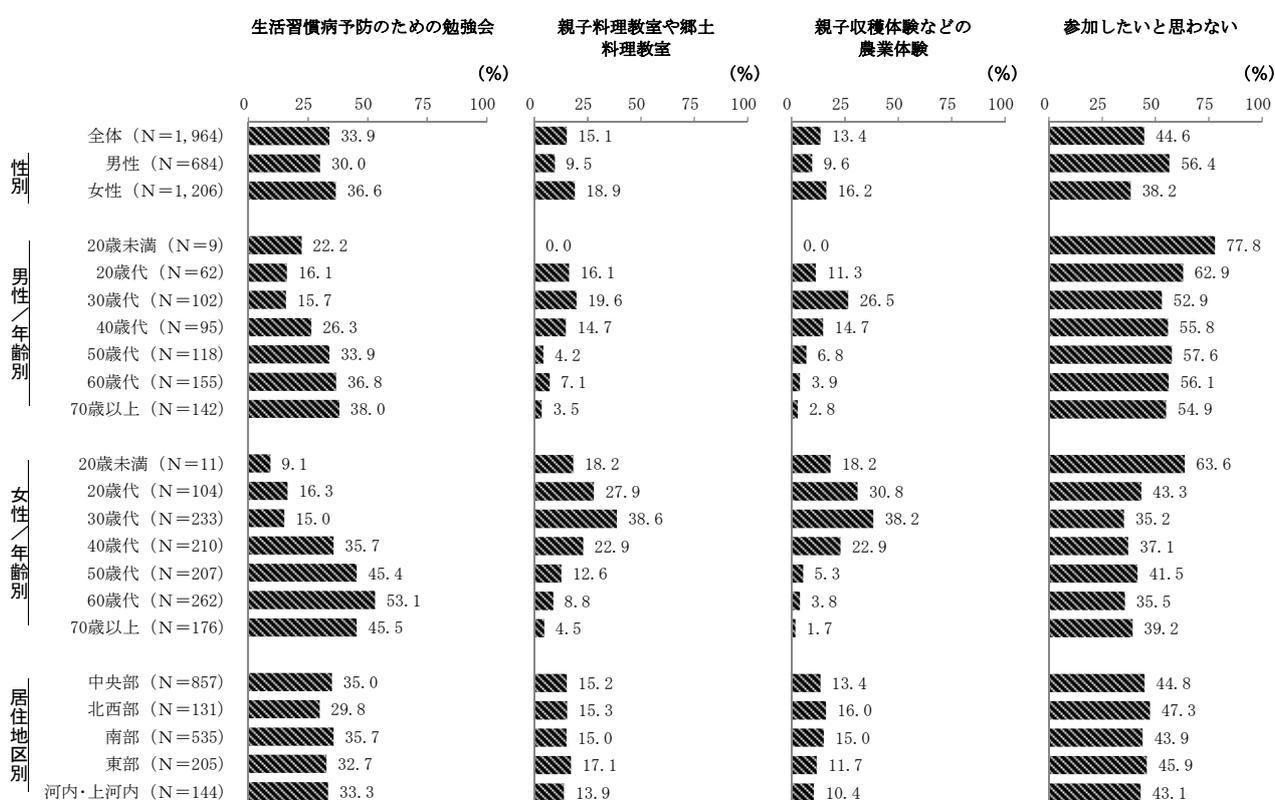
性別で見ると、勉強会などへの参加は女性の方が高くなっている。男性は、「参加したいと思わない」(56.4%)が5割を超えている。

性・年齢別では、「生活習慣病予防のための勉強会」は男女とも「40歳代」以上が多く、「親子料理教室や郷土料理教室」、「親子収穫体験などの農業体験」は、「30歳代」前後が多くなっている。

「参加したくない」は、男女とも「20歳代」が多くなっており、男性62.9%、女性43.3%に上っている。

居住地区別では、大きな開きはなく、「参加したくない」が4割台を占め、「生活習慣病予防のための勉強会」は、30%前後となっている。(図表I-4-4)

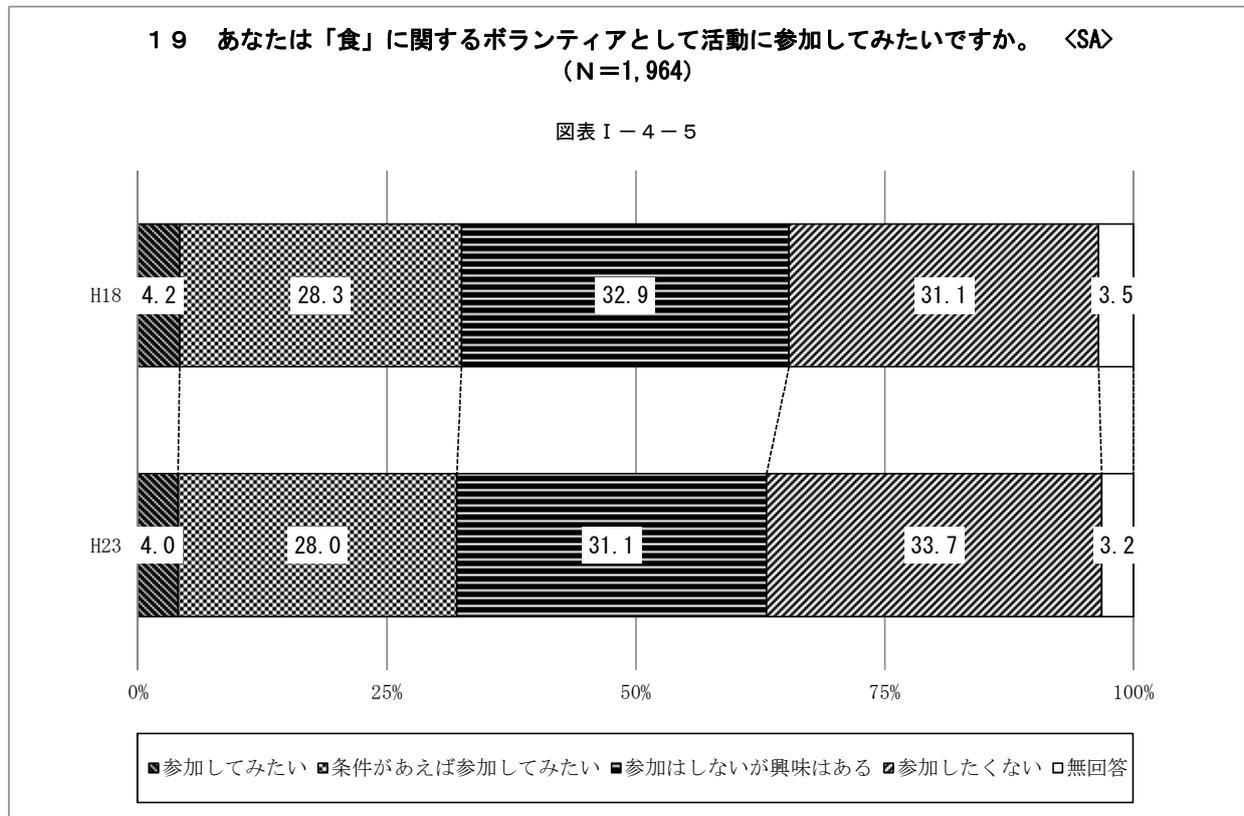
図表 I - 4 - 4



### (3) ボランティア参加意向

19 あなたは「食」に関するボランティアとして活動に参加してみたいですか。

◆6割超が「参加しない」



「食」に関するボランティアとしての活動への参加意向は、「参加はしないが興味はある」(31.1%)と「参加したくない」(33.7%)がそれぞれ3割を超えており、合わせると64.8%に上る。「参加してみたい」(「参加してみたい」と「条件があれば参加してみたい」の合計)は32.0%と、平成18年度調査からはほぼ横ばいとなっている。(図表 I-4-5)

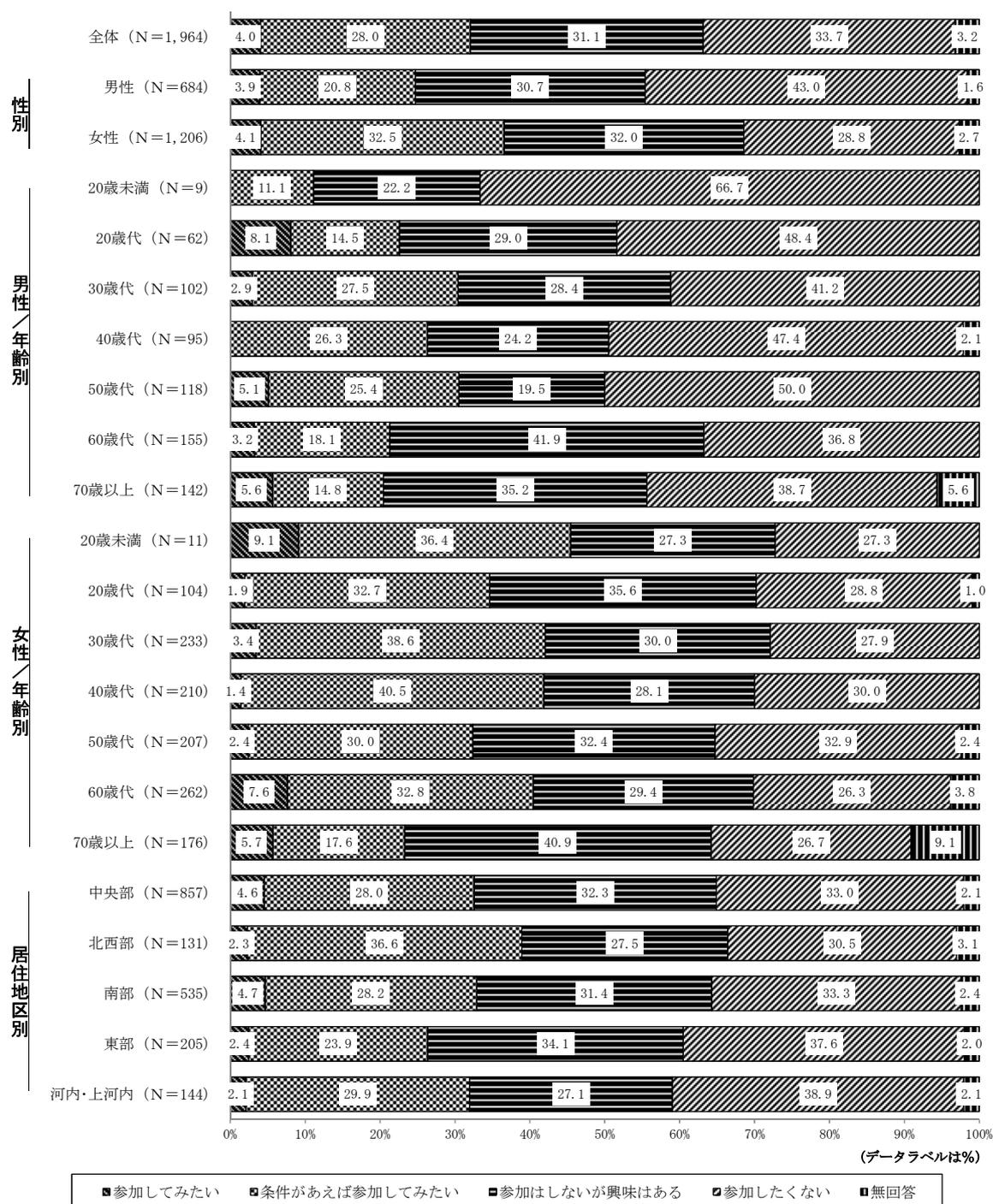
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男性は「参加したくない」(43.0%)が4割台、女性は「条件があれば参加してみたい」(32.5%)が3割台で最も高くなっている。

性・年齢別も同様に、男性では「参加したくない」の割合が高く、女性では「条件があれば参加したい」の割合が高くなっている。

居住地区別では、「条件があれば参加したい」が高くなっているのが「北西部」のみで、他は「参加したくない」の方が高くなっている。(図表 I-4-6)

図表 I-4-6

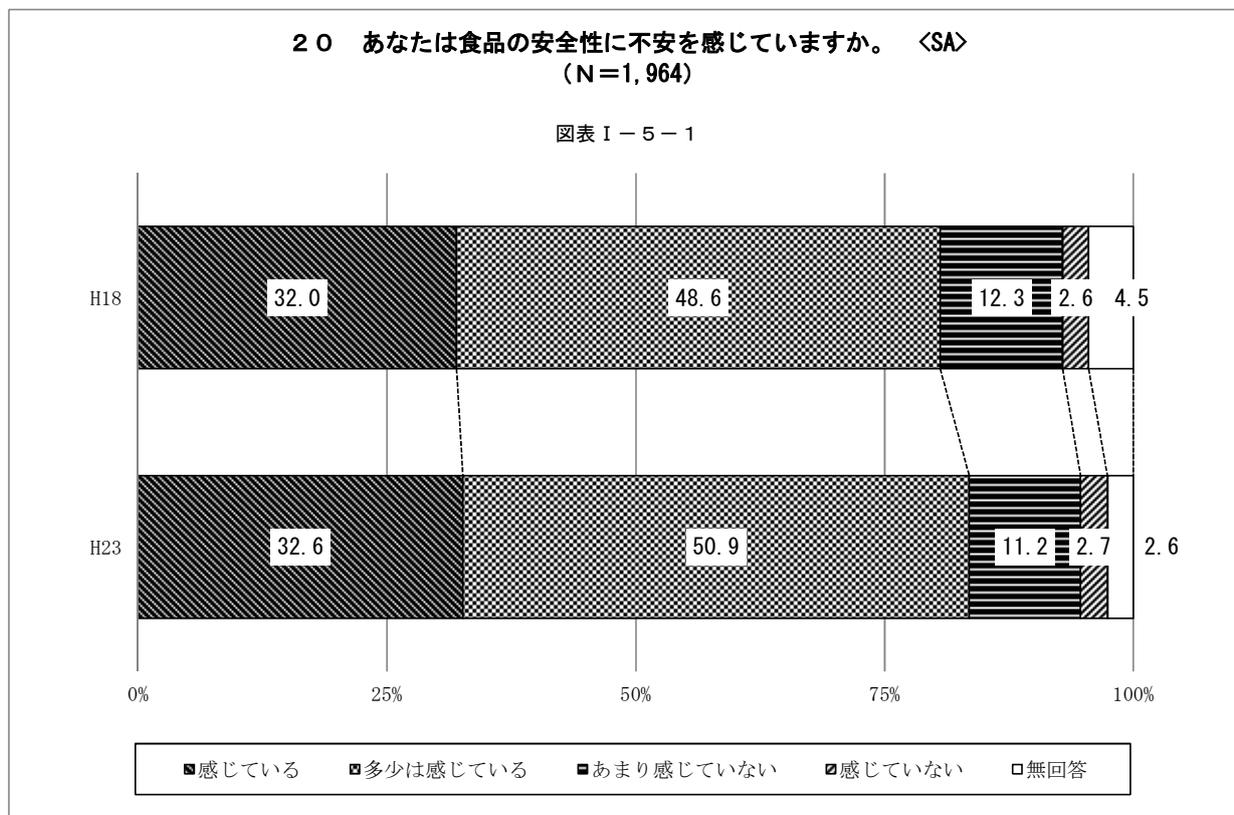


## V 食の安全・安心について

### (1) 食品の安全性への不安

20 あなたは食品の安全性に不安を感じていますか。

◆8割が「感じている」



食品の安全性に不安を感じるかは、「多少は感じている」が50.9%と半数を超え、「感じている」(32.6%)と合わせると、83.5%に上る。逆に、「あまり感じていない」(11.2%)、「感じていない」(2.7%)は、微減となっている。(図表 I-5-1)

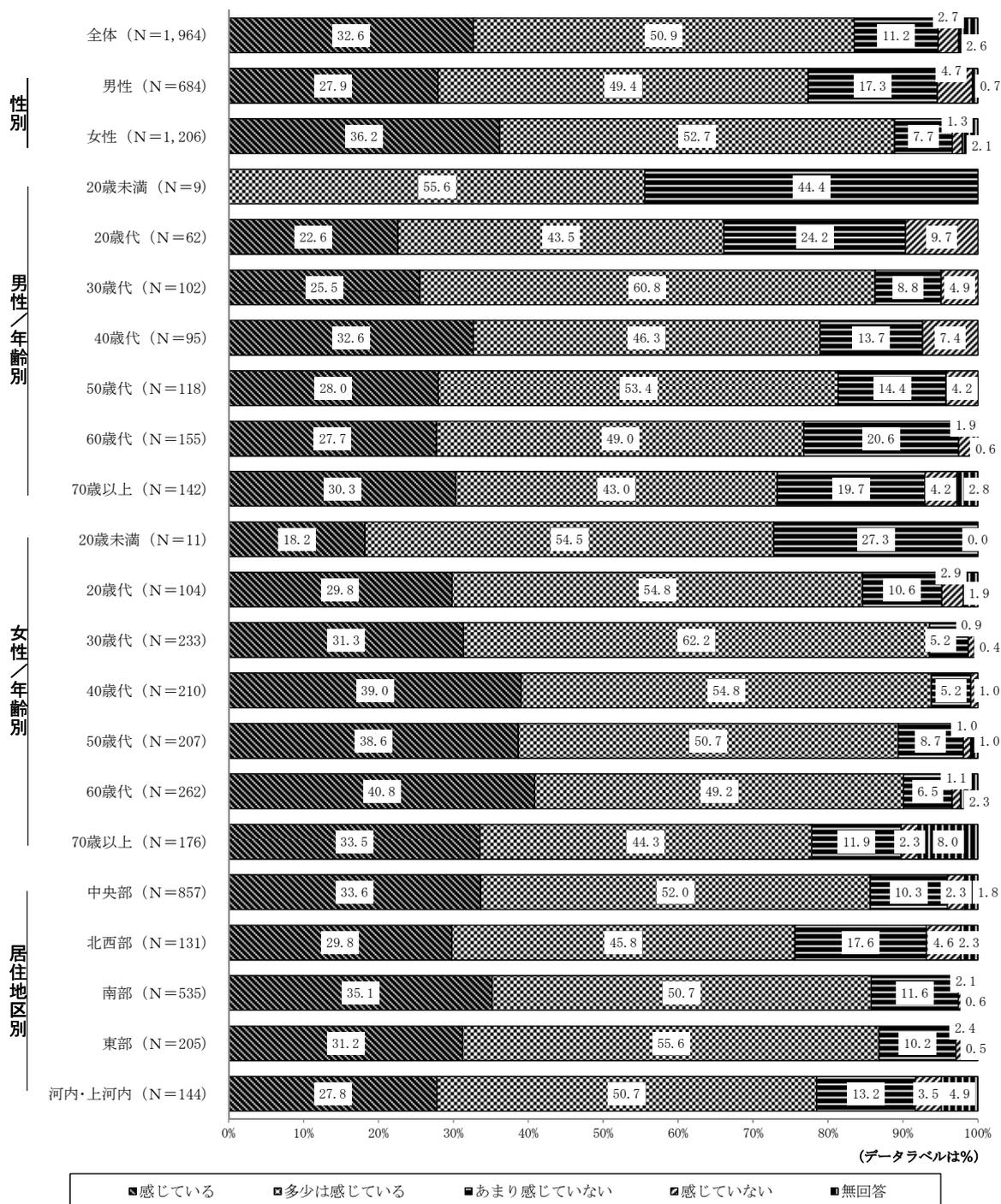
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、「感じている」（「感じている」と「多少は感じている」の合計）は、男性 77.3%、女性 88.9%となっており、女性の方が約 12%高くなっている。

性・年齢別では、男女とも「30 歳代」の「感じている」割合が高く、男性 86.3%、女性 93.5% になっており、全体的に女性の方が「感じている」割合が高くなっている。

居住地区別では、「北西部」で「感じていない」（「あまり感じていない」と「感じていない」の合計）（22.2%）が 2 割を超え、「河内・上河内」で 16.5%となっている。他地区は、「感じている」の割合が 8 割を超えている。（図表 I - 5 - 2）

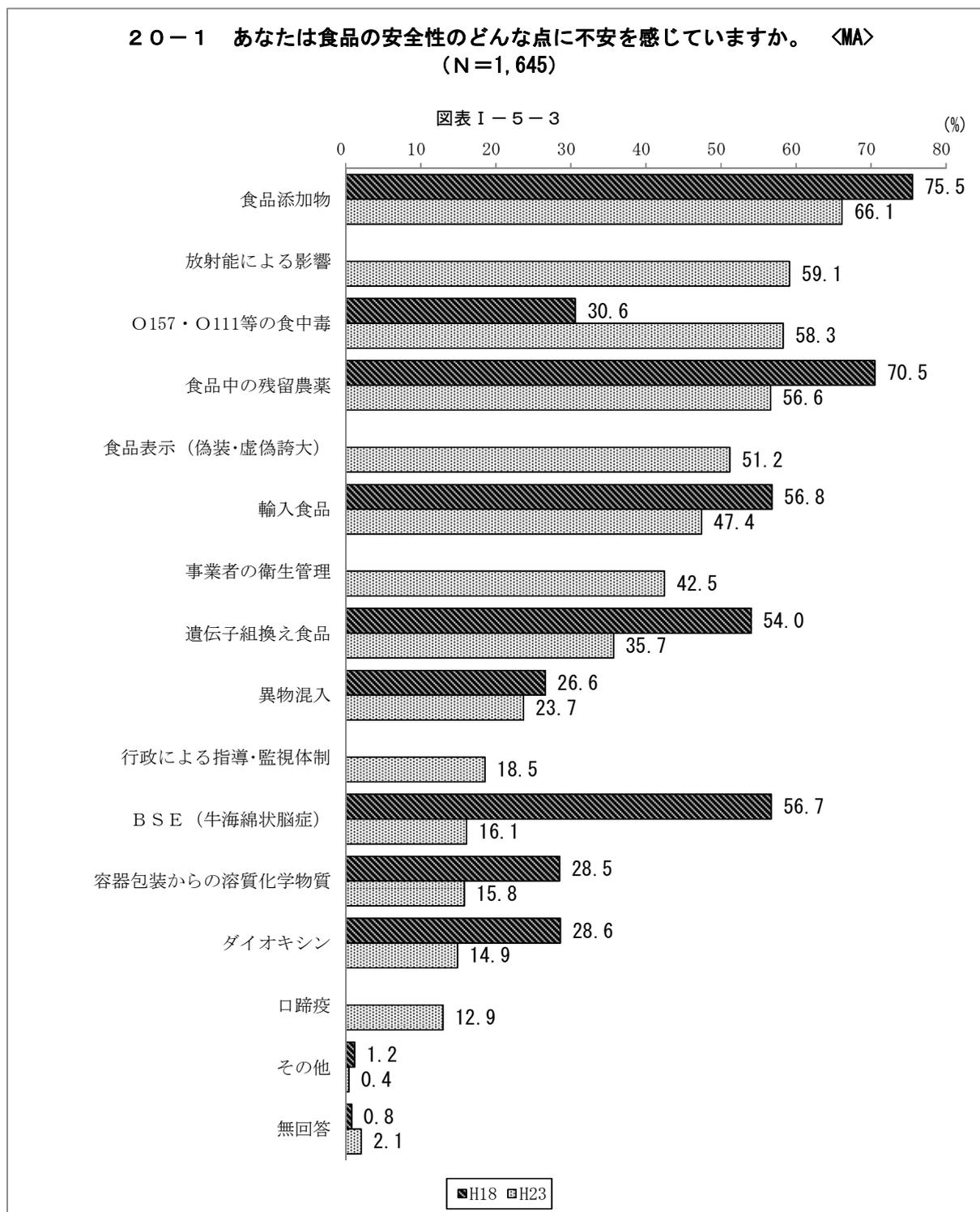
図表 I - 5 - 2



## (2) 不安の内容

20-1 あなたは食品の安全性のどんな点に不安を感じていますか。

◆「O157・O111等の食中毒」が倍増、「BSE（牛海綿状脳症）」が減少



不安の内容は、「食品添加物」が66.1%と最も多くなっているが、「O157・O111等の食中毒」の増加が目立つ一方、「BSE（牛海綿状脳症）」は約3/1程度に減少している。（図表 I-5-3）

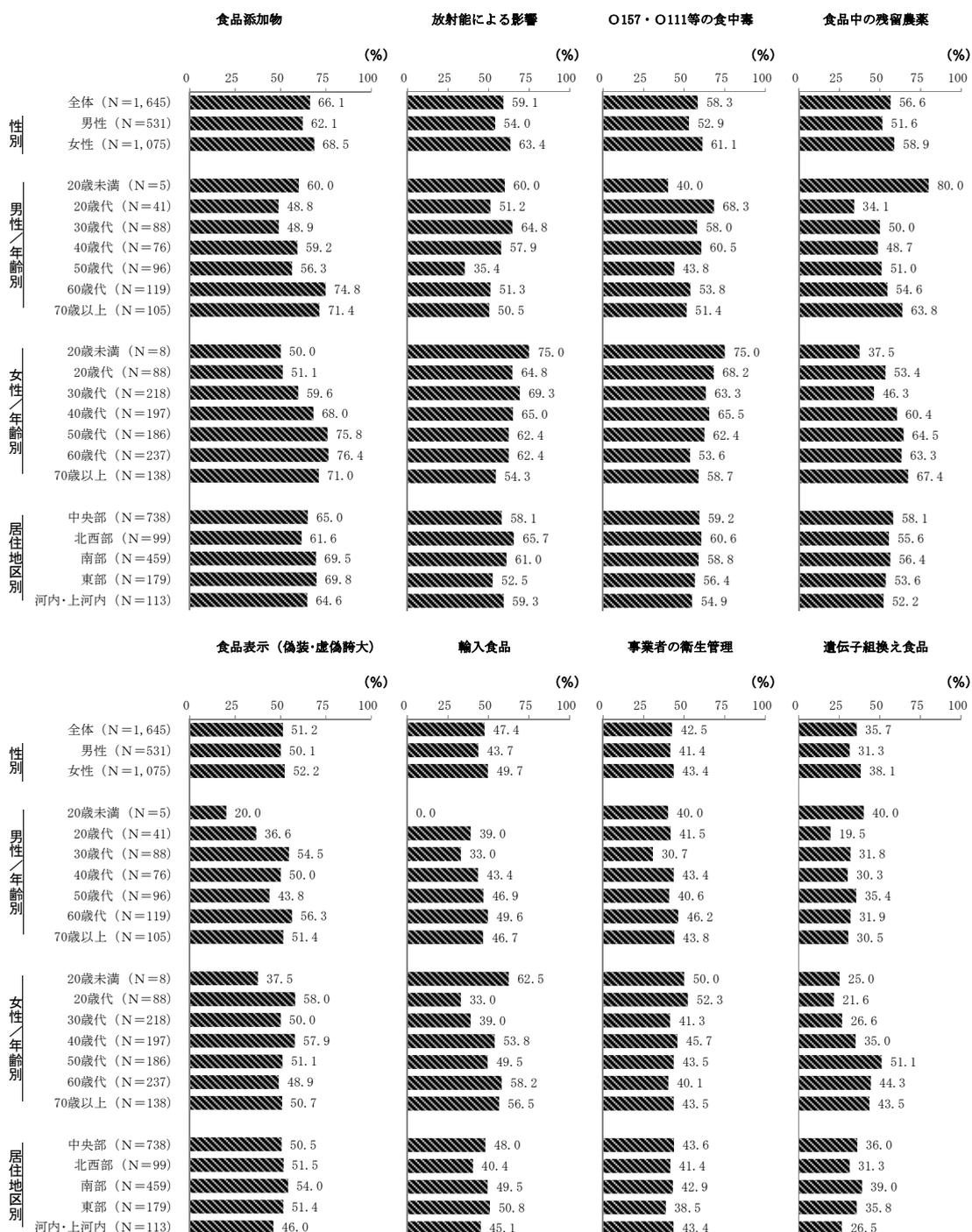
【性別／性・年齢別／地区別】

上位8項目を性別で見ると、全ての項目で女性の方が男性よりも高くなっている。特に「放射能による影響」では男女差が9%以上と大きくなっている。

性・年齢別では、「食品添加物」は男女とも「60歳代」以上でやや高くなっている。逆に、「放射能による影響」、「O157・O111等の食中毒」では、「30歳代」前後の割合が高くなっている。

居住地区別では、特に大きな開きは見られないが、「放射能による影響」、「O157・O111等の食中毒」、「食品中の残留農薬」などは、「東部」や「河内・上河内」でやや低くなっている。(図表I-5-4)

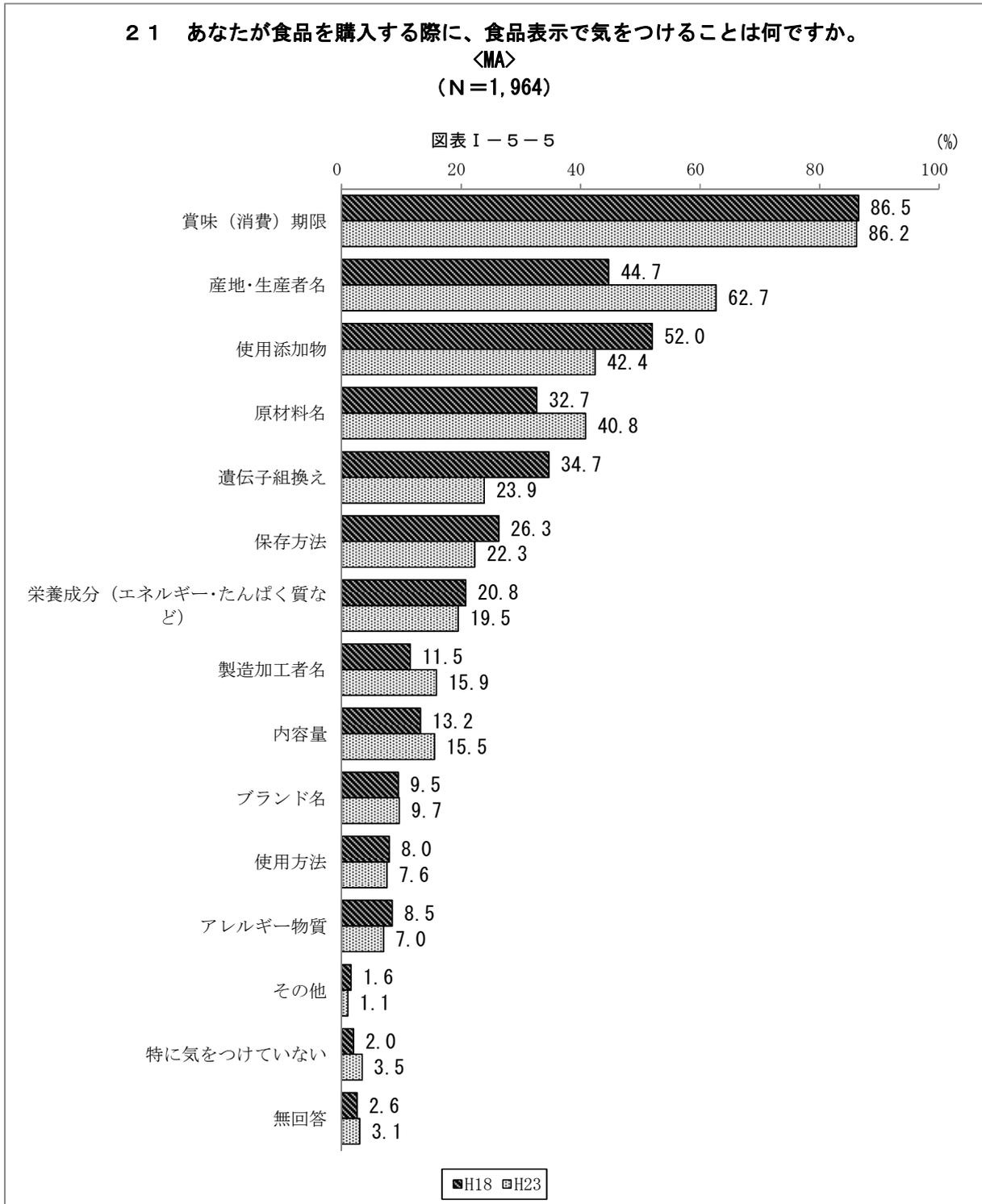
図表I-5-4 (上位8項目)



(3) 食品表示で気をつける点

2.1 あなたが食品を購入する際に、食品表示で気をつけることは何ですか。

◆「賞味（消費）期限」が8割台半ば



食品表示で気をつけていることは、「賞味（消費）期限」が86.2%と突出している。次いで、「産地・生産者名」(62.7%)、「使用添加物」(42.4%)の順となっている。(図表 I-5-5)

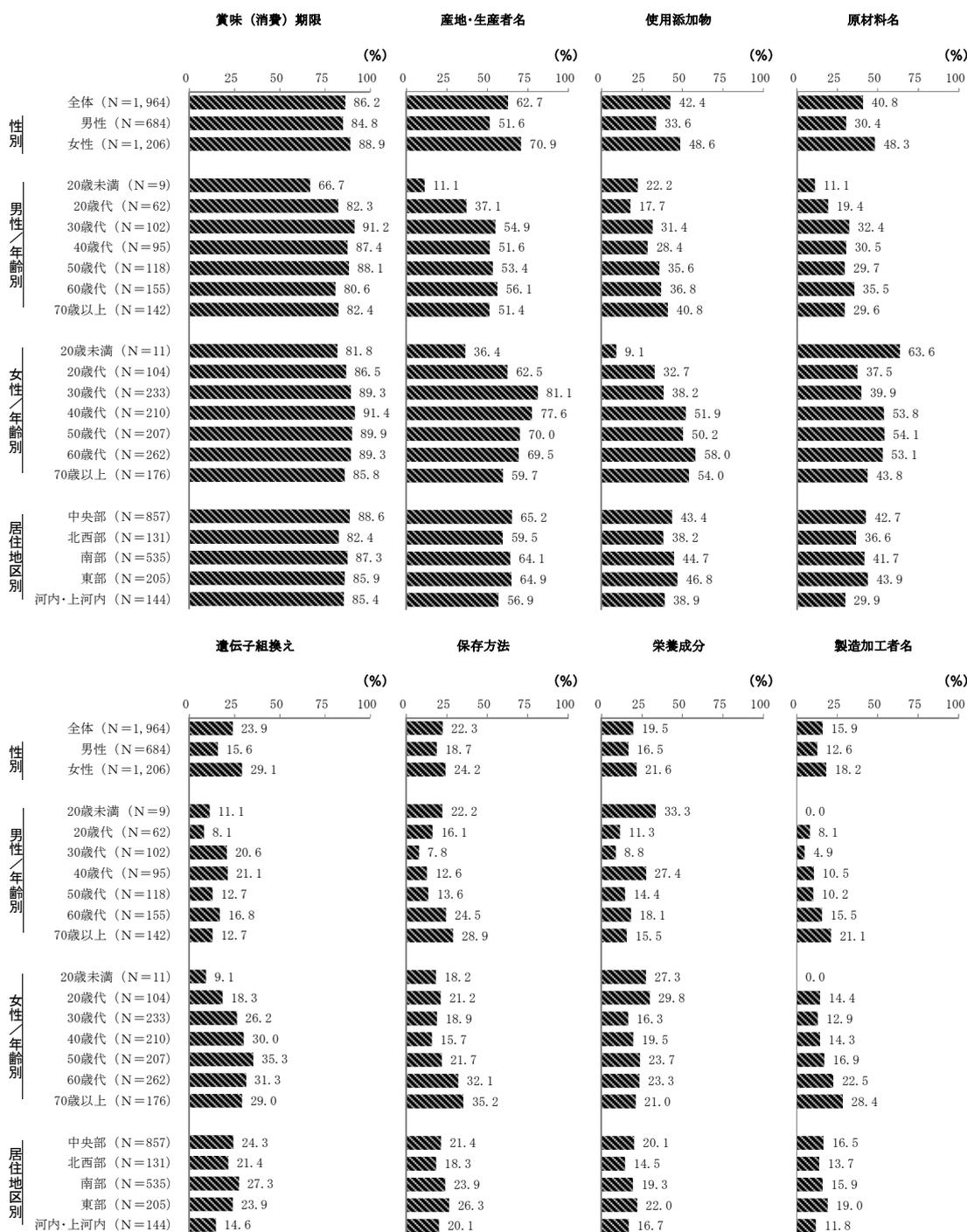
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、全ての項目で女性の方が男性よりも高くなっている。特に差が大きいものは、「産地・生産者名」(19.3%差)、「原材料名」(17.9%差)、「使用添加物」(15%差)である。

性・年齢別では、「賞味(消費)期限」で男性「30歳代」(91.2%)と女性「40歳代」(91.4%)が9割を超えている。他の項目についても、比較的女性の方が高くなっている。

居住地区別では、特に大きな開きは見られない。(図表 I-5-6)

図表 I-5-6 (上位8項目)

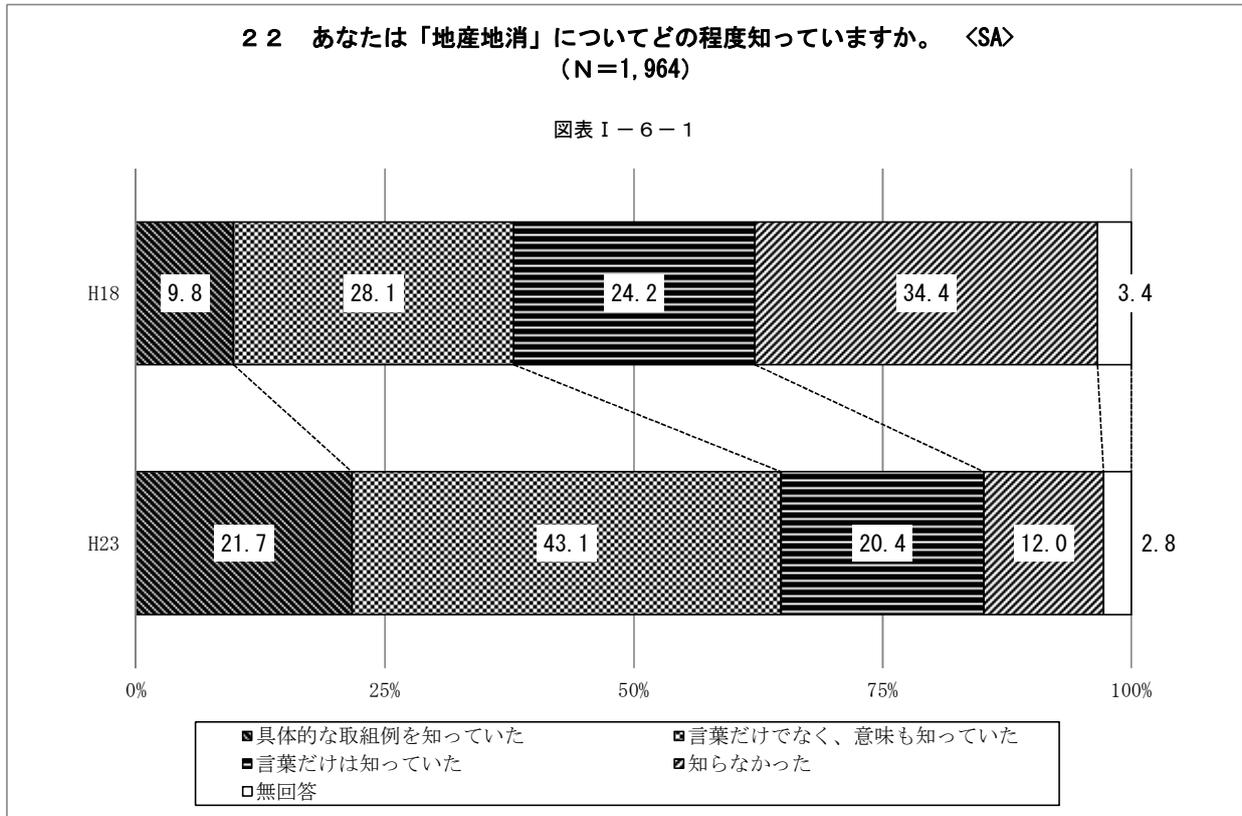


# VI 地産地消について

## (1) 地産地消の認知度

22 あなたは「地産地消」についてどの程度知っていますか。

◆「言葉だけでなく、意味も知っていた」が4割超



「地産地消」については、「言葉だけでなく、意味も知っていた」(46.1%)が最も多く、次いで「具体的な取組例を知っていた」(21.7%)、「言葉だけは知っていた」(20.4%)の順となっている。(図表 I-6-1)

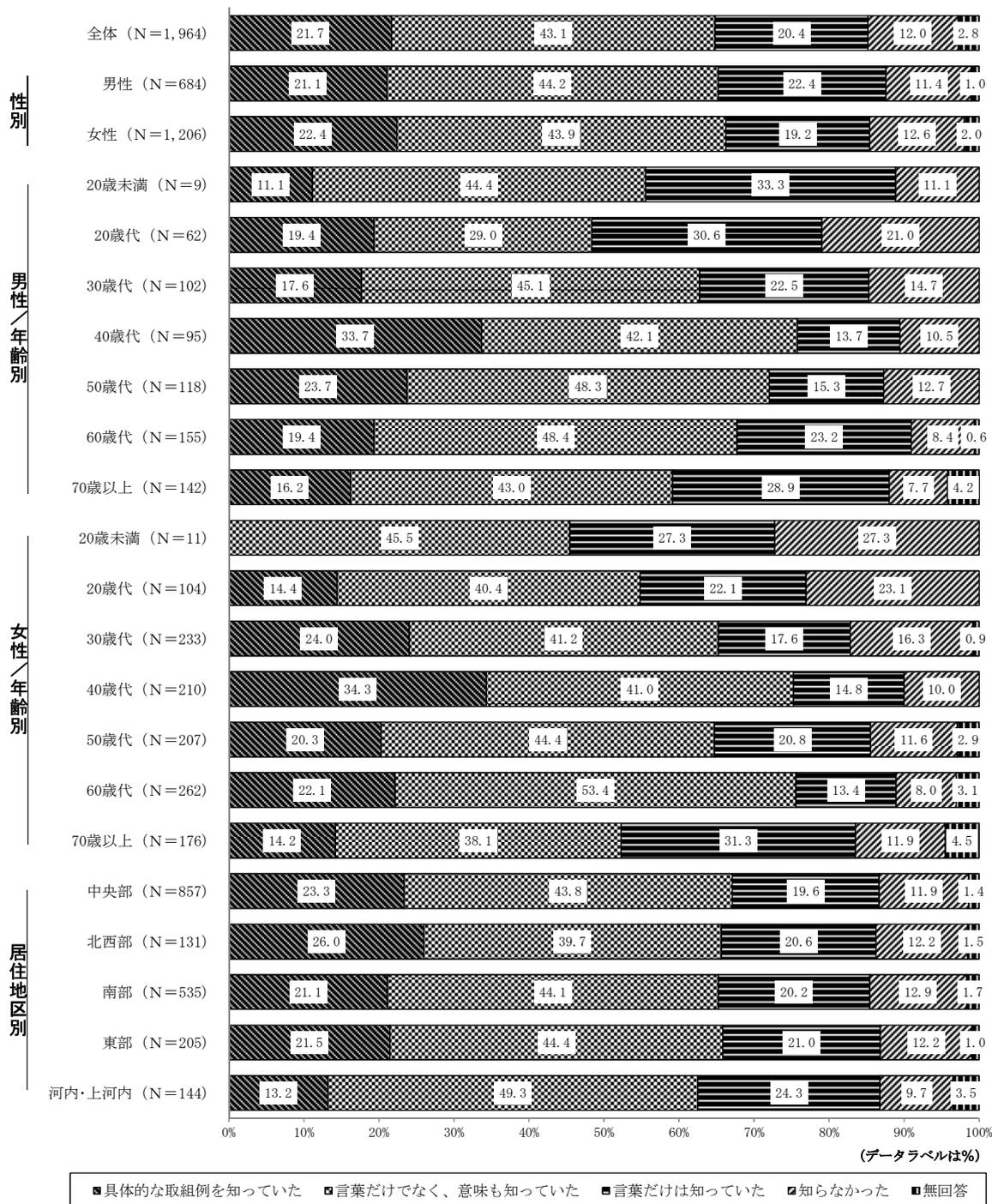
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、男女間で大きな差は見られない。

性・年齢別では、「40歳代」の男女、「60歳代」の女性の「具体的な取り組み例を知っていた」と「言葉だけでなく、意味も知っていた」の合計の割合が75%を超えている。

居住地区別では、「河内・上河内」の「具体的な取り組み例を知っていた」（13.2%）が最も低く、「言葉だけでなく、意味も知っていた」（49.3%）が最も高くなっている。（図表 I - 6 - 2）

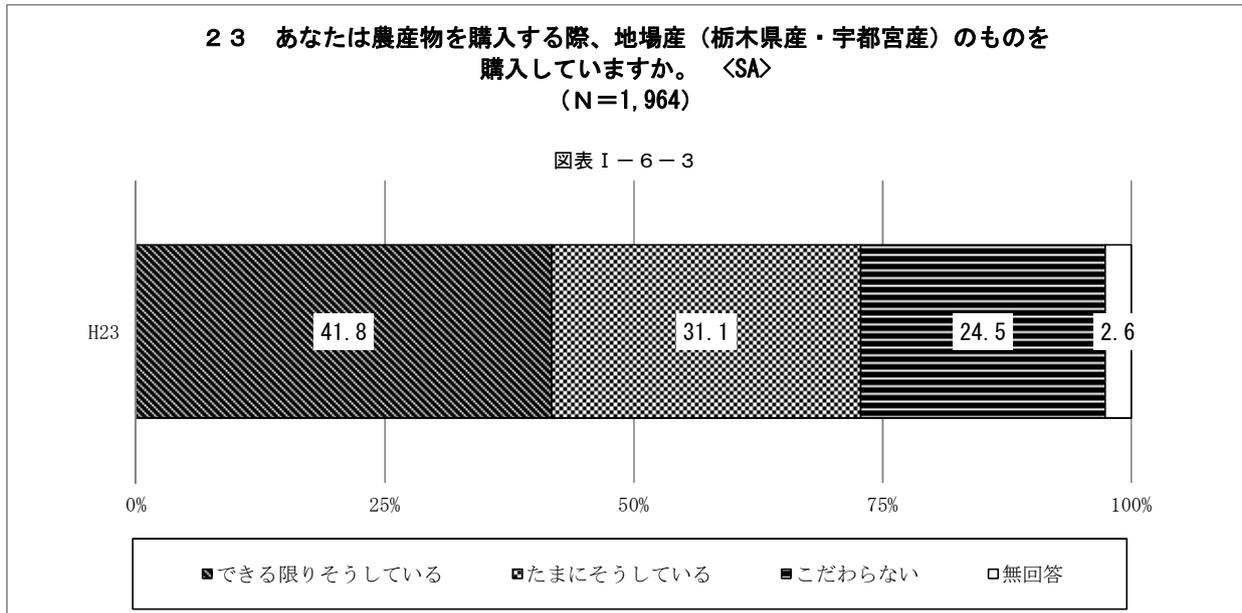
図表 I - 6 - 2



## (2) 地場農産物の購入

23 あなたは農産物を購入する際、地場産（栃木県産・宇都宮産）のものを購入していますか。

◆約4割が地場産品を購入



地場産品の購入は、「できる限りそうしている」が41.6%と4割を超え、次いで、「たまにそうしている」(31.1%)、「拘らない」(24.5%)の順となっている。(図表 I-6-3)

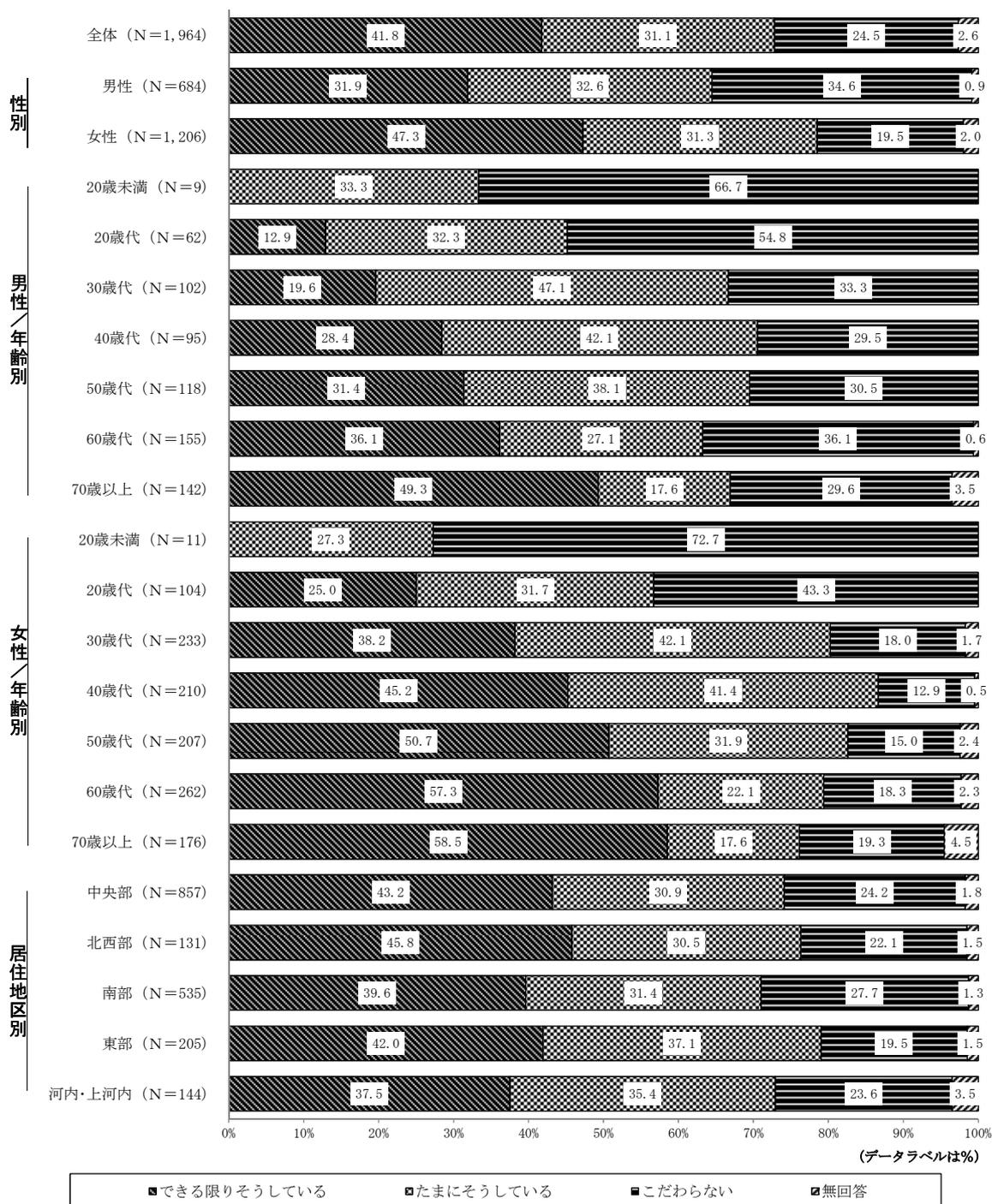
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「できる限りそうしている」では女性が（47.3）男性（31.9%）よりも約15%高くなっている。男性は、「こだわらない」（34.6%）が高くなっている。

性・年齢別では、全年齢で女性の方が「できる限りそうしている」の割合が高くなっており、どちらも年齢が上がるほどその割合が高くなっている。男性は「20歳未満」（66.7%）、「20歳代」（54.8%）が「こだわらない」の割合が高くなっている。

居住地区別では、「できる限りそうしている」の割合が高いのは、「中央部」（43.2%）、「北西部」（45.8%）、「東部」（42.0%）で、4割を超えている。（図表 I - 6 - 4）

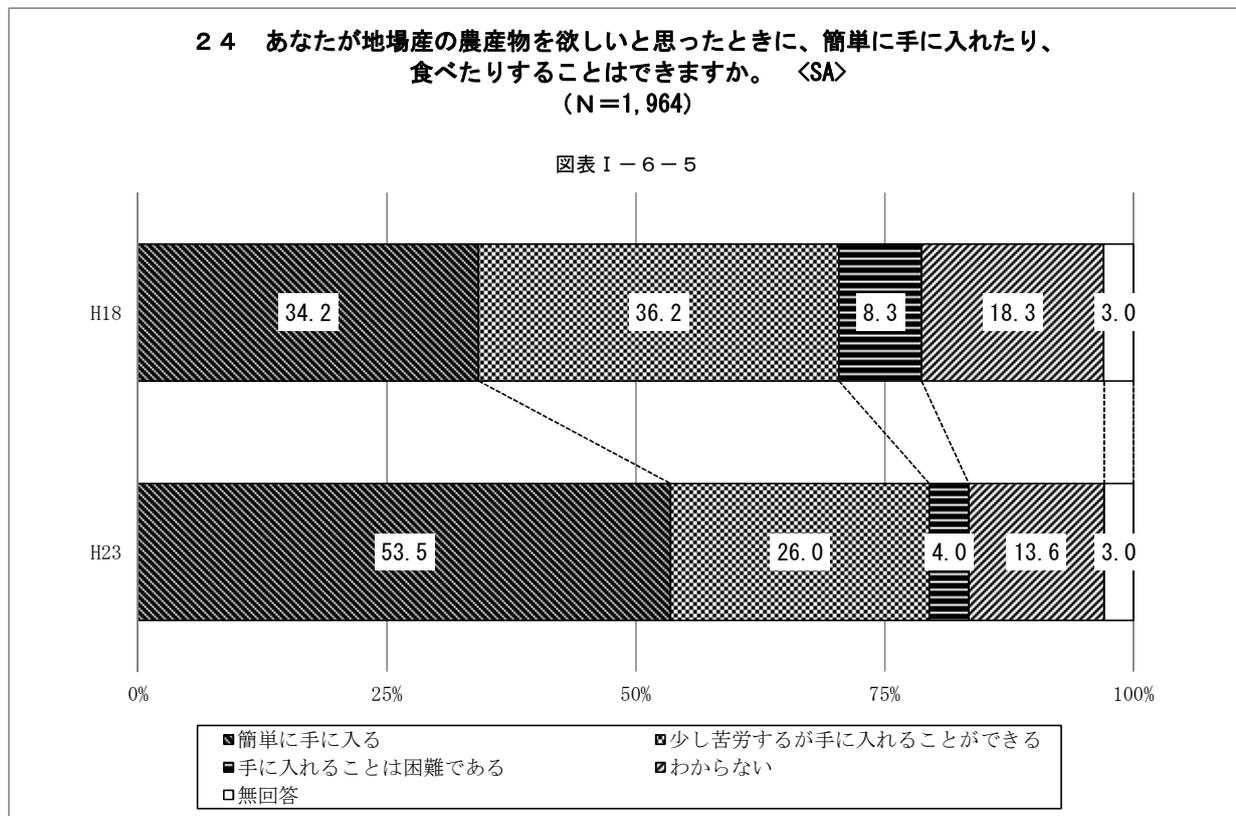
図表 I - 6 - 4



### (3) 地場農産物の入手可能性

24 あなたが地場産の農産物を欲しいと思ったときに、簡単に手に入れたり、食べたりすることはできますか。

◆「簡単に手に入る」が5割超



地場農産物を欲しいと思ったときに、「簡単に手に入る」(53.5%)が5割を超え、平成18年度調査結果から見ても、約1.5倍となっている。(図表I-6-5)

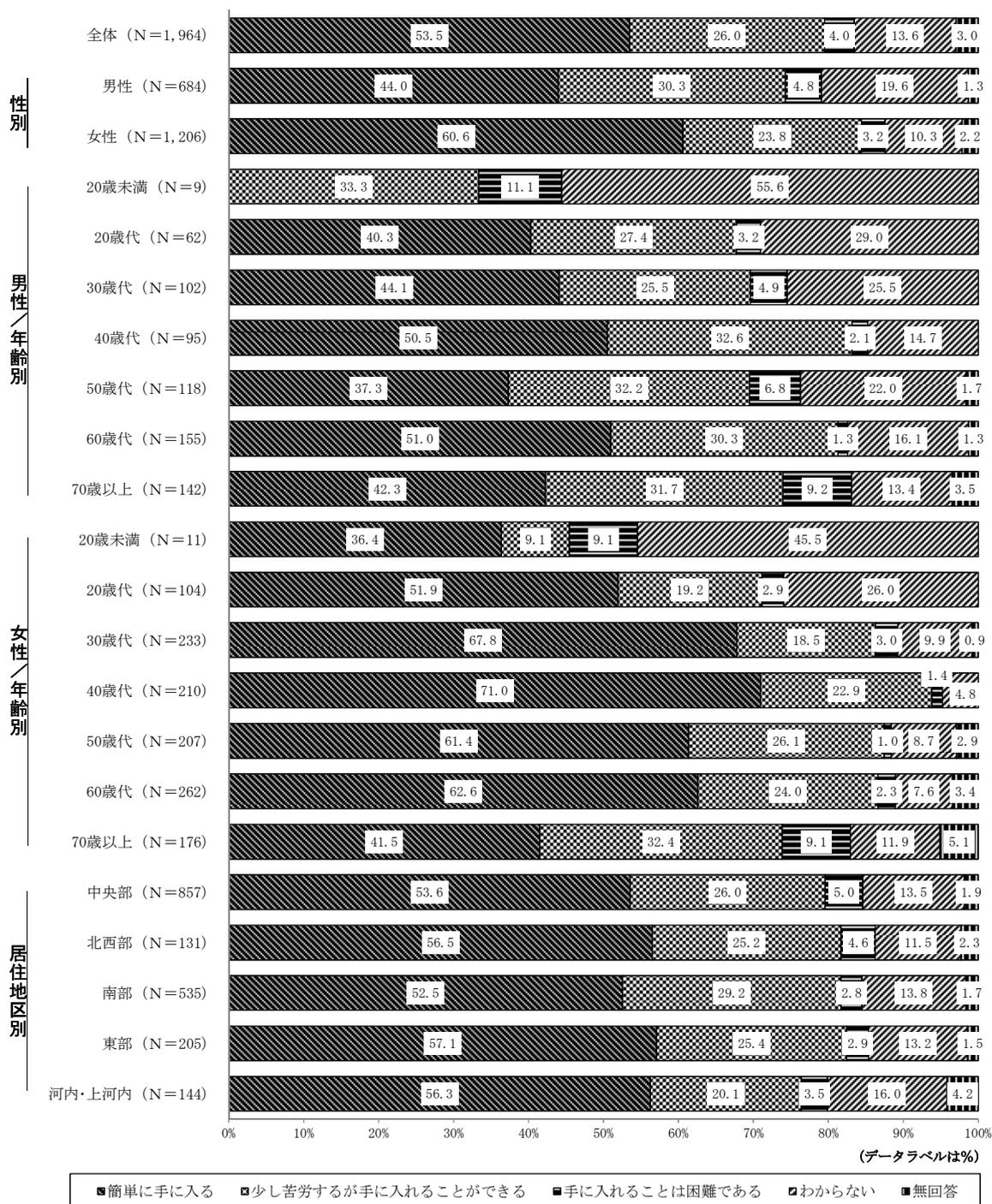
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、「簡単に手に入る」では女性（60.6%）が男性（44.0%）よりも約17%高い。男性は、「わからない」（19.6%）が女性に比べて高くなっている。

性・年齢別では、「手に入る」（「簡単に手に入る」と「少し苦勞するが手に入れることができる」の合計）の割合を見ると、女性の「40歳代」では93.9%に上り、突出している。また、女性の「30歳代」（86.3%）、「50歳代」（87.5%）、「60歳代」（86.6%）で8割を超えている。男性は、「40歳代」（83.1%）、「60歳代」（81.3%）で8割を超えている。

居住地区別に見ると、「河内・上河内」で「手に入る」が76.4%である他は、全て8割を超えている。（図表I-6-6）

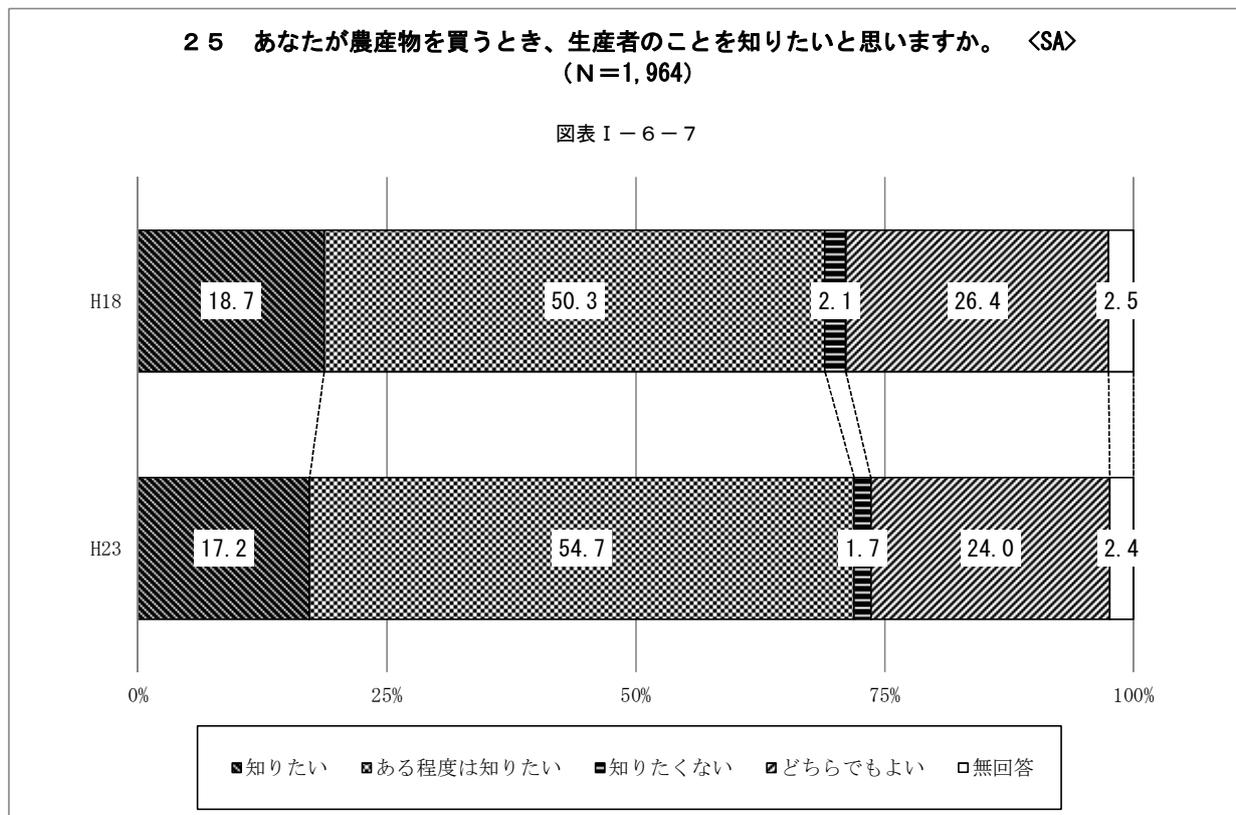
図表 I - 6 - 6



(4) 生産者を知りたいか

25 あなたが農産物を買うとき、生産者のことを知りたいと思いますか。

◆約7割が「知りたい」



農産物を買うとき、生産者のことを「ある程度は知りたい」(54.7%)人が半数以上を占め、平成18年度調査結果から微増となっている。これに「知りたい」(17.2%)を加えると約7割が「知りたい」(71.9%)と答えている。「どちらでもよい」は、平成18年度調査から微減となっている。(図表 I-6-7)

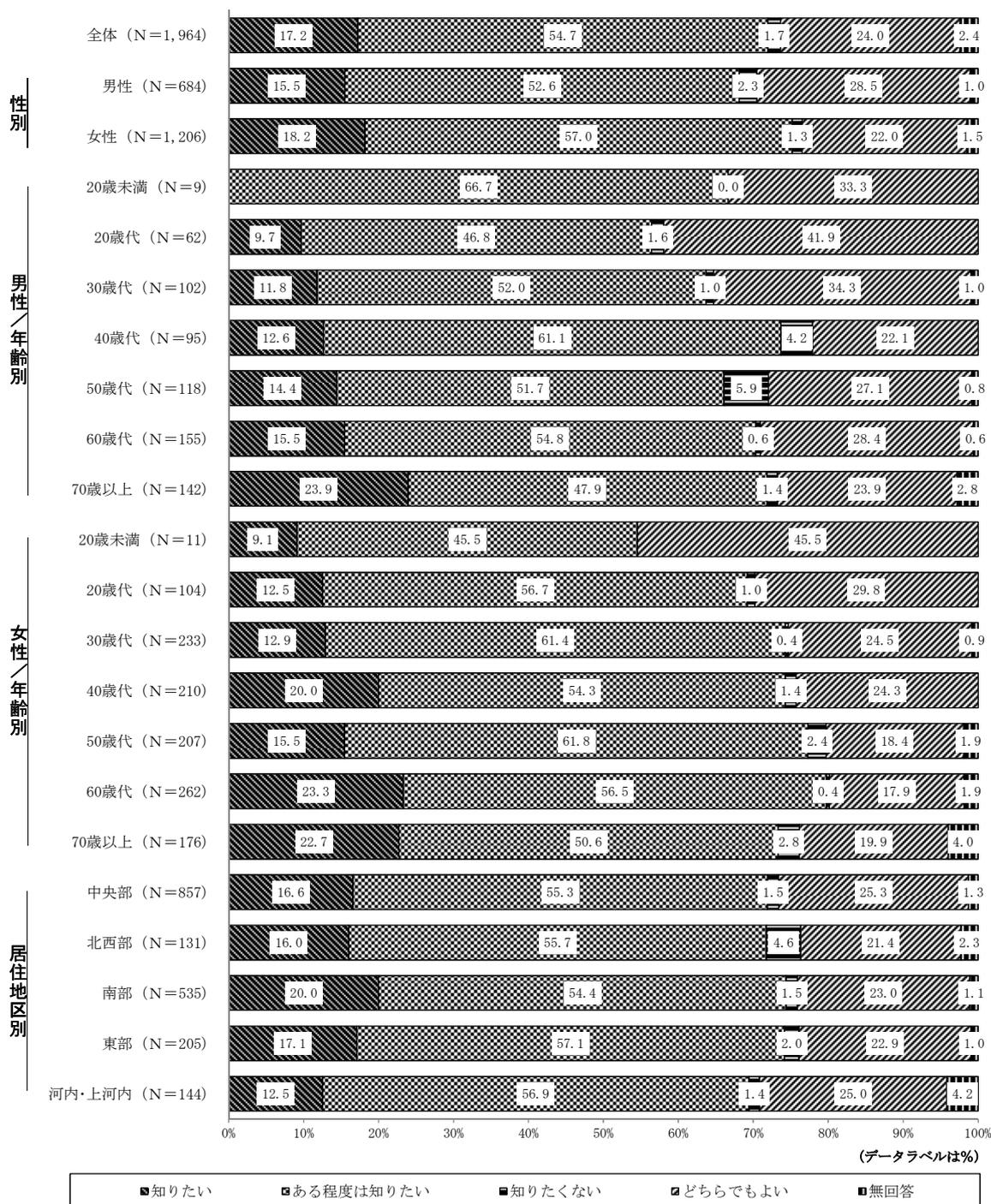
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、「知りたい」（「知りたい」と「ある程度は知りたい」の合計）割合は、男性（68.1％）の6割台後半に対して、女性（75.2％）は7割台半ばとなっている。

性・年齢別では、男性では「40歳代」（73.7％）がもっと高く、女性は「60歳代」（79.8％）が約8割と最も高くなっている。「知りたくない」は、男性「50歳代」（5.9％）、男性「40歳代」（4.2％）となっている。

居住地区別では、「知りたい」は、「河内・上河内」以外の地区では7割を超えているのに対し、「河内・上河内」では6割台となっている。（図表I-6-8）

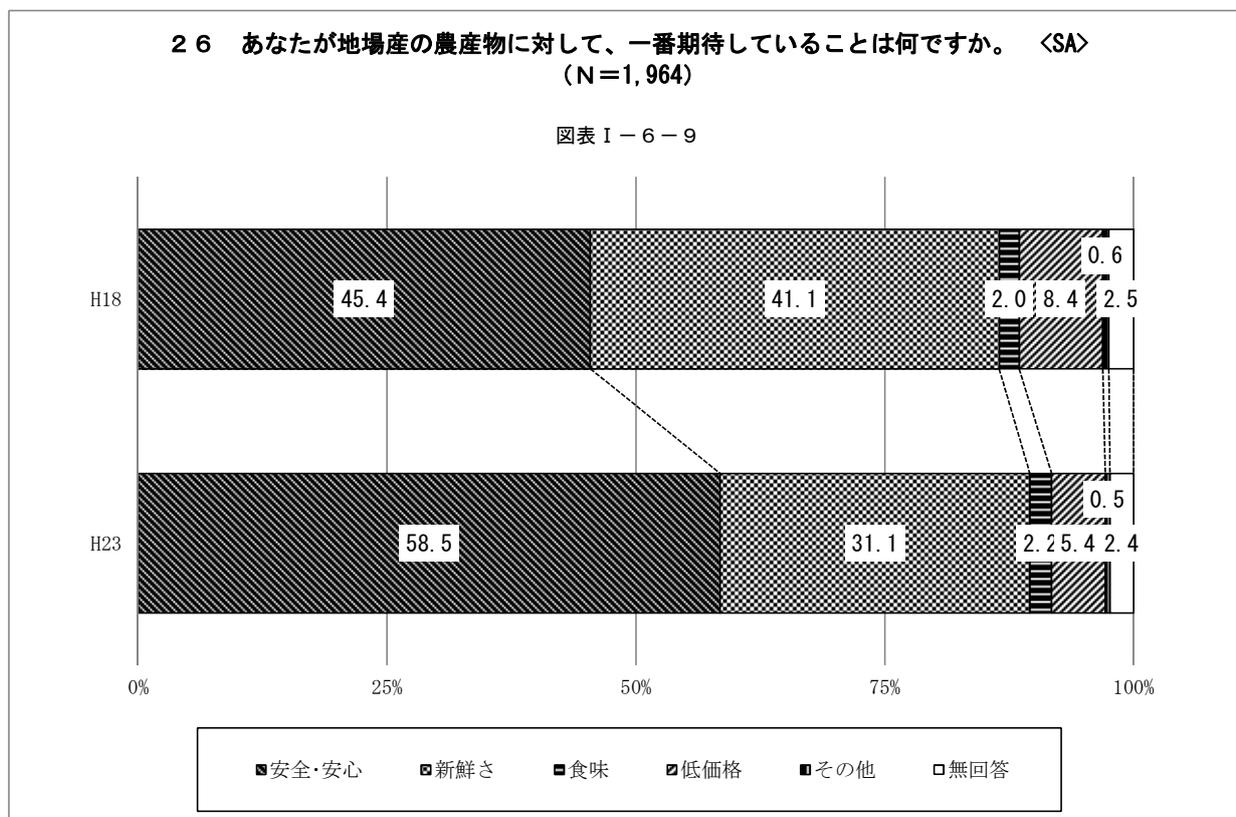
図表 I - 6 - 8



(5) 地場農産物に期待していること

26 あなたが地場産の農産物に対して、一番期待していることは何ですか。

◆「安全・安心」が約6割



地場農産物に一番期待していることは「安全・安心」で58.5%に上り、平成18年度調査(45.4%)から見ても増加している。平成18年度調査で4割を超えていた「新鮮さ」は、31.1%に減少している。(図表 I-6-9)

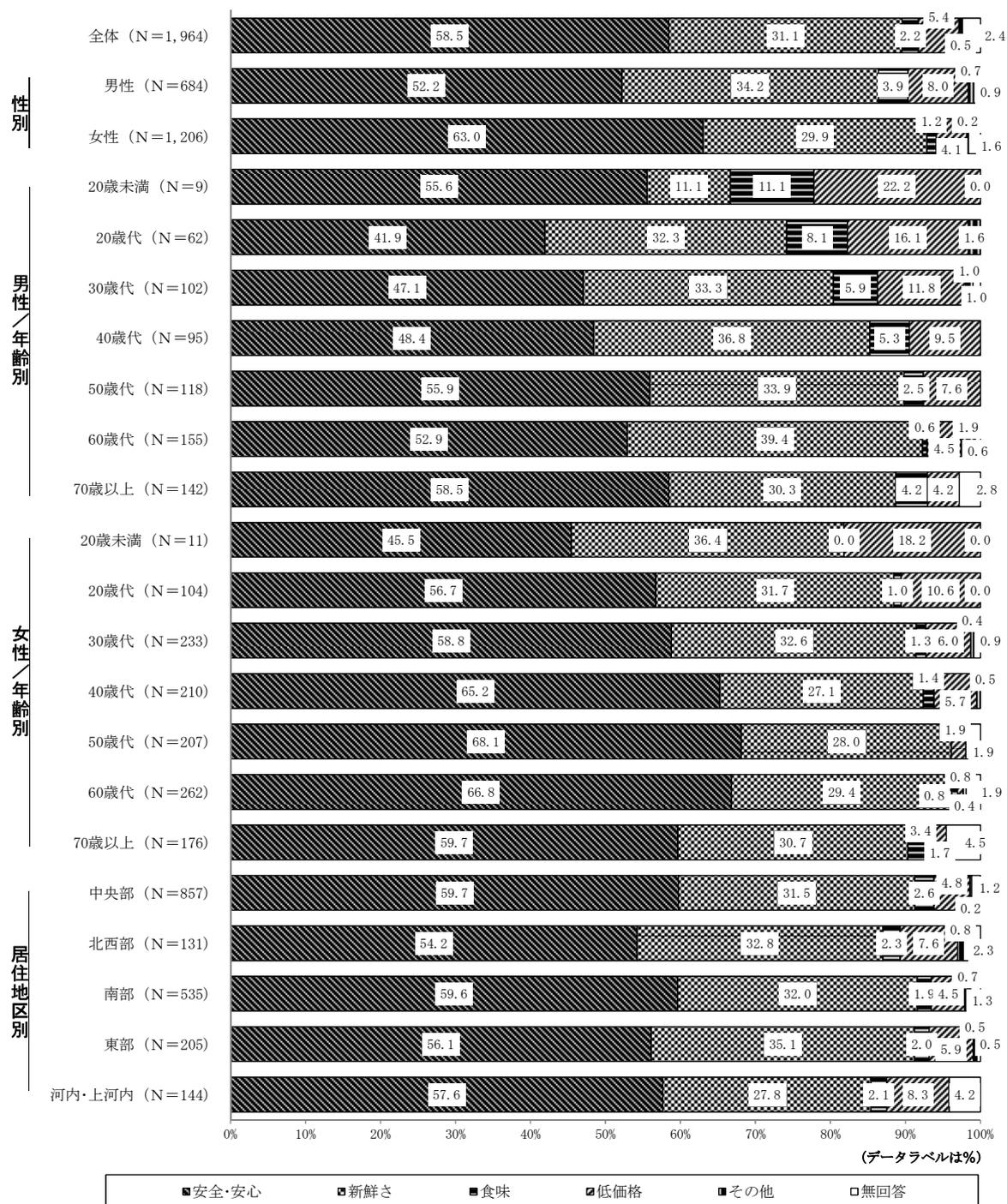
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、「安全・安心」の割合が男女とも5割を超えているが、特に女性は6割超（63.0%）と、男性（52.2%）より約11%高くなっている。

性・年齢別では、「安全・安心」が、男性が5割前後であるのに対し、女性は6割前後となっている。特に「50歳代」では68.1%と最も高くなっている。

居住地区別では、特に目立った違いは見られない。（図表 I - 6 - 10）

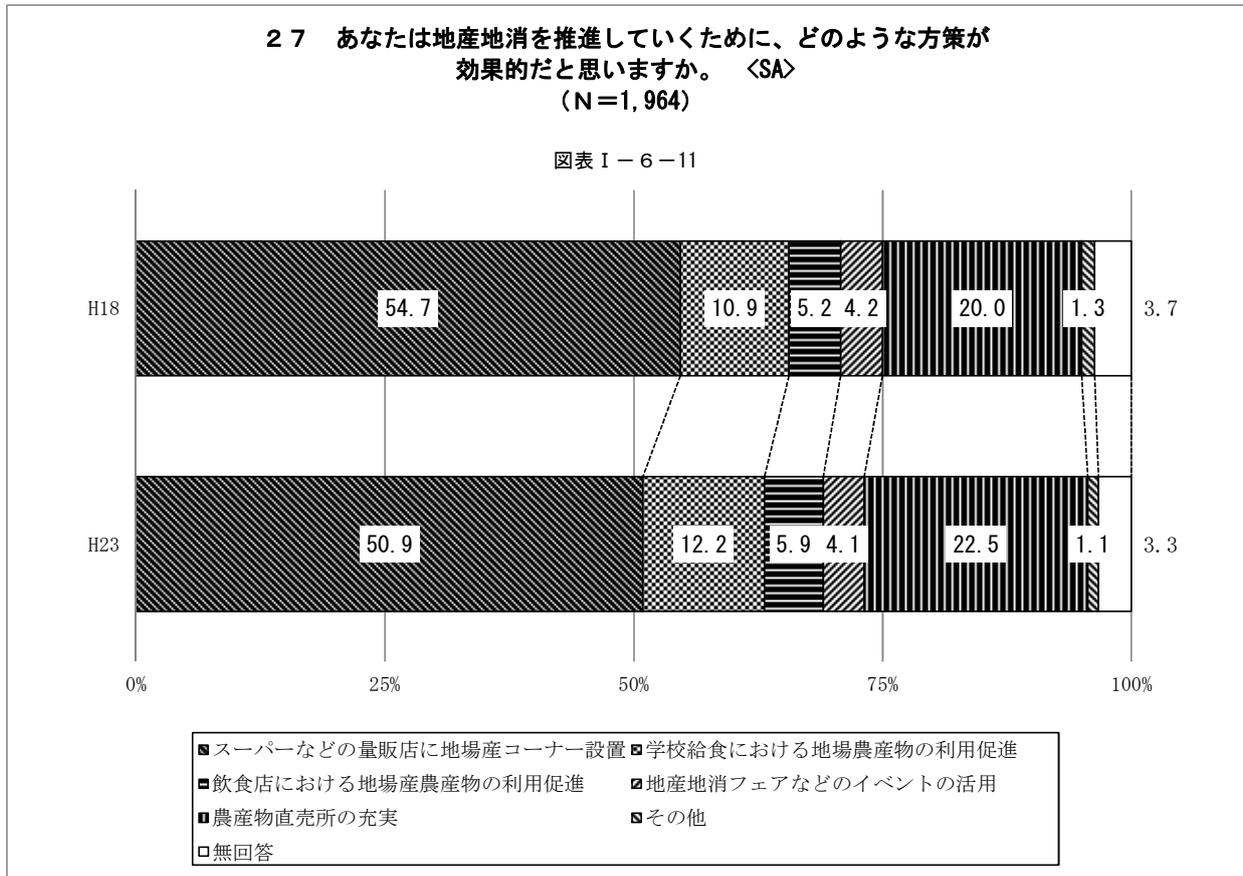
図表 I - 6 - 10



(6) 地産地消推進のために効果的な方策

27 あなたは地産地消を推進していくために、どのような方策が効果的だと思いますか。

◆「スーパー等の量販店に地場産コーナーを設置」が約半数



地産地消推進のために効果的な方策を聞いたところ、「スーパーなどの量販店に地場産コーナーを設置」が50.9%と半数を超え、次いで「農産物直売所の充実」(22.5%)となっている。(図表 I - 6 - 11)

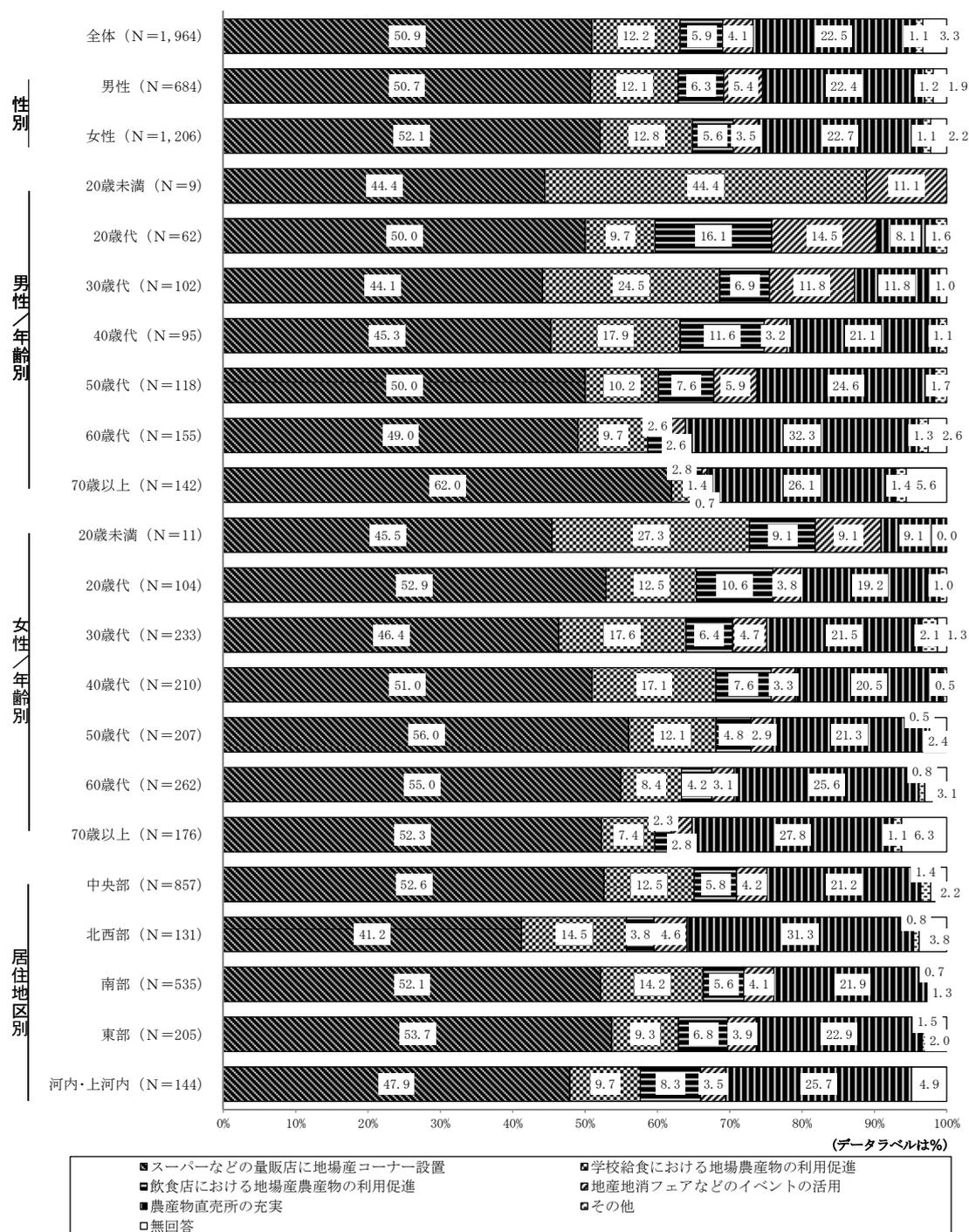
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、男女で特に目立った違いはなく、どちらも「スーパーなどの量販店に地場産コーナー設置」が5割を超えている。

性・年齢別では、男性「70歳以上」（62.0%）で「スーパーなどの量販店に地場産コーナー設置」が6割を超えている。また、「農産物直売所の充実」は、男性「40歳代」以上で2割台、3割台となっており、女性は、「30歳代」以上で2割台となっている。

居住地区別では、「北西部」で「農産物直売所の充実」（31.3%）が3割台で、「中央部」、「南部」、「東部」では「スーパーなどの量販店に地場産コーナー設置」が5割を超えている。（図表I-6-12）

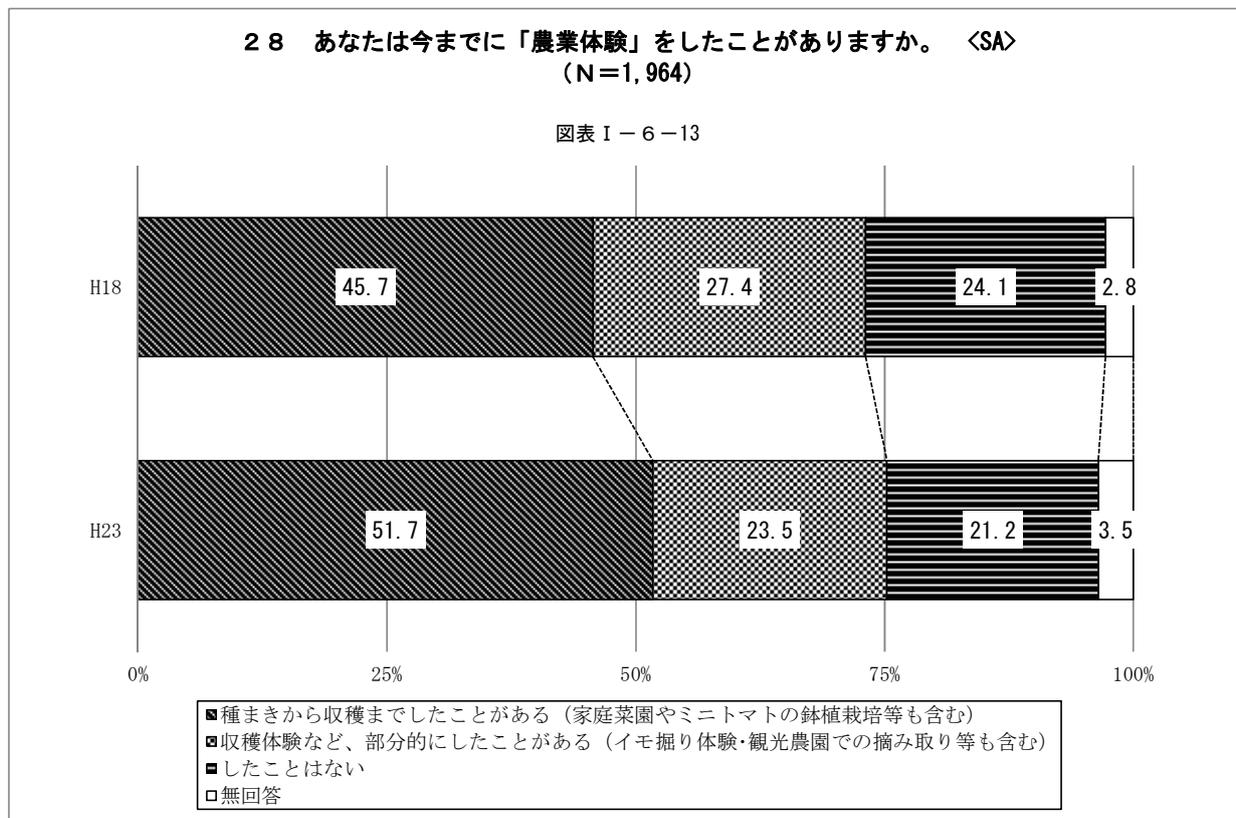
図表I-6-12



(7) 農業体験の有無

28 あなたは今までに「農業体験」をしたことがありますか。

◆農業体験のある人が7割以上



「農業体験」の有無を聞いたところ、「種まきから収穫までしたことがある (家庭菜園やミニトマトの鉢植え栽培等も含む)」が 51.7% と半数を超え、「収穫体験など、部分的にしたことがある (イモ掘り体験・観光農園での摘み取り等も含む)」(23.5%) と合わせた農業体験のある人は 75.2% に上る (図表 I-6-13)

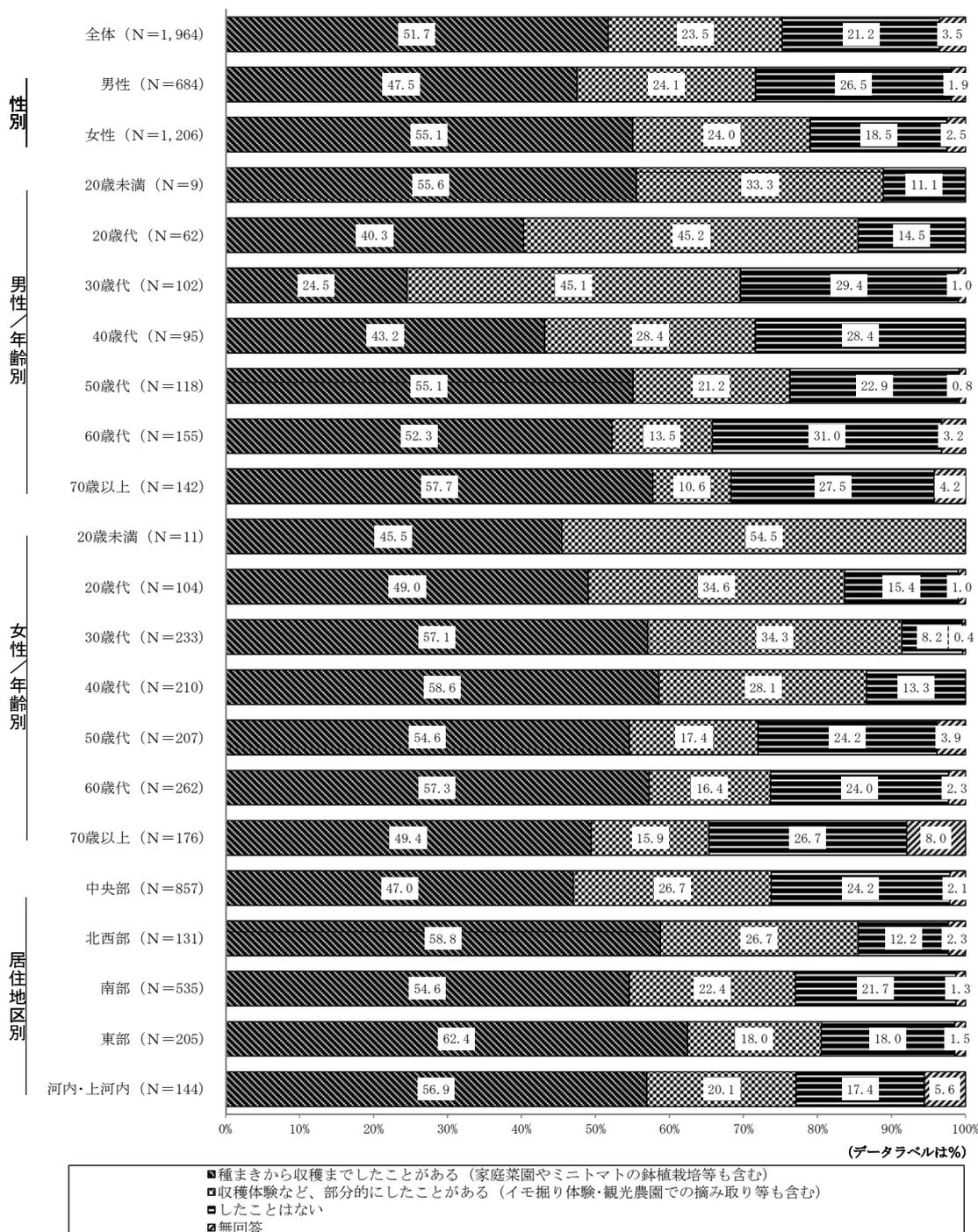
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、女性では「種まきから収穫までしたことがある」(55.1%) 5割を超えている。男性では、「したことはない」が26.5%と、女性(18.5%)より8%高くなっている。

性・年齢別では、男性「20歳代」(45.2%)・「30歳代」(45.1%)で「収穫体験など、部分的にしたことがある」が4割台半ばとなっている。「種まきから収穫までしたことがある」は、男性では「50歳代」以上が、女性では「30歳代」～「60歳代」が5割を超えている。

居住地区別では、「中央部」で「したことはない」が24.2%と最も高くなっており、「中央部」を除く全地区で「種まきから収穫までしたことがある」が5割を超えている。(図表I-6-14)

図表 I - 6 - 14

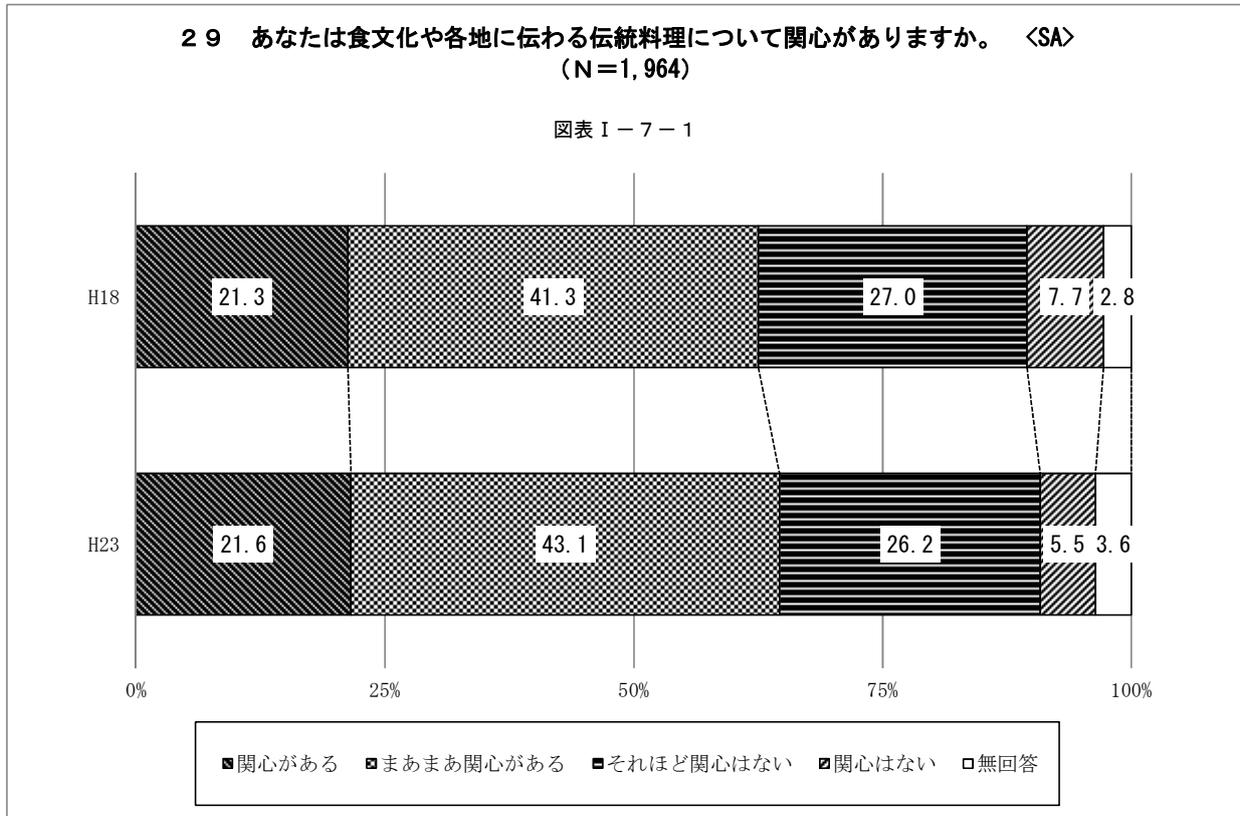


## VII 食文化・伝統料理・郷土料理について

### (1) 食文化や伝統料理への関心度

29 あなたは食文化や各地に伝わる伝統料理について関心がありますか。

◆6割台半ばが「関心がある」



食文化や伝統料理についての関心は、「まあまあ関心がある」(43.1%)が4割を超え、これに「関心がある」(21.6%)を合わせた「関心がある」(64.7%)が6割台半ばとなっている。(図表 I-7-1)

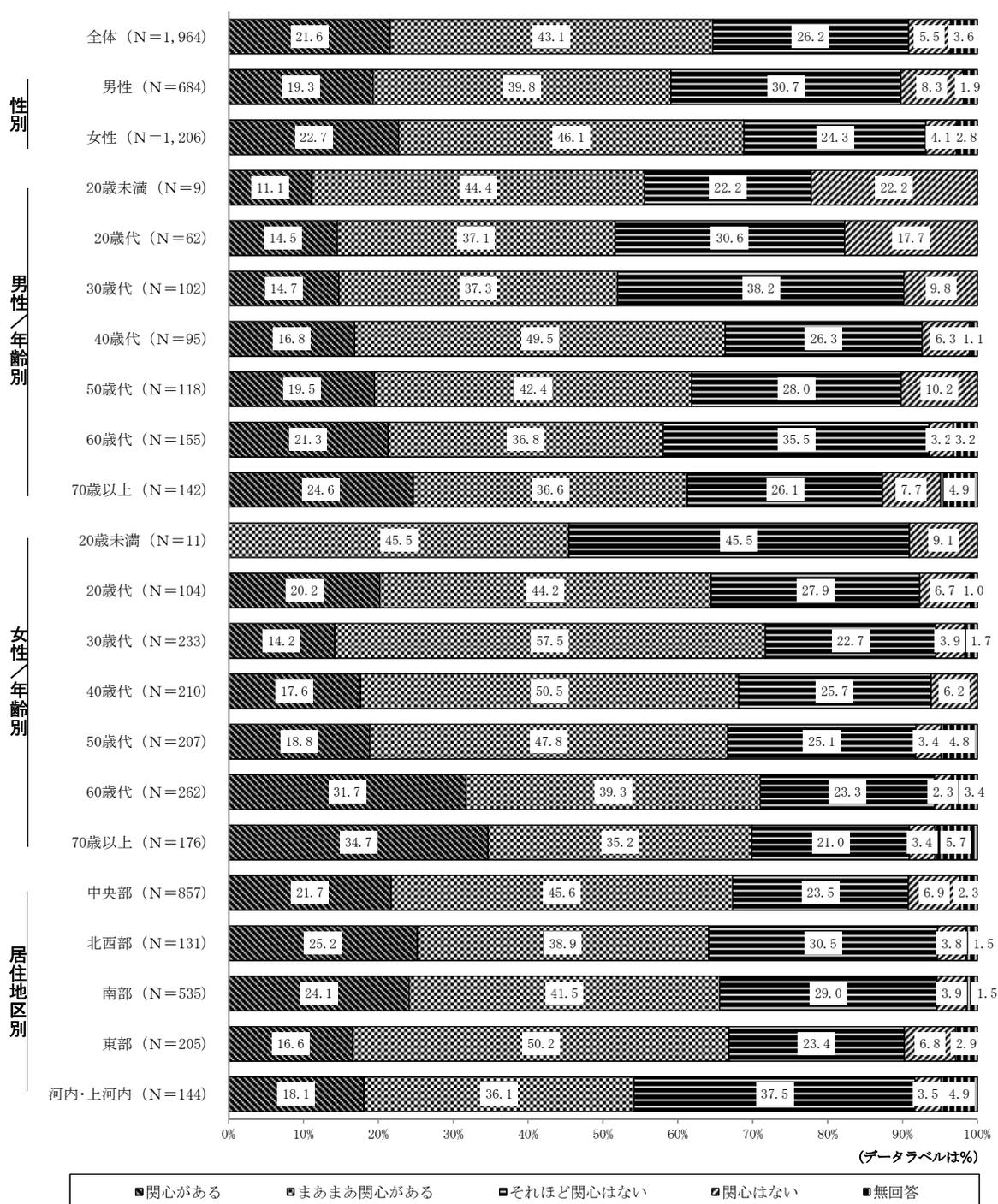
【性別／性・年齢別／地区別】

性別では、「関心がある」（「関心がある」と「まあまあ関心がある」の合計）は、女性（68.8％）が男性（59.1％）よりも約10％高くなっている。

性・年齢別では、「関心がある」の割合は年齢が上がるほど高くなる傾向にある。女性では、「60歳代」（31.7％）、「70歳以上」（34.7％）で3割を超えている

居住地区別では、「東部」（16.6％）、「河内・上河内」（16.1％）で1割台となっている。また、「河内・上河内」では、「関心はない」が最も高く、37.5％に上っている。（図表I-7-2）

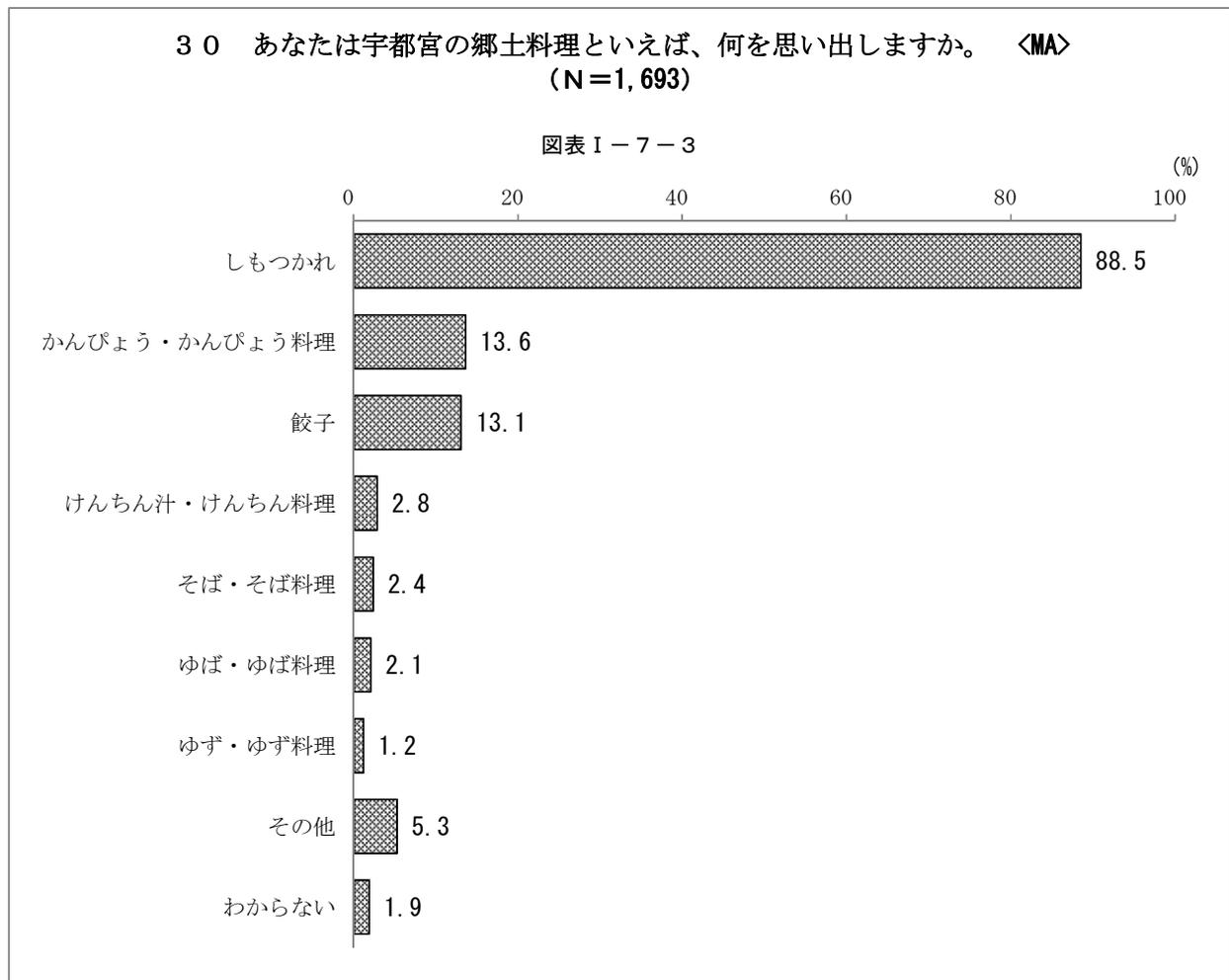
図表I-7-2



## (2) 宇都宮の郷土料理（記述回答）

30 あなたは宇都宮の郷土料理といえば、何を思い出しますか。

◆9割近くが「しもつかれ」



宇都宮の郷土料理は、「しもつかれ」が圧倒的に多く、88.5%に上っている。

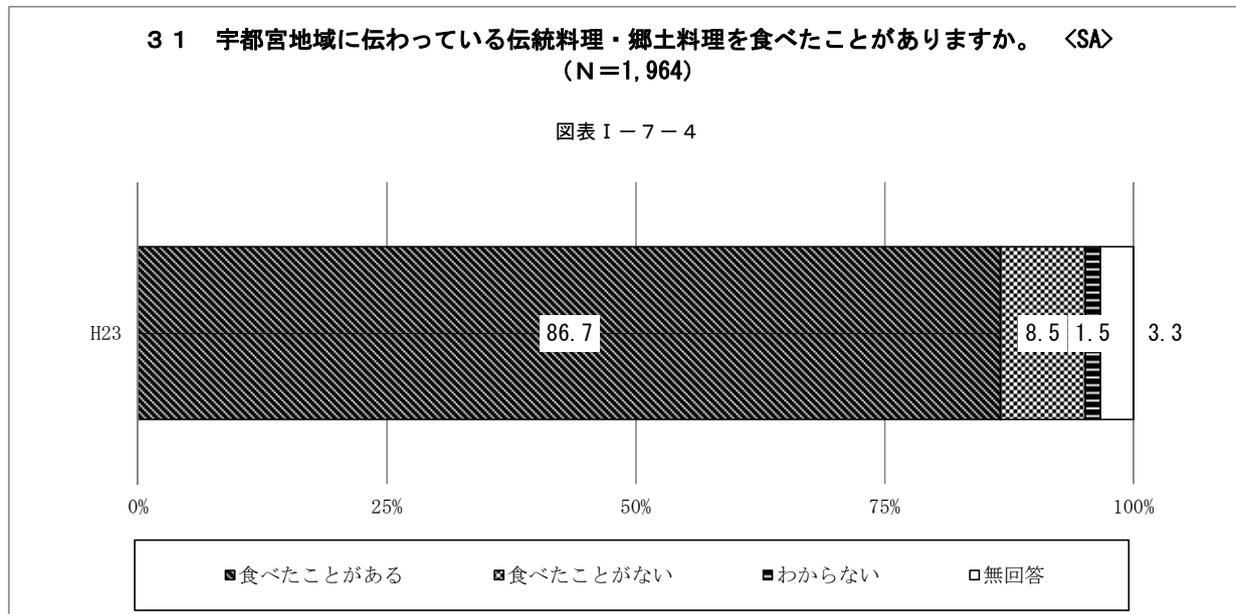
以下、「かんぴょう・かんぴょう料理」(13.6%)、「餃子」(13.1%)となっている。(図表 I-7-3)

※無回答(271)を除いて集計

### (3) 伝統料理・郷土料理の食用経験

3 1 あなたは正月のおせち料理や十五夜の団子などの伝統料理や、「しもつかれ」や「かんぴょう」・「ゆず」を食材とする宇都宮地域に伝わっている郷土料理を食べたことがありますか。

◆約9割が「食べたことがある」



郷土料理を食べたことがあるか聞いたところ、86.7%、約9割が「食べたことがある」と回答する。逆に「食べたことがない」は8.5%に留まっている。(図表 I-7-4)

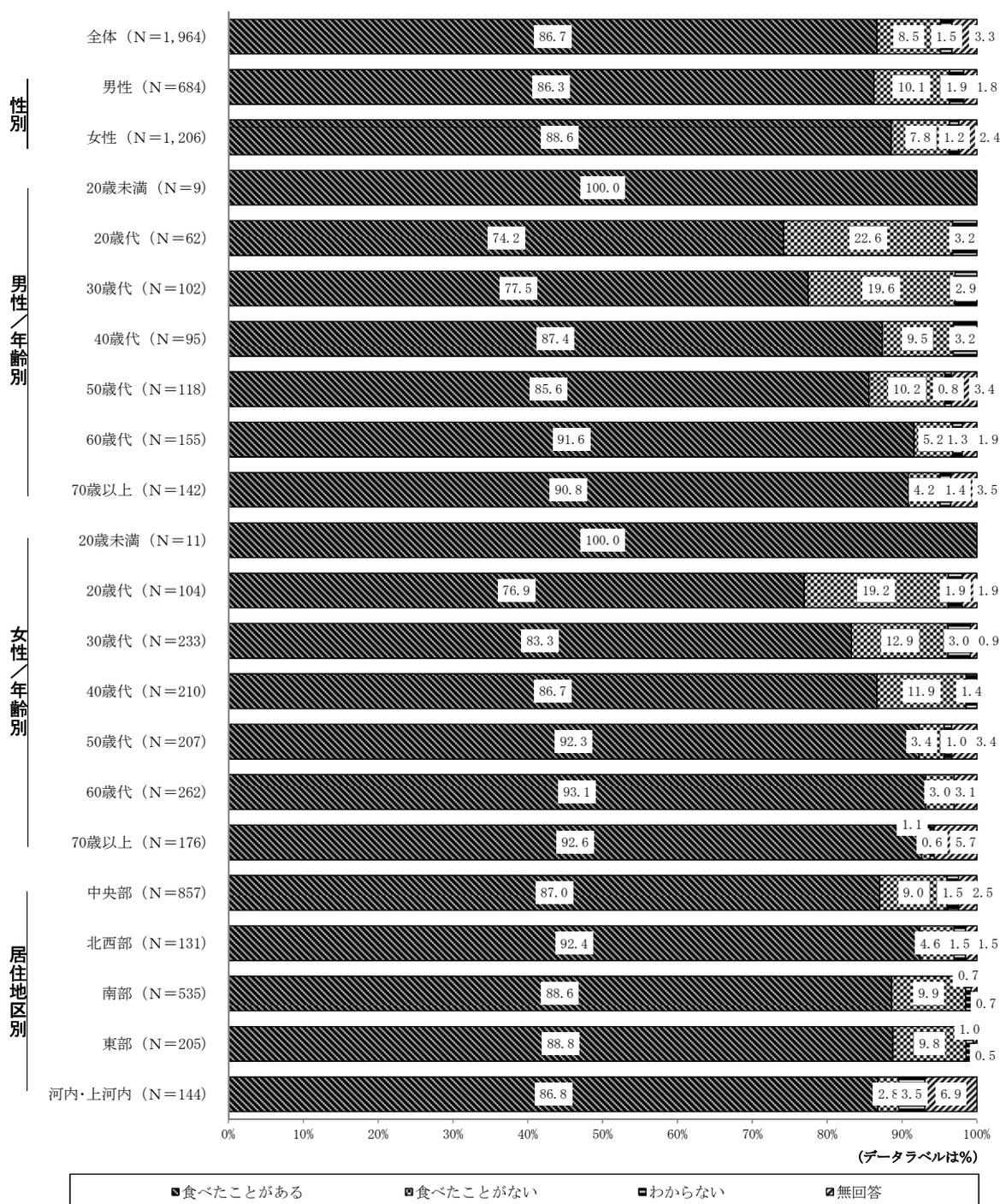
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、男女間で大きな差は見られない。

性・年齢別では、男女ともに「食べたことがある」が70%台～90%台となっており、高齢層ほど高くなる傾向にあり、逆に男女とも「20歳代」などの若年層に行くに従い「食べたことがない」の割合が増えている。

居住地区別では、「北西部」で「食べたことがある」(92.4%)が9割を超えている。(図表I-7-5)

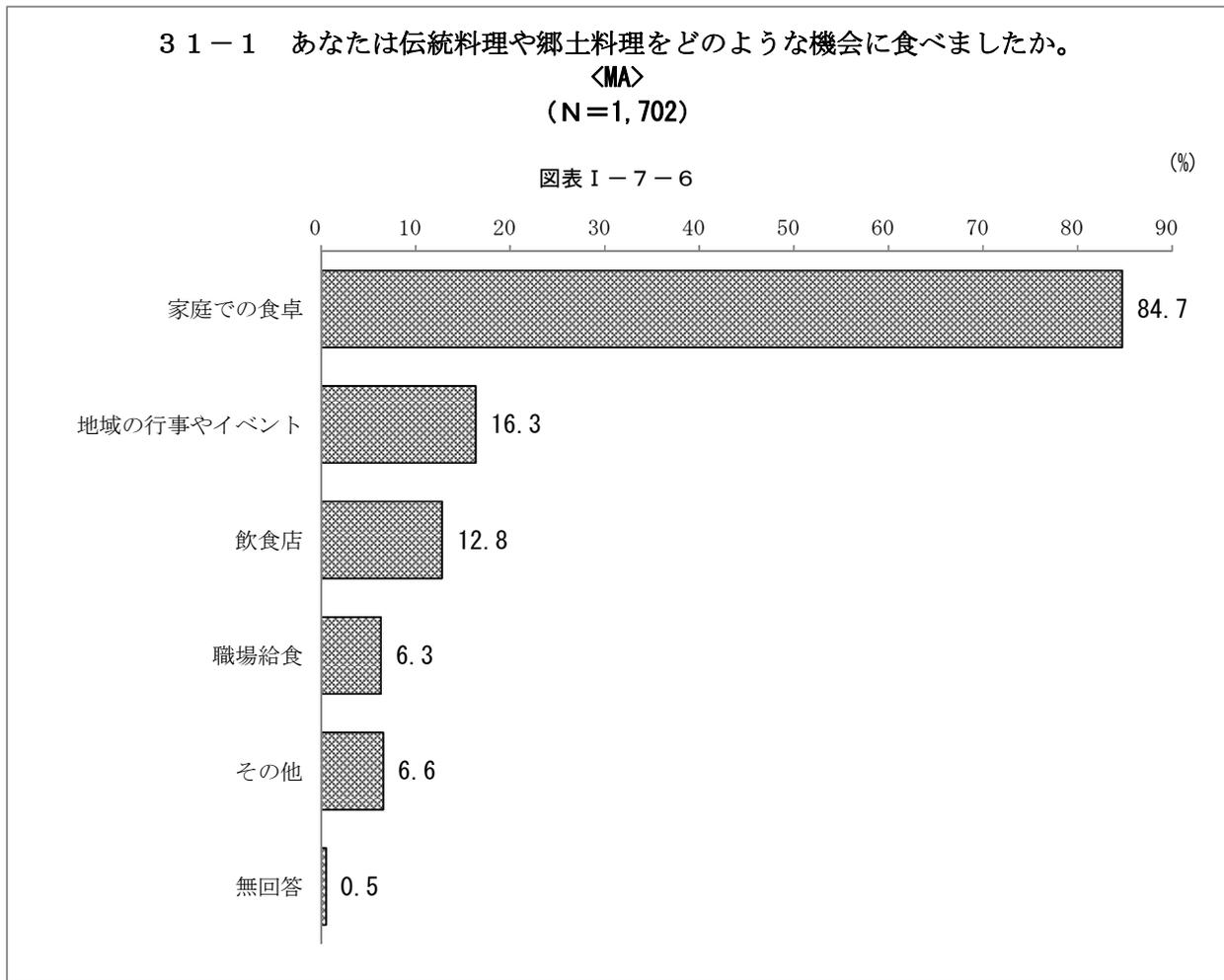
図表 I - 7 - 5



(3-1) 伝統料理や郷土料理の食用機会

31-1 あなたは伝統料理や郷土料理をどのような機会に食べましたか。

◆「家庭での食卓」が8割台半ば



伝統料理や郷土料理を食べた機会は、「家庭での食卓」が84.7%と突出している。(図表 I-7-6)

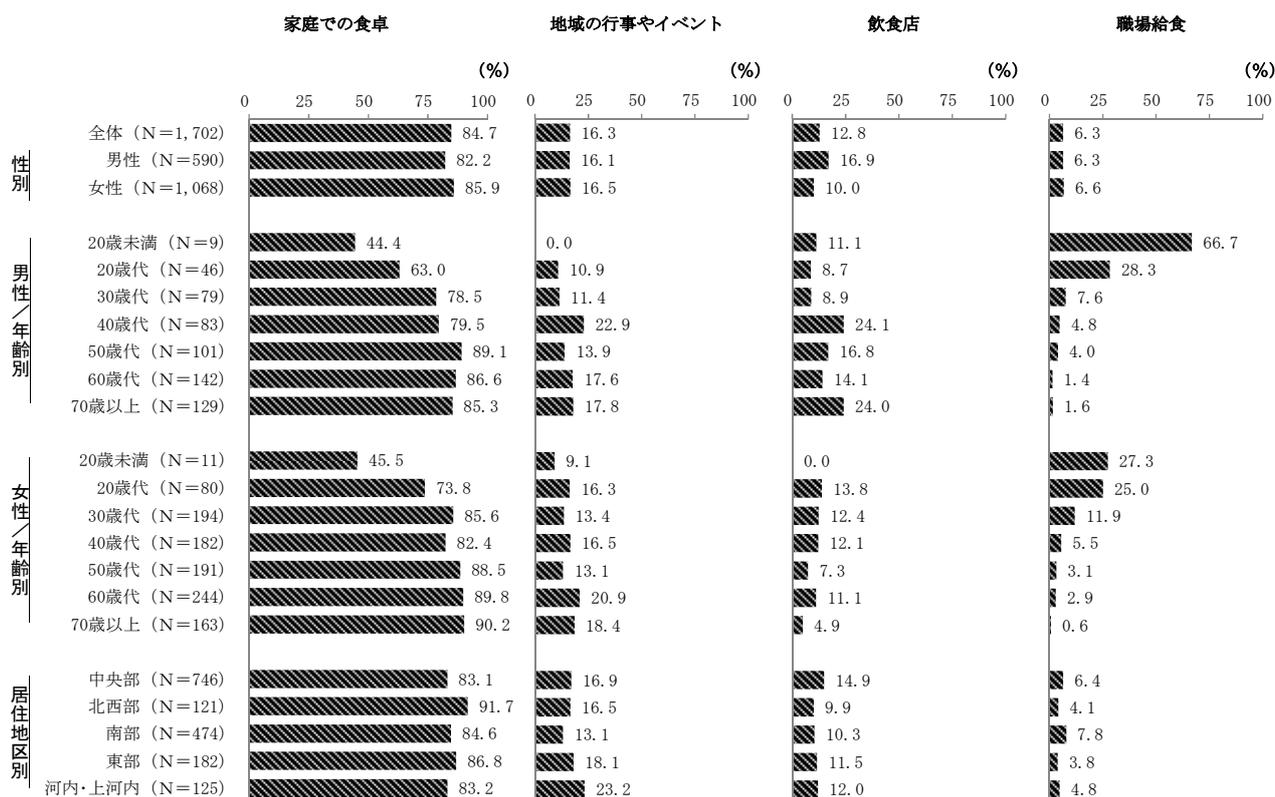
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、「家庭での食卓」は女性（85.9%）の方が男性（82.2%）より約4%高くなっている。

性・年齢別では、男女とも高齢層ほど「家庭での食卓」の割合が高くなっている。逆に、「職場給食」では、男女とも「20歳代」で2割台となっている。

居住地区別では、「北西部」で「家庭での食卓」が9割台となっており、「河内・上河内」では、「地域の行事やイベント」が2割台となっている。（図表I-7-7）

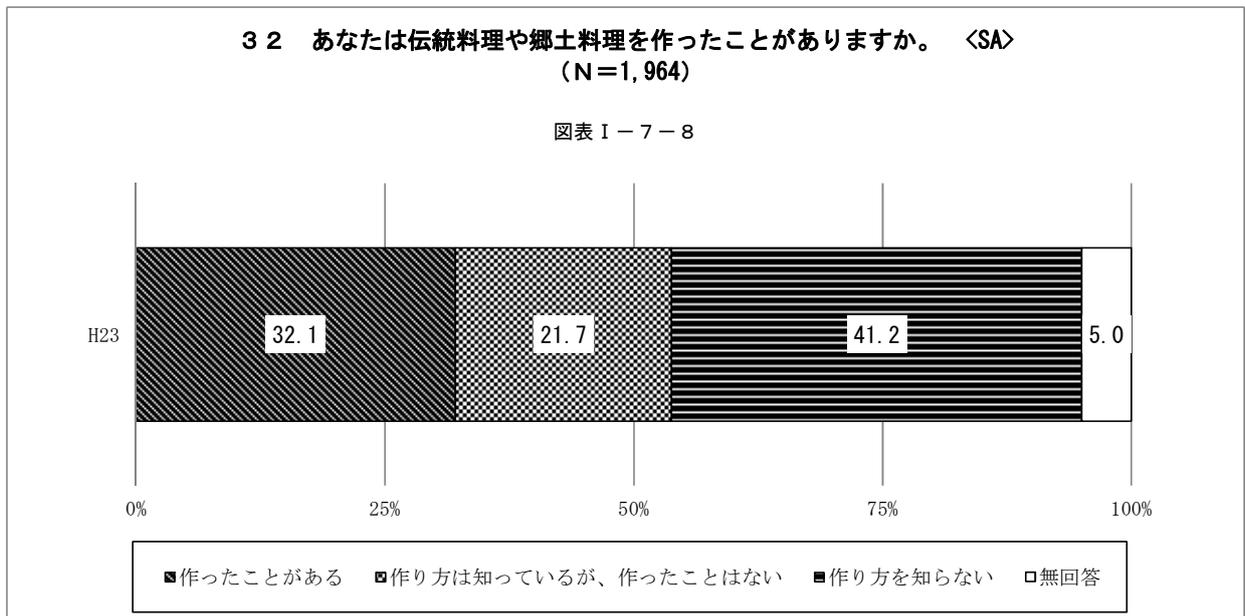
図表 I - 7 - 7



#### (4) 伝統料理・郷土料理の調理経験

3 2 あなたは伝統料理や郷土料理を作ったことがありますか。

◆ 4割が「作り方を知らない」



伝統料理や郷土料理の調理経験は、41.2%、約4割が「作り方を知らない」と回答しており、以下、「作ったことがある」(32.1%)、「作り方は知っているが、作ったことはない」(21.7%)の順となっている。(図表 I-7-8)

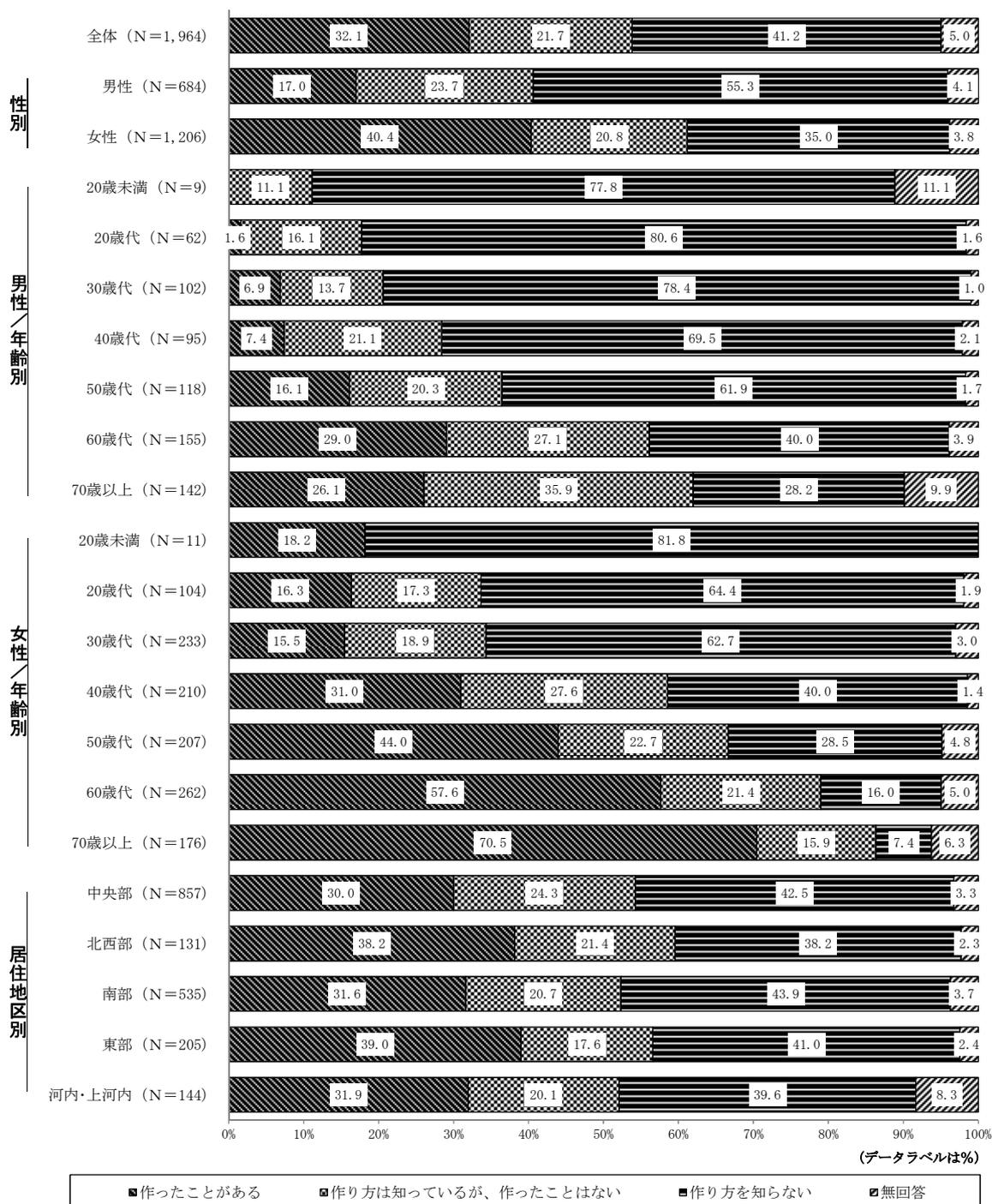
【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、男性は「作り方を知らない」(55.3%)、女性は「作ったことがある」(40.4%)の割合が高くなっている。

性・年齢別では、女性の高齢層ほど「作ったことがある」の割合が高くなっており、男性は、若年層ほど「作り方を知らない」の割合が高くなっている。

居住地区別では、全ての地区で「作り方を知らない」が4割前後となっている。(図表 I - 7 - 9)

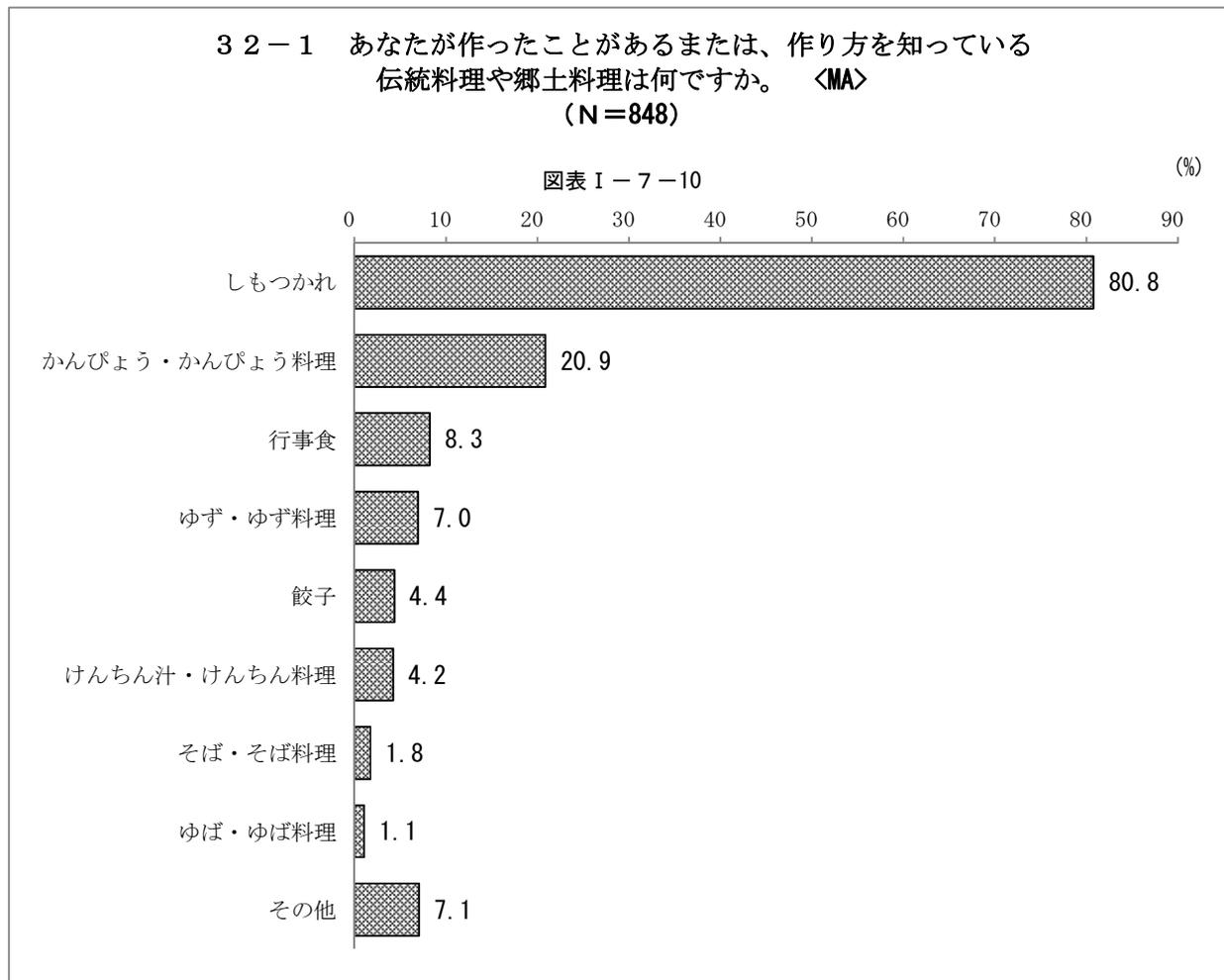
図表 I - 7 - 9



(4-1) 伝統料理・郷土料理の調理経験（記述回答）

32-1 あなたが作ったことがあるまたは、作り方を知っている伝統料理や郷土料理は何ですか。

◆「しもつかれ」が8割



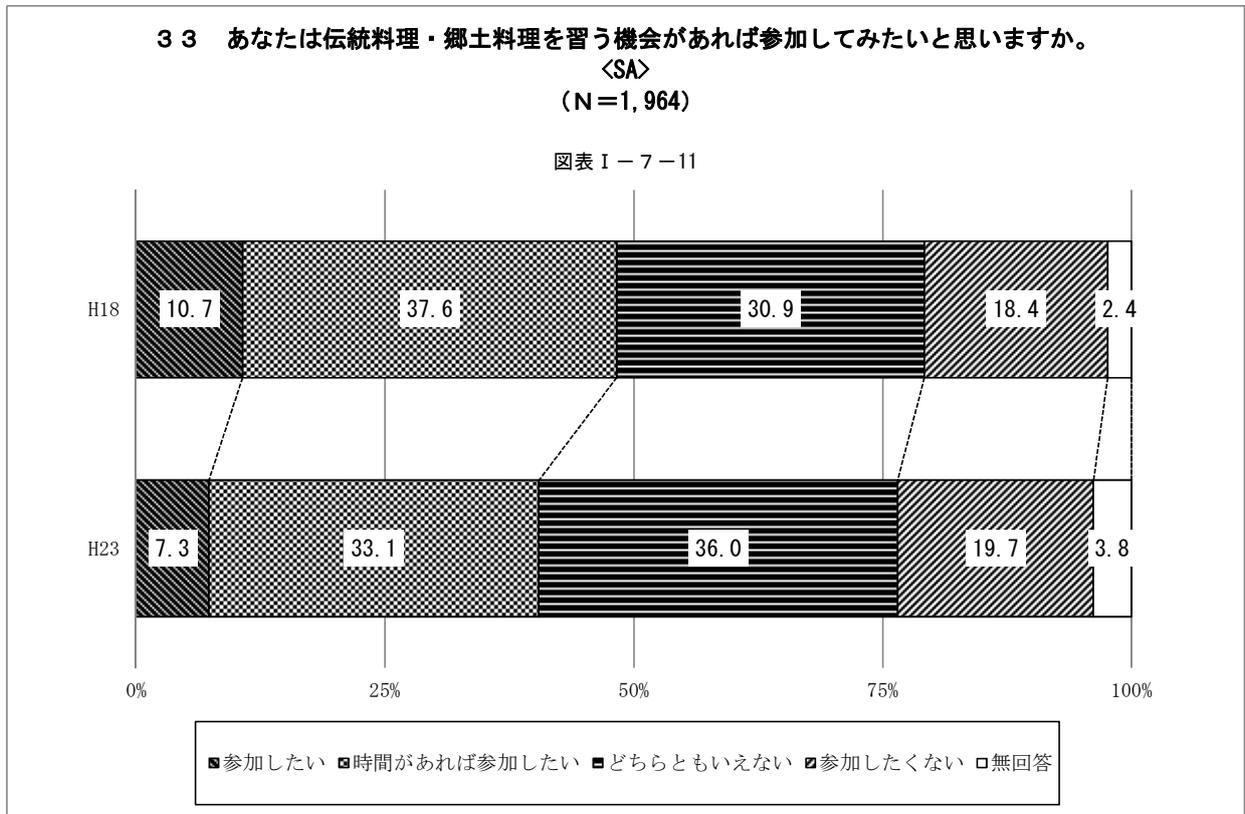
「しもつかれ」が最も多く、80.8%と突出している。次いで、「かんぴょう・かんぴょう料理」(20.9%)となっている。(図表 I-7-10)

※無回答(209)を除いて集計

## (5) 料理講習への参加意向

33 あなたは伝統料理・郷土料理を習う機会があれば参加してみたいと思いますか。

◆約4割が「参加したい」



伝統料理・郷土料理を習う機会があれば「参加したい」（「参加したい」と「時間が合えば参加したい」の合計 40.4%）と回答した人は約4割だが、平成18年度調査結果（48.3%）から見ると、微減となっている。（図表 I-7-11）

【性別／性・年齢別／地区別】

性別で見ると、「参加したい」（「参加したい」と「時間があれば参加したい」の合計）割合は、女性（47.9%）が男性（28.8%）よりも約20%高くなっている。

性・年齢別では、男性は「30歳代」（31.4%）、女性は「60歳代」（54.6%）が最も高くなっている。また、「参加したい」割合は、全年齢で女性の方が高くなっている。

居住地区別では、「参加したい」割合に大きな差は見られないが、「河内・上河内」で「参加したい」が4.2%と最も低くなっている。（図表I-7-12）

図表 I - 7 - 12

